金剛寺

金剛寺　拝領地　貸地ス。
境内　六千四百四拾八坪。

門前町屋惣間口間數　東南折廻し五拾六間貳尺。

右相願ゆゑ、境内北之方百坪、御本丸御膳所御臺所頭當時小普請組岩本内膳正組川澄新五郎へ、去る亥年○文化十二年。より當西年○文政八年。迄中年拾年季貸地貸續之儀、青山大藏少輔○幸孝。寺社奉行勤役中願出、差免置ゆ處、年季明ゆゑ付、又ゆ當西年○文政八年。より來る未年○天保六年。迄中年拾年季貸續度、且同所四拾九坪、小普請組秋月大學支配當時佐野豐前守支配新見權之丞へ、去る辰年○文政三年。より來る寅年○天保元年。迄中年拾年季貸地之儀願出、差免置ゆ處、右新見權之丞此度致ニ轉宅一ゆゑ付、年季中ニゆ得共返地いたし、跡家作其儘一ツ橋殿近習番格奥詰勝田和三郎へ、當西年○文政八年。より來る未年○天保六年。迄中年拾年季致ニ貸地一度段願出ゆ間、遂ニ吟味一、隣寺所之ものへも相尋ゆ處、障儀無ニ之旨證文差出ゆゑ付、願之通り差免、尤町屋ケ間鋪又貸等不致、年季明ゆハヽ勿論、年季之内ニても返地いたし、家作取崩ゆハヽ可ニ相屆一旨、金剛寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕ゆ旨、松平伯耆守○本庄宗發。より印形之斷手紙を以て申越ゆ。依ニ之文政八酉年八月十六日申上、御帳面張紙仕ゆ。

——古跡寺社帳

了源寺

了源寺　家屋貸繼。
拝領地
境内　千貳百坪。

右相願ゆゑ、境内西南之角より東へ拾貳間半、南之方より北へ七間半之處、下水内へ竹垣といたし、竹垣より三尺引込、南之方梁間貳間桁行拾壹間、表へ五尺之庇附、後へ壹間之下屋附、表通り入口六ケ所明、折廻し西之方梁間貳間桁行四間表へ五尺之庇附、後へ壹間之下屋附、表通り入口三ケ所明、幷ニ同境内南東之角之方、門より脇東之角迄拾三間半餘、南之角より北へ七間之所へ、表通り竹垣ニいたし、下水より三尺引込、梁間貳間桁行拾三間半、表へ三尺之庇附、後へ壹間之下屋附、表通り入口七ケ所明、右何れも爲ニ火除一家根瓦葺ニいたし、中年拾年季貸家貸續度旨、文化十二亥年松平右京大夫○鄕延。寺社御勤役中相願、御差免被ニ置一ゆ處、年季明ゆゑ付、又ゆ有來ゆ儘、當西年○文政八年。より來未年○天保六年。迄中年拾年季貸家貸續度旨願出ゆゑ付、遂ニ吟味一、隣寺所之者へも相尋ゆ處、障儀無ニ之旨證文差出ゆゑ付、願之通り差免、尤町家ケ間敷作事ゑ不ニ及一申、又貸等不爲ニ致一、紛敷もの差置申間敷、年季明ゆハヽ勿論、年季之内ニるも家作取崩ゆハヽ可ニ相屆一旨、了源寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕ゆ旨、松原伯耆守○本庄宗發。より印形之斷手紙を以て申越ゆ。依ニ之文政八酉年三月廿日申上、御帳面張紙仕ゆ。

——御朱印拝領地寺社帳

龍寶寺

龍寶寺　地所貸繼。
拝領地
境内三千六百坪。

右相願ゆゑ、境内北之方間口拾間奥行貳拾間之場所、淺草本願寺末巖念寺へ、去る亥年○文化十二年。より當西年○文政八年。迄拾年季貸地貸續度旨、巖念寺一同願出ゆゑ付、遂ニ吟味一、隣寺へも相尋ゆ處、障儀無ニ之旨證文差出ゆゑ付、願之通り差免置候處、年季明ゆゑ付、又ゆ當西年○文政八年。より來る未年○天保六年。迄拾年季貸續度旨、巖念寺一同願出ゆゑ付、遂ニ吟味一、隣寺へも相尋ゆ處、障儀無ニ之旨證文差出ゆゑ付、願之通り差免、年季明ゆハヽ勿論、年季内ニるも返地いたしゆハヽ可ニ相屆一旨、龍寶寺巖念寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕ゆ旨、太田攝津守○資始。より印形之斷手紙を以て申越ゆ。依ニ之文政八酉年十一月十

日申上、御帳面張紙仕ゐ。

東岳寺　貸地貸繼。

拜領地境内　表貳拾壹間。裏へ三拾間。

右寺再建爲助成、安永八亥年相願、門前左右地面間口拾七間奥行五間之場所へ、拾ケ年季貸家相建貸續來ゐ處、寛政四子年隱居林芳儀、其節之當住義明を及殺害ゐ之付、御仕置ニ相成、其砌門前左右地面貸家共御取上ニ相成ゐ處、年數爲經ゐ之付、去る酉年（○文政八年。）十二月伺之上、地面返被下置ゐ間、町奉行へ申談ゐ上、東岳寺へ引渡申ゐ。然る處町奉行持之節、町人共家作仕住居罷在ゐ間、家作取拂ゐゐハ得意ニ爲離れゐ段相歎、其上貧寺ニゐ寺相續も相成兼難儀仕ゐ間、右地面裏通り板塀ニ仕、去る亥年（○文化十二年。）より當酉年（○文政八年。）迄中年拾ケ年季門前家主久左衞門と申者へ貸地仕度旨、阿部備中守殿（○正精。）寺社御勤役中願出、松平伊豆守（○忠明。）へ御伺之上、願之通り御差免被置ゐ處、年季明ゐニ付、猶又當酉年（○文政八年。）より來る未年（○天保六年。）迄中年拾ケ年季貸地貸續度旨願出ゐニ付、遂吟味、隣寺所之者へも相尋ゐ處、障儀無之旨證文差出ゐニ付、願之通り差免、尤町家ケ間敷作事又貸等不爲致、紛敷もの差置申間敷、年季明ゐハヽ勿論、年季之内ニゐも、地所相返ゐハヽ、早速可相屆旨、東岳寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕ゐ旨、水野左近將監（○忠邦。）より印形之斷手紙を以て申越ゐ。依之文政八酉年五月十七日申上、御帳面張紙仕ゐ。

——古跡寺社帳

九年丙戌（○文政九年。○紀元二四八六年。）正月廿日壬寅（○壬寅、三正綜覽。）屋鋪預有り。外ニ屋鋪若干ヲ是月（○文政九年（紀元二四八六年）正月

——御朱印拜領地寺社帳

東岳寺　曹洞宗　富田大中寺末淺草新寺町

及二月（○文政九年（紀元二四八六年））ヲ以テ受授ス。（○屋敷書拔。）

屋鋪受授　文政九年正月二月左ノ屋鋪受授ヲ見タリ。

文政九戊年

四月廿日、三河口八藏上地

一、湯嶋四丁目五百拾四坪餘

（朱）當六月十二日（○文政九年）久世左京ニ渡。

正月廿二日、松平安藝守上地割殘之内

一、青山五十人町六百坪

同日、右同斷之内

一、同所百七拾八坪

正月廿二日、松平安藝守上地割殘之内

一、青山五十人町百坪

同日、右同斷之内

一、同所貳百坪

同日、右同斷之内

一、同所百坪

文政九戊年

二月五日

一、小日向服部坂上百五拾坪

但シ、無年貢地抱屋敷拜領ニ付渡。

二月十八日、岡田謙吉庄兵衞相對替

一、赤坂丹後坂上貳百貳拾三坪

同日

一、同所蛭なゝれ吉田庄兵衞ニ御預替ニ付町屋家作出張一件

殷昌期

小普請組太田内藏頭支配世話取扱

片岡八郎左衞門預地。

大御番頭　水野伯耆守（○義方。）下屋敷。

御徒目付　福岡半十郎

御代官手附御普請役格　石賀新五郎

御膳所御臺所人　奥田儀藤次

御書物同心　根岸忠太

御同朋頭　荻原林阿彌

新御番岡田勝五郎組　吉田庄兵衞預地。

同　同

同　同　人

屋鋪受授事蹟

片岡八郎左

水野義方

福岡半十郎

石賀新五郎

奥田儀藤次

根岸忠太

荻原林阿彌

吉田庄兵

二月十九日渡、太田波之丞上地
一、深川小名木川海邊新田四百三拾三坪餘

古金銀貨通用期限延長

古金銀貨通用期限延長事蹟

二月十日壬戌（○文政九年（紀元二四八六年）○壬戌、三正綜覽。）古金銀貨通用ノ期限ヲ延長ス。（○柳營日次記。撰要永久錄。本丸廻狀留。）

古金銀貨通用期間延長　又々左ノ令出ツ。

十月（○文政九年二月○中略。）

林肥後守殿（○忠英。）御渡御書付

古金銀通用之儀ハ、當三月（○文政九年。）ヨリ停止たるべき旨、去西年（○文政八年。）七月相觸候處、今以引替殘リ有之趣ニ候。遠國渡海等ニハ、通用不自由之場所、引替相殘義も可有之趣ニ付、尚又來亥年（○文政十年。）正月迄是迄之通、古金銀通用ハ、ヨリ（○文政十年。）停止ス、ヘく候間、追々相觸候通、御領ハ御代官、私領は領主地頭ニハ猶厚世話致し、最前引替所ニ差出、來亥年（○文政十年。）正月迄ニ不殘引替させ候樣可致候。若又古金銀貯置不引替者も有之ハヾ、早々可申立、吟味之上、急度可申付候。

右之趣可被相觸候。

二月十日（○文政九年。）

——柳營日次記

古金銀通用之儀、當三月（○文政九年。）ヨリ停止ス、ヘく旨、去西年（○文政四年。）相觸候處、（○中略。上文ニ同ジ。）

右之通御書付出候間、町中不洩樣可相觸ニハ。二月十一日（○文政九年。）

——撰要永久錄

二月十三日（○文政九年。）

三六二

大番頭
佐藤美濃守（○信顯。下屋敷。）

——屋敷書拔

別紙卷上
水野出羽守殿（○忠成。）御渡候御書付寫

御奏者番衆
寺社奉行衆

大目付ニ。

古金銀通用之義、當三月（○文政九年。）ヨリ停止たるべき旨、去西年（○文政八年。）七月相觸候處、（○下略。前ニ同ジ。）——本丸廻狀留

九年（○文政。）古金銀貨通用ノ期限ヲ延ス。（○中略。）

是年（○文政九年。）二月令シテ曰ク、古金銀貨ノ通用ハ、今茲（○文政九年。）三月ヨリ停止ノコトヲ令シタレトモ、遠國隔海等ニテ、通路不自由ノ地ニハ、尚未交換ニ付セサルモノアリ。因テ明年（○文政十年。）正月マテ通用セシメ、二月（○文政十年。）ヨリ停止スヘケレバ、正月（○文政十年。）マテニ交換スヘシ。若シ貯蓄シテ交換セサルモノアラハ之ヲ罪セン。（國貨令。）

——大日本貨幣史

附記、一　清水第修理

〔附記、一〕清水第修理

十三日（○文政九年二月。）

時服四ツ、。

式部卿殿家老
荒川土佐守（○義行。）　花村但馬守（○正彬。）

清水屋敷向御修復中骨折相勤候ニ付被下之。

右於芙蓉間、老中駿河守（○松平乘寛。）申渡之。

——柳營日次記（○文政略記同。）

十三日（○文政九年二月。）清水邸家司荒川土佐守花村但馬守、その館邸修復の事奉はりしによって時服を賜ふ。

附記、二　天現寺勸化

〔附記、二〕天現寺勸化

——文恭院殿御實紀

廿七日○文政九年二月○中略。

麻布天現寺

武藏國　相模國

右諸堂社大破ゟ付修復、毘沙門堂再建爲助成、右貳ケ國御府内武家方寺社町勸化御免、寺社奉行連印之勸化狀持參、役僧とも當戌○文政九年。四月より來ル丑○文政十二年。三月迄三ケ年之内、御領私領寺社領在町可ㇾ致ニ巡行ㇾ候間、信仰之輩ゟ、物之多少ゟ寄ら迄可ㇾ致ニ寄進ㇾ旨、御領ゟ御代官、私領ゟ領主地頭より、可ㇾ被ニ申談ㇾ。戌○文政九年。二月

右之通可ㇾ被ニ相觸ㇾ候。

——柳營日次記

屋鋪受授

三月二日癸未○文政九年（紀元二四八六年）○癸未、三正綜覽。屋鋪ヲ相對替スル者有リ。外ニ屋鋪若干是月○文政九年（紀元二四八六年）

屋鋪受授事蹟

三月。及四月○文政九年（紀元二四八六年）五月○文政九年（紀元二四八六年）ニ受授セラル。○相對替御書附書拔。屋敷書拔。

屋鋪受授　文政九年三月四月五月屋鋪若干ノ受授ヲ見タリ。

文政九戌年三月二日

出羽守殿○水野忠成。新阿彌ヲ以御渡、河内守○初鹿野信政。請取。

御普請奉行ハ。

松平土佐守○豊資。ハ
本多豐後守○助利。ハ
小普請組太田内藏頭支配
蜂屋十郎右衛門ハ
佐野豐前守支配
安西伊賀之助ハ

御小性組岡部丹波守組與頭
戸田平左衛門ハ
溝口備後守組
遠山小左衛門ハ
小笠原大和守組
本多鱗八郎ハ
小普請組長井五右衛門支配
山岡佐次右衛門ハ
御書院番松平内匠頭組
杉田嘉兵衛ハ
小普請組岩本内膳正支配
平岡彌次右衛門ハ
大御番内藤豐後守組
内藤碇之助ハ

山内豐資
本多助利
蜂屋十郎右衛門
安西伊賀之助

戸田平左
遠山小左
本多鱗八郎
山岡佐次右衛門
杉田嘉兵
平岡彌次右衛門
内藤碇之助

本多豐後守拜領中屋敷
木挽町築地貳千拾五坪
松平土佐守拜領下屋敷
品川壹萬六千八百九拾壹坪餘之内貳百坪
安西伊賀之助拜領屋敷
目黑五百坪之内貳百坪
蜂屋十郎右衛門拜領屋敷
本所綠町貳百坪

右願之通、屋敷相對替被仰付ゟ間、得其意、例之通可ㇾ被ニ致ㇾ。

文政九戌年四月十二日

下野守殿○高山忠裕。丹阿彌ヲ以御渡、河内守○初鹿野信政。請取。

御普請奉行ハ。

遠山小左衛門拜領屋敷
小川町貳百貳拾坪
戸田平左衛門拜領屋敷
牛込御門内貳百五拾坪
山岡佐次右衛門拜領屋敷
愛宕下四百拾九坪餘
本多鱗八郎拜領屋敷
小日向服部坂七百四坪之内貳百坪
平岡彌次右衛門拜領屋敷
表貳番町貳百四拾七坪
杉田嘉兵衛拜領屋敷
四谷内藤宿貳百三拾貳坪
小河惣左衛門拜領屋敷
四谷表大番町百四拾壹坪餘

殷昌期

他御預地拾五坪

内藤碇之助拜領屋敷
四谷内藤宿貳百八拾坪餘

中村三郎兵衛拜領屋敷
小石川小原町三百坪之内百五拾坪

服部靱負拜領屋敷
市谷田町貳百坪

水嶋爲之丞拜領屋敷
牛込東寺町貳百三拾坪

石野權之助拜領屋敷
市谷加賀屋敷四百坪餘之内貳百五拾坪餘

小澤猪三郎拜領屋敷
青山權田原百四拾貳坪餘之内六拾坪

池永鐵之助拜領屋敷
神田元誓願寺前貳百拾壹坪餘

神尾安次郎拜領屋敷
巣鴨小原町三百五拾坪

田中陳平拜領屋敷
白山御殿跡百九拾坪餘之内百五坪

阿部四郎三郎拜領屋敷
牛込御門内七百九拾四坪

曲淵大學拜領屋敷
目黒千坪

水野甲子二郎拜領屋敷
四谷内藤宿貳百坪

内藤主税拜領屋敷
深川嶋田町貳百貳拾坪餘

小普請組土屋讃岐守支配
小河惣左衛門に

大御番五嶋伊賀守組
水嶋爲之丞に

本庄伊勢守組
中村三郎兵衛に

小普請組岩本内膳正支配
服部靱負に

大御番水野伯耆守組
小澤猪三郎に

小普請組岩本内膳正支配
石野權之助に

御勘定
田中陳平に

同
池永鐵之助に

小普請組神尾豐後守組
神尾安次郎に

岩本内膳正支配
曲淵大學に

石川民部支配
阿部四郎三郎に

久世伊勢守支配
内藤主税に

長井五右衛門支配
水野甲子二郎に

小河惣左
水嶋爲之丞
中村三郎兵
服部靱負
小澤猪三郎
石野權之助
田中陳平
池永鐵之助
神尾安次郎
曲淵大學
阿部四郎三郎
内藤主税
水野甲子二郎

山内豐資
安藤筑後守
藤掛右門
三宅又吉
雨宮出雲守
大久保久六郎
近藤七郎右
尾藤高藏
遠藤龜次郎

右願之通、屋敷相對替被仰付ゐ間、得其意、例之通可被致ゐ。

文政九戌年五月六日

加賀守殿（大久保忠真）。丹阿彌ヲ以御渡、河内守（初鹿野信政）。請取。

御普請奉行に。

安藤筑後守拜領屋敷
木挽町築地四百坪

藤掛右門拜領屋敷
同所五百坪之内四百坪

三宅又吉拜領屋敷
赤坂三河臺貳百拾貳坪餘

松平土佐守拜領下屋敷
品川壹萬六千八百九拾壹坪餘之内貳百五拾坪

大久保久六郎拜領屋敷
牛込輕子坂上四百坪

雨宮出雲守拜領屋敷
牛込北御徒町貳百坪

外貳拾三坪永御預地

星藤高藏拜領屋敷
本所御弓町貳百貳拾五坪

近藤七郎右衛門拜領屋敷
谷中六百坪之内貳百坪

小池岩吉拜領屋敷
駒込片町貳百拾六坪

殷昌期

松平土佐守（豐資）に

寄合
安藤筑後守に

西丸御小姓組岡部因幡守組
藤掛右門に

小普請組佐野豐前守支配
三宅又吉に

御簾中樣御用人
雨宮出雲守に

小普請組石川民部支配
大久保久六郎に

御小性組松平但馬守組
近藤七郎右衛門に

小普請組石川民部支配
尾藤高藏に

小十人大久保彌右衛門組
遠藤龜次郎に

小池岩吉　遠藤龜次郎拜領屋敷
　　本所中之郷貳百坪
高井藏人　伴道與拜領屋敷
　　四谷内藤宿貳百貳拾坪
伴　道與　高井藏人拜領屋敷
　　淺草元鳥越四百坪
松本銚藏　渡邊恒吉拜領屋敷
　　巣鴨西丸町百五坪
渡邊恒吉　松本銚藏拜領屋敷
　　同所百坪
中島三郎右　右願之通、屋敷相對替被仰付い間、得其意、例之通可被致い。

文政九戌年

龜山左吉　五月八日、武藤金五郎足地并御預土地共
　　巣鴨火之番町四拾坪
川嶋東右　五月十一日、太田波之丞上ヶ地
　　濱町山伏井戸百三拾坪
小嶋翁助　五月十九日、本間定次郎永御預地
　　本所石原五拾九坪餘
石川泰輔　五月廿一日、松平讃岐守下屋敷之内割殘千坪之内
　　目黒貳百坪
同日　右同斷
　　屋敷拜領仕い處、大小立木七拾貳本有之、其儘御渡ニ相成請取申い。
　　五月廿一日、松平讃岐守下屋敷割殘千坪之内
　　目黒貳百坪

西丸小十人小笠原筑前守組
小池岩吉
小普請組神尾豐後守支配
高井藏人
長井五右衛門支配
伴道與
御天守下番高田九兵衛組
松本銚藏
小普請組太田内藏頭組
渡邊恒吉

——相對替御書附書拔

御留守居曲淵日向守同心
中嶋三郎右衛門
巣姫君樣添番格御侍
龜山左吉
川船方手附御普請役格元〆
川嶋東右衛門
御賄調役
小嶋翁助
同　同　人
御賄調役
石川泰輔

忠内又兵　五月廿一日
　　右同斷屋敷拜領仕い處、右屋敷内立木貳本有之、其儘御渡請取申い。
甘利斧八郎　同日、松平讃岐守下屋敷割殘千坪之内
　　目黒貳百坪
　　同日、右同所之内
　　同所百貳拾坪
鈴木岩九郎　五月二十一日
　　目黒松平讃岐守下屋敷之内
　　拜領仕い處、右屋敷内ニ立木大小共拾七本有レ之、其儘御渡ニ相成い。
池谷善三郎　同日、松平讃岐守下屋敷之内割殘
　　同所百貳拾坪
伏木六郎左　五月廿五日、工藤五郎兵衛上地
　　四谷内藤宿裏番衆町五拾坪
　　五月廿五日、三河口八藏上ヶ地
　　同所貳百九拾五坪餘

……

正月廿七日、壹岐守殿（○水野忠邦）
濱町山伏井戸太田波之丞上地添地願
　　（朱）龜山佐吉ニ被レ下。
同日、同人
四谷内藤宿三河口八藏上地同斷
　　（朱）佐木太郎左衛門ニ被レ下。

盜追捕

五月九日庚寅（○文政九年（紀元二四八六年）○庚寅、三正綜覽。）是頃府内盜多ク、夜行人ヲ刼掠ス。是日（○文政九年（紀元二四八六年）五月九日。）

殷昌期

同　同　人
式部卿殿奥詰
同忠内又兵衛
御普請役
甘利斧八郎
御普請役
甘利斧八郎
御普請役
鈴木岩九郎
御臺樣御膳所御臺所人
池谷善三郎
新御番蜷川大和守組
伏木六郎左衛門
西丸御小納戸
大嶋飛驒守
同　平岡越中守

——屋敷書拔

幕府先手松平忠房○安房守。ニ追捕ヲ命シ、更ニ令シテ巡警ヲ嚴ニセシム。○柳營日次記。本丸廻狀留。撰要永久錄。

盜追捕

相傳フ、

九日○文政九年五月○中略。

御先手松平安房守○忠房。

此節町々ニ〆夜中往來之ものに疵付、物取いたし申類之そのも有之趣ニ相聞申間、其方組江戸中晝夜相廻り、少〆怪敷者見請申ハヽ、召捕可申申。其方儀も相廻り可被申申。尤武士屋敷に入申共、附込申〆召捕月番之町奉行に可被相渡申。

右被仰付旨、於桔梗間、加賀守○大久保忠眞。申渡之。堀田攝津守○正敦。侍座。

堀田攝津守○正敦。御渡申御書付

此節町々ニ〆、夜中往來之そのに疵付物取致し申類之者も有之哉ニ相聞申間、御先手松平安房守組江戸中晝夜相廻り少も怪敷者見請申ハヽ、武士屋敷等に入申共、附込申〆召捕申樣申渡申間、得其意、向々に可被達置申。

五月○文政九年。

廿九日○文政九年五月○中略。

當分火附盜賊改加役

右被仰付旨、於御右筆部屋緣頰、加賀守○大久保忠眞。申渡之。若年寄中侍座。

御先手松平安房守○忠房。

堀田攝津守殿○正敦。御渡御書付

此節夜中往來之そのへ疵付物取致申類之者有之、世上物騷敷申。屋敷々兼〆之組合申合、別〆夜中ハ繁々相廻り、尤往來之者にも心を附、怪敷者ハ相咎、若疑敷答等いたし申ハヽ押捕、辻番所に留置、月番之町奉行に相屆可申申。町奉行ゟ請取同心可遣申間、頭支配に不及相屆引渡申樣可致申。捕違申分不苦申。

但、明地御預之面々も、可爲同樣申。

右之趣、向々に可被相達申。

五月○文政九年。

廿二日○文政九年七月○中略。

京極周防守殿○高備。御渡御書付

夜中往來之者に疵付物取致し申類之者有之、世上物騷敷申ニ付、繁々見廻り等之儀、先達〆相觸申處、此節世上物靜ニも相成申ニ付、繁々見廻り等にも不及申間、差定り申通相廻り申樣、可相心得申。

右之趣、向々に可被相達申。

七月○文政九年。

五月九日○文政九年。

別紙卷上

大久保加賀守殿○忠眞。御渡申御書付寫

御奉者番衆

寺社奉行衆

殿　昌　期

大目付に。

此節町々にて夜中往來之ものに疵付物取致しゐ類之者有之哉に相聞ゐ間、御先手松平安房守組に江戸中晝夜相廻り、○下略○前に同じ。

五月廿九日○文政九年。

大久保加賀守殿○忠眞。御渡ゐ御書付寫

御奉者番衆
寺社奉行衆

大目付に。

此節夜中往來之者に疵付物取致しゐ類之者有之、世上物騷敷ゐ。○下略○前に同じ。

——本丸廻狀留

御先手
松平安房守○忠房。

此節町中にも夜中往來之者に疵付物取致ゐ類之者有之、○下略○前に同じ。

五月○文政九年。

右之通御書付出ゐ間、町々不洩樣、早々可申繼ゐ。

戌○文政九年。五月十一日

右之通伊賀守樣○筒井政憲。被仰渡ゐ旨、奈良屋にも小口年番に申渡。

——撰要永久錄

四月廿五六日○文政九年。ノ夜カ、四ツ頃、鳥越明神ノ前裡屋ニ住ム紙屑買、古綿ナト風呂鋪ニ包ミ背負テ、三味線堀ヨリ歸ル途、柳澤信州邸ノ表門前ニテ、何者モ知レス無言ニテ脇指ヲ拔カケタリ。紙屑買アハテ、拔刀ヲ持タル手ニ、力ヲ極メテ抱キツキ、賊人々々ヨト頻ニ叫タレバ、信州ノ辻番、モトヨリ老夫ナルカ、此聲ヲ聞ツケ起タル體ニテゴソ々々トスルヲ、賊人ハ聞ツケ、即脇指ヲ打捨逃去リタリ、辻番モ曾テ出合ハサレハ、紙買爲ン方ナク辻番ヘ上リ、怖シケレハ住カマテ送リクレヨト云ユエ、番人家マテ送リト、ケタルカ、又賊ノ捨タル脇指モ持來リタレハ、能ク見タルニ、血刀ナリ、何レ人ニ創ツケタル樣子ユエ、其儘ハ置カレズ町奉行所ヘ申達セシニ、辻番ハ其處ニ指留置キ、番所ヨリ申達スヘキヲ、商人ト一同連レ返レリ迚、甚ムツカシク、辻番ハ一向知ラサル由ニテ、公邊スマズ、カノ血ツキタル脇指ハ奉行所ニ取揚ニ成シヲ、信州ノ留守居内濟ニ計ラヒ、事スミシトソ。是一事、桑名老侯中ノ人目ノ當リ見シトハ、朝四ツ過ノ事トヨ、霞ケ關三田侯九鬼氏。邸ニ往カントスル坂下ノ口ニテ、士一人小紋ノ羽織著タルカ行ク、ソノ後ヨリ一人長キ刀サシ黑キ羽織着タルカ後先キニナリ行ク。又桑名ノ家賴(來カ)ハ、ソノ後四五間下リテ行タルカ、忽チ黑羽織ノ男刀ヲ拔キ、小紋ノ士ノ脊ヨリ腹ニ刺通ホシ、刀ヲ引ヌキ鞘ニオサメテ、先ニナリ、虎ノ御門ノ方ヘ行キケル。刺サレタル士ハ、ソノマヽ倒レ、伏シタリ。正シク視テ咄シタルトソ。是一事。又小日向龍興寺ノ邊ニテ、寺ヘ出入ル町人、洗湯ニ往テ湯アミシマヒ、裸身ニテ着物ヲ手ニ持、戸口ヲ出ル。ソノ所ヲ拔テ切タリ。町人ハ即倒レタルカ、切リタル者ハ其マヽ、行方知レスト。是モ龍興寺目擊ノ話トソ。是一事。スレハ盜ニモアラズ。其餘人々ノ傳說擧ルニ遑アラズ。思ニ天魔ノ所爲ナル者カ。今一般ノ風說ナリ。

鳥越邸ノ鳶ノ者走來テ云シハ、白山ノ浴屋ニ、或夫人湯ニ往カント爲シヲ、何カニシテカ其婦カ止メシニ、聞カスシテ獨リ往シカ、其還リヲ、出口ニテ切ラレタリト。鳶カ見タリシハ首ヲ打落サレタル屍ニ、妻ト子カ取ツキテ泣居タリト。前事ト一ツカ。此度ノ事、總テカヽル次第ナリ。

殷昌期

默山氏聞テ曰、此餘此類夥タヽシ。總州上州常州邊ニハ、長刀ト稱スル溢者ヒ嘯聚シテ、村里ノ惡少ナト黨中ニ引入レ、數十人一團ヲ成シテ、鳥銃白刄ヲ振ヒ、民舍ヲ劫掠シ、婦女ヲ姦淫シ、種々ノ惡行ヲ働ク間、土浦佐倉ヘ命下リテ人數ヲ出シ、飛器ヲ以テ打拂フ。又コノ頃ハ、古河領ニモ、山林ニ聚レル賊アリテ、領主ヨリ者頭組ヒ出シテ取圍ム抔、サマ々々ノ雜說少ナカラズ。都下モ市中日暮ヨリカナ棒ヲ曳キアルキ、戌刻ヨリ冬春火警ノ時ノ如ク、木戸ヲ閉シテ、往來ヲ戒ムルヿ尤嚴ナリ。實ニコレ迄無キアリサマ何故カク殺氣ノ行ナハルヽヿナルヤ、人妖トモ名ツクヘシ。

尋テ某ノ示セル者アリ、定メシ町奉行役所ヨリ出タル鈔書ナルヘシ。

戌○文政九年。五月十五日

一、南八丁堀五丁目與兵衞店佐吉所持之家根船家前川岸ニ繫置ゆ處、右船之中ニ、年頃二十歲位ニ相見へゆ咽吭四ケ所疵受、相果居ゆヲ、朝五時頃見出、檢視願出ゆ。

五月十六日○文政九年。

一、神田松枝町往還ニテ、小柳町三丁目代地八郎兵衞店大工市右衞門、十六日○文政九年五月。暮時過、鬢先疵受ゆ由、檢使願出ゆ。

五月十九日○文政九年。

一、高輪南丁往還ニテ、左リ肩方一尺三寸程其外所々疵受、倒居ゆ者有之、名住所承リゆ處、尾張國郡不存吉野村百姓萬吉悴吉五郎ト申者ニテ、昨夜四半時何者ニゆ哉後ロヨリ罷越疵付ゆ旨ニテ、檢使願出ゆ。

五月十九日○文政九年。

一、小日向茗荷谷斧吉店金五郎ト申四十七歲ニ相成ゆモノ、昨夜六時頃、小石川御簞笥町湯屋半右衞門方ヘ、素肌ニ㊀入湯ニ罷越、歸リゆ途中、町內往還ニ㊀、何者ニゆ哉子細知ラス金五郎左腮ヨリ咽吭ヘ掛切殺、右之者ハ逃去ゆ由、檢使願出ゆ。

前ニ記セル龍興寺幷ニ鳶カ見タリト云ハ、是ナラン。鳶カ首落タルト云シハイカヽ。

五月廿九日○文政九年。

一、澁谷廣尾町甚兵衞店勘五郎儀、昨夜六半時頃、往還ヨリ助呉ゆ樣申、逃込ゆ者有之ゆニ付、見ゆ處、疵受罷在ゆニ付、尋ゆ處、兼房丁五人組持店藤助ト申者之由、用事有之、武州三田村迄參リ、歸途中ニ㊀、何者ヒシラズ刄物不見留被切掛、左鬢ヨリ耳ヘ掛ケ疵受罷在ゆ由、檢使願出ゆ。○下略。——甲子夜話

文政丙戌○九年。四月比より都下物騷

文政丙戌○九年。四月の中比より、都下夜中物騷敷、往來之者、途中ニて賊に逢ひ、或ハ手負卽死人等多く、自然と夜ハ五時過比より往來の人少く、何となく何方も淋く、物にときさまふて、追々暑氣ニ向ひ、夜見世夜商人船宿藝者等、殊之外ひまなる由。依之御觸有之、町中冬春之通夜番有之、町々木戸は五時限ニメ切、一丁〳〵送り拍子木ニて、夜廻りきびしく、にでふ去冬八○文政年。より當春九○文政年。三月迄被仰付ゆ御加役松平安房守樣、又々此度右騷敷ゆ付、御加役被仰付、晝夜嚴重ニ御廻り有之ゆ。町々ニても鐵棒わり竹等ニ終夜相廻る。

毎年正月山王權現にて湯茶有之、然る所當正月○文政九年。の託宣ニことしハ火災少く刄傷多かるへきとの告有りしと云。多人數傷害ニ逢さるその、今略してまるさに。

御觸

一、此頃於途中人へ疵付、又は盜賊沙汰等ニて、物騒敷之趣相聞ゆ。當分之内、夜中町々木戸刻限を定免メ切、往來之者拍子木ニて送り、異變ハ勿論、怪敷者共通りゆハゝ、木戸メ切捕押へ、可訴出ゆ。尤手ニ餘りゆハゝ、疵付ゆても不苦ゆ。

右ニ付木戸無之場所ハ、假木戸幷惣體自身番や張方等之義ハ、都て冬春之通可相心得ゆ。

一、名主及町役人共、度々相廻り、精々心付可申ゆ。

木戸メ切刻限ハ、夜五時よりメ切ゆて可然ゆ。

戌○文政九年。五月二十日

右之御觸出てより、町々何方ニも双傷の沙汰を恐く、たちまち靜ニ成りたる、いと有あさき支也けり。文政丙戌○文政九年。夏の初つかさより、世間殊之外騒しく、追落し切捨等の風聞以之外甚敷成て、官よりも夏に入ゆて殊更に加役阿部□□□を仰付られ、町々へも御觸出ニゐ、小路々々ニ竹埒(マヽ)を結ひ、夜に入ゆへハ、丁役人とも拍子木ニゐ不絶廻り相勤、往來の仁有之ゆへハ、一町送ニ致し、自身番へ引渡しゆ始末、言語に絶しさる騒動也き。其間様々之変も有之ゆしの、一々ハくさ〳〵しけきを記さに。慥ニ顚末をしりさるものゝミを記置ぬ。

市中嚴密。　三死紀藩。　牢屋混亂。　近藤運盡。　霄商絶蹤。
三浦難澁。　遊里寂莫。　竹内計略。　富場蕭條。　山田落涙。
安房奔忙。　成島夜辱。　黑鍬神明。　高橋經濟。　筒井辯舌。

町々こまる、名主もこまる、大家さんこまつた、(マヽ)夜うハんく。
町々こまる、名主も出やれ、名主いやでも、よしにハゐらぬ、アゝこまつさよ引ぢんく。

——北叟遺言

同○文政九年。四月上總國群盜蜂起、郡縣所々亂妨。同○文政九年。五月江戸中群盜有。○夜中往來人切害ス。御先手所々ニゐ召捕。——泰平年表

〔參考〕内廻狀留ニ、

文政九戌年六月
松平和泉守殿○乘寛。御差圖
戌○文政九年。六月五日
申渡

無宿浪人
原田助七郎

其方儀、秋元但馬守○久朝。方勤中、渡邊珍賀田邊長榮佐七源次一同酒狂之上、往來人ニ口論致掛ゆ上刀を拔威し、逃去ゆを面白存、當四月八日○文政九年。以來、四ヶ所之内二ヶ所ハ其方珍賀長榮三人、新大橋廣小路通鹽丁邊相近ゆ節、往來之者ニ珍賀長榮理不盡ニ突當、口論致懸、一同及悪口ゆ上、其方帶居刀茂拔威し、一ヶ所ハ其方長榮兩人、元大工丁河岸罷通ゆ節、侍體之者酒狂之様子ニて理不盡ニ長榮ニ突當、口論ニ相成、刀茂拔合ゆ處、侍體之者打掛りゆニ付、兩人共逃去、一ヶ所ハ其方珍賀佐七外一人、本所松井丁二丁目相近ゆ節、初太郎義町駕籠ニ乘通懸ゆ、珍賀義理不盡ニ駕籠之挑灯茂蹴上ケ、棒を押、御用向ニゐ相用ゆ哉之旨相尋ゆ上、初太郎茂駕籠ゟ出ゆ様申掛、其方佐七外一人ハ駕籠ニ手を掛ゆ處、初太

殷昌期

郎逃出しゆ付、駕籠昇吉五郎儀助に初太郎を尋可ゝ參旨申、其方義刀之柄に手を掛、内に有之ゆ右單物を出し投散し、一同逃去ゆ段、不屆ニ付、遠嶋申付ゆ。

秋元但馬守坊主
田邊長榮

其方儀、酒狂之上往來人に口論致懸、刀を拔威し、往來之その驚逃去ゆを面白存、當四月八日〇文政九年以來町方往還三ヶ所之内、二ヶ所ハ其方助七郎珍賀理不盡ニ突當、口論いたし懸、一同惡口及ゆ上、助七郎義、帶居刀を拔威し、一ヶ所ハ其方助七郎兩人元大工丁河岸相通ゆ節、侍體之者酒狂之樣子ニ而理不盡ニ其方に突當ゆ付、口論ニ相成、侍體之そのそ刀を拔付、其方助七郎を同樣拔合ゆ處、右侍體之者打懸りゆ付、逃去ゆ段不屆ニ付、遠嶋申付く。

深川森下町家主安兵衛伜
初太郎

小梅代地丁小三郎店
吉五郎

中郷原庭町久太郎店
儀助

其方共、右一件ニ付相尋ゆ處、不埒之筋も無之間、無構。

秋元但馬守家來
山本勇七郎

田邊長榮遠嶋申付ゆ。右ハ松平和泉守殿〇乘寛依御差圖申渡間、其旨主人に可申聞。

住所不知佐七源次今以行衛不相知間、一同其旨可存。

右町役人

右之通申渡候間、其旨可存。

戌〇文政九年六月御用番松平和泉守樣〇乘寛御勝手に罷出申述ゆ處、鈴木百度兵衛預り置、御退出に罷出ゆ樣申聞、則罷出ゆ處、書面御返却、心覺書取相渡事。

和泉守樣但馬守兩敬也。

但馬守樣御家來茶坊主田邊長榮遠嶋被仰渡ゆ付、御差扣可被成御伺ゆ哉ゆも御座ゆ得共、差的例見當兼ゆ。先年足輕重追放輕追放被仰渡ゆ節、御差扣御伺無御座ゆ付、此度を御伺不被成心得ニ御座ゆ。此段各樣迄御内慮奉伺ゆ。以上。

六月六日〇文政九年

「差扣伺差出ニ不及事。」

秋元但馬守樣御家來
松平貞右衛門

文政八酉年十月十一日御用番松平和泉守樣〇乘寛に伺、翌日十二日公用人川住市右衛門を以御附札相濟。

但、十月九日〇文政九年御勝手に罷出、小熊與喜丞方に面會、御内慮伺差出ゆ處、御直名ニて差出可然旨被申聞ゆ間、享和中於山形騷動有之相伺ゆ類例有之爲見ゆ處、類例も有之ゆハゝ御家來名前ニて可差出旨被申聞、則左之通差出。

但馬守武藏國領分村々之内、近邊他領ニて狼籍者大勢寄集、飛道具等持之、騷立ゆ趣ニ相聞ゆ。何故寄集ゆ哉、右分兼ゆ得共、此節ハ相鎭ゆ由御座ゆ。此以後右體騷立領分内に押來ゆハゝ、役人共承糺、利害申聞ゆるも不相用不法相働手向等仕ゆハゝ、討捨ニ成可仕、其上ゆ成難鎭節は、鐵炮ニて打拂、品々寄ゆハゝ玉込相用ゆるも不苦ゆ哉。但馬守在邑中ニ付、此段奉伺ゆ。以上。

十一月十一日〇文政九年。

秋元但馬守家來
山本勇七郎

御附札

可ゝ爲ゝ伺之通ゝい。時宜ニ寄玉込をも相用ゆ樣可ゝ仕ゆ。

——內廻狀留

因ニ記ス。

文政九戌年九月

一、長脇差等帶ゆ者之麦

文政九戌九月御書付

近來無宿共、長脇差を帶、又ハ鑓鐵炮等持歩行、在々所々ニおゐて及狼藉、右を見眞似、百姓町人共之內ニも、長脇差を帶、同樣之所業ニ及ゆその、是迄追々御仕置ニ相成よいへ共、猶不相止增長致し、黨を結ひ押歩行ゆ趣も相聞、不ゝ輕不屆之至ニゆ。依ゝ之以來右體鑓鐵炮等携ゆそのゝ勿論、長脇差を帶又ハ所持いさし歩行ゆその共ハ、惡麦之有無、無宿有宿之無ゝ差別、死罪其外重科ニ行るゝ間、其旨相心得ゆ樣、關東在々高札場幷村役人宅前ニ張置可ゝ申ゆ。

一、無宿ハ勿論、百姓町人等長脇差を不ゝ帶樣、御代官領主地頭ニて厚世話致し、若違背之その有ゝ之ニれゐてハ、罪科之有無ニ不ゝ拘、召捕、公事方御勘定奉行ニ可ゝ被ゝ差出ゆ。

右之趣、關東在々、御科ハ御代官、私領ハ領主地頭ニ可ゝ相達旨、水野出羽守殿〇忠成。御書付を以被ゝ仰渡ゆ間申達ゆ。以上。

——奉行留書

今般水野出羽守殿〇忠成。被ゝ仰渡ゆ御書付之趣を以、長脇差を不帶樣、領主地頭ニて世話いたしゆを違背之者召捕ゆ節、差出方之儀、三千石以上之面々ハ、右之趣早速拙者共月番ニ御屆、被召捕ゆものハ、目籠ニ入、道中不ゝ取逃樣手當致、村役人差添、右月番ニ御差出、尤江戸着前日御申聞、三千石以下ハ、召捕被ゝ置ゆ段、拙者月番ニ御屆ゆハヽ、差出方之義、其節可ゝ及御達、尤御支配向知行內ニて召捕その差出之節も、其頭支配ニ屆ニ不ゝ及、召捕ゆ地頭より、直ニ拙者共月番ニ御屆ゆ樣、御達之事。

右之通御心得、御支配之內、關東ニ知行給知有ゝ之御分ニも、御申渡置ゆ樣存ゆ。

——觸留

文政九年戌御渡

御勘定奉行伺

石川主水正〇忠房。曾我豐後守〇彌助。

一、長脇差を帶ゆ無宿共御仕置、當分改革之儀評議。

當月〇文政九年六月。七日評議ハ仕ゝ可ゝ申上旨被ゝ仰聞、御渡被ゝ成ゆ御勘定奉行相伺ゆ書面一覽仕ゆ處、近來惡黨無宿共、次第ニ相增、長脇差を帶、中ニハ四五尺位之大刀鑓鐵砲差込等所持いたしゆその、關東在々徘徊ハ仕ゝ、時々黨を結ひ、喧嘩を催し、又傷ゝおよひ、農業等ニ罷出ゆ女子共を取押强姦れよひ、或は寺院百姓家等ニ相越、品々難題申掛、金錢貪取、又ハ途中ニれゐて及殺害ゆ故、農業ニ罷出ゆ儀も安心不ゝ致、夜分も快寢いたし兼、良民悉難澁仕、其上百姓共之內ニも、若きそのハ心得違いさし、右惡風を見眞似、長脇差を帶惡麦いたしゆその追々相增ゆ間、御仕置之儀、是迄之通ニてハ風儀立直りゆハ勿論、惡黨共相減ゆ樣ニハ至り申間敷、畢竟右樣長脇差を帶ゆ惡黨共召捕、吟味之上平常之强惡格別之聞有ゝ之

いもの等ハ、佐州ニ水替人足として差遣いへ共、是以當時之姿ニてハ懲惡之筋ニ不相成い間、此上格別之嚴科ニも被處いハゝ、惡黨共恐怖いたし、百姓共風儀も自ら惡黨ニ不移樣罷成、無宿共之間ニも改心いゐしいその出來、良民安堵ゐゐしい樣可成行哉ニ付、長脇差帶又ハ帶い儀無之抔申立いその召捕い節、所持ゐゐし居、惡戾小携い分ハ、當分之内一般ニ死刑ニ被仰付いハゝ、取締ニも相成、風儀立直り可申哉ニ付、當分之内前書見込之趣を以、長脇差を帶し惡戾いたしいその〻御仕置相伺、尤伺之通被仰渡いハゝ、長脇差帶歩行惡戾ゐゐしいその共ハ、重刑ニ被行い段、關東在々ニ觸置、其後召捕いその分改革之趣を以相伺い樣可仕哉之段、相伺申い。

此儀關東在々取締方、前以御勘定奉行ニれゐて精々心附い儀ニ御座いへ共、追々惡風增長いさし、既ニ當二日（文政九年六月。）以來ハ、多人數黨を結、鑓鐵砲等をも所持いさし、強惡相募い次第ニい上ゐ、所銓一通り之儀ニて風儀立直り良民安心いたしい樣ニハ相成申間敷、尤長脇差を帶し、又ハ所持いゐし居いとも、左迄之惡戾不顯その一般ゟ死刑ニ被處いハゝ不穩樣ニも御座い得共、如何樣強惡有之いても、其場處ニて即座ニ召捕い歟、或ハ面體名前等兼て相分有之い分ハ格別、先ツハ誰々仕業ゟ疑ゟ取留い儀無之、左いへハ嚴敷吟味可仕手掛無之いニ付、長脇差所持いさしいそのニても、一通博奕等白狀之趣を以、敲追放等之御仕置申付い戾故、良民之惱不相止、追年惡黨相增い儀ニ有之、素々身分不相應之長脇差ヲ好い程之その共ニいへハ、強惡いたし間敷樣無之、右樣之その嚴科ニ被處い段ハ、萬民之害を除きいゐ已ゟ、無宿共恐怖改心いさし、百姓共も惡業ニ不押移、年月不立内風儀立直り、一殺多生ニて、則格別之御仁惠ニ可有御座只今迄之姿ニゐハ、關東在々手廣之儀、旁惡黨共減可申期相見不申い間、長脇差を帶又ハ所持いさし歩行惡戾いたしいその共ハ勿論、死罪其外重刑ニ被行い旨、關東在々ニ相觸、其段認、村毎高札場幷村役人宅前ニ悉張置い樣申渡、其後召捕いそのゟ、當分死刑之積、且長脇差を帶又ハ所持いさし歩行いゐ已ニて、外ニ惡戾無之分ハ、遠島之積、取調相伺死刑ニ相成い分ハ、其場所々ニ科書捨札をも爲建い方可然段申上い處、當時召捕吟味いさしいその之内ニも、長脇差を帶、格別之惡黨ニて顯い處ニゐハ、死刑等ニ不至そのも可有之。然ルを觸後ゟ全く之改革ニ相成候てハ、自ラ不釣合ニゐ、一體之姿如何ニ付、前書評議いさし申上い趣を以、此節ゟ相伺い方ニ可有之哉、今一應評議いゐし可申上旨、被仰聞い。

此儀、召捕置い内ニハ、重立い惡黨無宿共も可有之を、觸いさしい後召捕いその〻御仕置改革有之いゐハ、おのつゝから一體之姿不釣合之樣ゟ相成、如何と之御趣意、御尤ニ奉存い。依之勘辨評議仕い處、先達ゐ佐州水替人足ニ差遣い無宿共等、彼地逃去いその御仕置死罪之積評議いたし申上い節、是迄

右體之類、其儘佐州に差歸に相成ゆも有之ゆ間、以來逃去ゆへハ死罪被仰付ゆ段申渡置、其後逃去ゆそのゟ死罪被仰付ゆ方に可有之哉之段、既に御沙汰之趣を御座ゆ處、右に不及死罪と申上、其通相濟ゆ儀も有之ゆへ共、佐州之儀ハ全體彼地逃去ゆそのハ死刑に可相成を、先年其儘差歸に相成ゆも有之ゆハ、右例不宜ゆ間、以後共不取用積にて、素々御仕置改革之筋に無之、此度之儀ハ全く當分御仕置相改りゆ支に付、更に右次第不觸置、格別之嚴刑に被行ゆてハ、何とも不穩哉にて、勿論當時召捕置ゆその共之内にハ、直樣改革之御仕置に相成ゆ方、見懲之趣意に相當りゆそのも有之ゆへ共、凡百二三十人程も捕置追々差出ゆ儀に付、素ゟ死刑に可至その又ハ强て惡支に不染ものも多分可有之哉、左ゆへゑ、一般に死罪幷遠島に被行ゆも如何に可有御座、併召捕置ゆ内にハ、親分抔と唱、重立惡支可相企程之もゝ、其外强惡敷之筋相聞ゆものも可有之處、右樣之そのにても召捕ゆ上、格別之惡支不相聞故を以、是迄之御仕置に相成、觸後召捕ゆそのハ却ゐ右子分或は百姓共之内見眞似いたし、長脇差を帶、聊之惡支に携ゆ迄にても、一概ゟ死刑ゟ被處ゆゐも、御沙汰之通不釣合之儀に御座ゆ間、觸以前召捕ゆそのにてゟ、親分なと相唱、長脇差を帶、惡支仕ゐしゆゝもも、追放ゟ相當り ゆ類、遠島に可相成ハ死罪抔、夫々其始末に寄是迄之見合に不及、勘辨之上御仕置相伺、其餘一通り長脇差を帶、博奕等に携ゆ迄にて、爲差惡支無之そのハ、是迄通之御仕置申付、尤右之分も可成丈佐州又ハ同處に差遣ゆ儀差支ゆハ、年限等を定免、人足寄場に差遣ゆ樣取計、觸後召捕ゆそのゟ、先日評議仕申上ゆ趣を以、御仕置全く改革相伺ゆ樣可仕ゆ旨、被仰渡ゆ方、可然哉に奉存ゆ。

戌六月

當六月二十六日〇文政九年。再應評議いたし申上ゆ。御勘定奉行相伺ゆ長脇差を帶惡支いたしゆ無宿共等、御仕置、當分改革之儀、當時召取置ゆもゝ内、其所業に隨又ハ人物に寄、御仕置勘辨仕相伺ゆ積申上ゆへ共、左ゆゑハ長脇差を帶惡支いたしゆそのゝ御仕置、品に寄同罪狀之ものゝよても一樣ならぬゟ委に相成、當分改革之御仕置品々有之樣にて如何ゟ有之、畢竟長脇差を帶し在々及横行農業妨に相成ゆに付、右之類相止ミゆ樣にゟ之趣意ゟて、當分御仕置改革之譯に付、當時召捕置ゆそのゟ觸通之御仕置ゟ相成ゆ歟、又ハ觸不致以前ハ御定等を以都て是迄通之御仕置申付ゆゟ歟いたしゆ方、一定可致、猶勘辨評議いたし可申上旨被仰聞ゆ。

此儀、觸以前彼是品を付御仕置相伺ゆそ一樣ゟらぬゟと此御趣意、御尤に奉存ゆ。元來ハ是迄之通御仕置申付ゆ段、其罪狀相當に御座ゆへ共、惡黨共追々超過およひゆゟ、當分改革被仰付ゆ樣に付、可成丈先ツハ是迄之御仕置申付ゆ方に可有御座、然る上も最初評議いたし申上ゆ通、關東在々に相觸、其段認村毎高札場幷村役人宅前に悉張置ゆ樣申渡、其後召捕ゆそのゟ當分死刑之積、且長脇差を帶又ハ所持いたし歩行ゆゐゑにて、外に惡支無之分ハ遠島之積、死刑に相成ゆ分ハ其場處々に科書捨札をも爲建可申儀ゟ相心得ゆ樣、被仰渡、可然哉に奉存ゆ。

戌〇文政七年。七月

當七月廿六日〇文政九年。再應評議いたし申上ゆ御勘定奉行相伺ゆ長脇差を帶ゆその御仕置之儀に付、再三調申上ゆ趣、一通りハ相聞ゆへ共、長脇差を帶又所持いたし惡支いゐしゆゟ申内ゟも、聊之惡支之そのも可有之、又ハ徒黨抔いたし惡事重立可有之處、一般に死罪に成ゆを不穩、其次第によつて嚴敷吟味之上、

死罪ゟも遠嶋ゟも追放ゟも被行ゆ方相當ゟも可有之哉。左ゆハゝ當時召捕置ゆ悪黨共ゟ、嚴敷吟味之上、夫々御仕置申付、其次第建札いたしゆハゝ、觸ゟも及聞敷哉、猶今一應評議いたし可申上旨御書取を以被仰聞ゆ。

此儀、長脇差を帶又ハ所持いたしゆ無宿共等、一般ニ死罪ニ成ゆも不穩其次第ニよつて、嚴敷吟味之上、死罪遠島追放ニも被行、右之趣建札いたしゆハゝ、觸ゟも及申聞敷ゟ之御趣意、御尤ニハ奉存ゆへ共、是迄迚も長脇差を帶ゆその共之内、其罪科ニ寄死罪又ハ遠島追放等ニも相成ゆ儀ニて、併今般御沙汰之趣相含、聢ゟ不取留儀ニても、強悪之聞有之その等ハ、再應嚴敷吟味いゐしゆハゞ、中ニも隱悪之次第白狀およひゆその多くゆへハ、嚴重之吟味およひゆとも、聢ゟ不顯悪支ハ容易ニ可申立とも難申儀ニて、且右之姿ニてハ格別御仕置相改り增長いゐしゆ悪黨共恐怖いゐし、良民之災害はぬのゑゆ樣ニも相成申間敷哉。嚴科ニ被處ゆ儀ハ素ゟ不好儀御座ゆ得共、迚も一通之儀ニてハ超過之悪黨共追々相減、良民患ひを被遁ゆふハ至申間敷儀ニ付、一旦之處も不穩樣ニゆへ共、再應申上ゆ通、當分嚴科ニ改革有之ゆも、矢張御仁惠之御趣意ニ相當りゆ儀ゟ奉存ゆ。勿論右之通ふゆ迚、長脇差を帶ゆその聊之悪支白狀ゐるゟて、強ゐ吟味ニ不及、死罪ゟ可奉伺筋ハ無御座、逸々嚴敷吟味仕、悪支之次第可成丈白狀之趣を以、吟味詰、且當時召捕置ゆ悪黨共之内も、同樣吟味仕、長脇差を帶悪支之次第死罪以上ニ相成ゆ分ハ、此節ゟ其場所々ゟ科書捨札爲相建ゆ樣取計、其餘ハ是迄追々評議いゐし申上ゆ通、御仕置改革之趣關東在々ゟ相觸、其後召捕ゆその ゟ長脇差を帶悪事いたしゆその ハ當分死刑之積、且長脇差を帶歩行、又ハ所持いゐしゆゐ已ニて、外ニ悪支無之分ハ、遠島之積、死刑ニ相成ゆ分ハ矢張其場所々ゟ科書捨札爲相建可申儀ゟ相心得ゆ樣、被仰渡可然哉ニ奉存ゆ。

戌〇文政九年。九月

關東筋近來風儀不宜その追々多分罷成、殊ニ當春夏分ハ別て悪業增長いたし、良民之害不少、品々不屆相聞、處々ゟ訴等も有之ニ付、御勘定奉行より奉伺、關東取締差出ゆ御代官手附手代人數も相增、其上御向領主々ゟ申談、人數爲差出、右出役手附手代共ゟ申談次第、領主家來人數差出ゆ樣相達ゆ儀ニて、其内ニハ大勢相集り、山籠抔いゐし、飛道具を以捕方之そのを相妨ゆ抔と、不輕不屆も御座ゆニ付、捕方之その共も手餘りゆハゝ鐵砲を以打拂、又ハ切捨ゆとも不苦趣、伺之上相達しゆ程之儀ニて御座ゆ處、初秋迄ニ追々召捕又ハ逃去、先此節ハ凡穩ニ罷成ゆ儀ニハ御座ゆへ共、當年之如く在方變死人等之御屆諸向ゟ申上、并向々ゟ屆多之儀ハ、是迄及承不申、右等ニ付ても一通り之儀ニても、此上風儀相直りゆ支ハ無覺束、依之御勘定奉行一同ゟ長脇差を帶しゆその、當分御仕置改革之儀申上ゆ儀ニ有之、右ニ付追々評議之趣兩度迄申上ゆ處、此度猶又被仰聞ゆ御趣意ゟ付、評議之儀ハ別紙を以申上ゆ。一體當年ゟと之風儀ニゐて、一通之儀ゟても制止屆兼可申哉ニ奉存ゆ。右山籠等も仕ゆ樣之風儀ニても、若ハ變ニ乘しゆて根深き悪黨かと頭取ゆ樣之儀を生しゆて、品ニ寄身柄之御役人ニても被差遣、臨機之取計即時ニ差圖不仕ゆてハ、手後レ罷成ゆ抔申樣之次第ニも至りゆても不容易事ニ有之、依ゐハ細微之内ニ手强捽懲之御示教御座ゆ方ニ奉存ゆ。左ゆへハ良民若輩之族相恐、悪臭ニ染不申ゆ樣可罷成儀哉ニ奉存ゆ。都ゐ良民之强悪黨之方を恐怖ゐたしゆ姿ニ罷成ゆへハ、おのつゐら御取締ハ附ゆ儀ニ御座

い處、此節ハ右ニ返し(ママ)罷在いニ付、追々惡黨聽い支ニ御座い間、手强ニ遇い樣ニも可ゝ有ゝ御座ゝいへ共、右ハ却て良民御救、惡黨御教諭之御仁政ニ可ゝ有御座ゝと奉存いニ付、猶別紙を以此段申上い。

戊(文政九年)八月

評定所一座

御書取

長脇差を帶しいその御仕置之儀ニ付、再三取調被申聞い趣、一通りハ相聞ゆへ共、長脇差を帶又ハ所持いるし、惡支いるしいな申内ゟも、聊之惡支之そのを可ゝ有ゝ之、又ハ徒黨ゟといゝし惡支重大も可ゝ有ゝ之處、一般ニ死罪ニ成いを不ゝ穩、其次第ニよつて嚴敷吟味之上、死罪ニも遠島ゟも追放ゟも被行い方相當ニも可有ゝ之哉。左いハゝ當時召捕置い惡黨共より、嚴敷吟味之上、夫々御仕置申付、其次第建札いたしいハゝ、觸ゟも及申間敷哉、猶今一應評議いたし可ゝ被申聞ゝい支。

文政九戊年　——御仕置例類集

御勘定奉行に。

無宿共勿論、百姓町人等、長脇差を帶し、又ハ所持致し歩行い者共ハ、向後死罪其外重科ゟ可ゝ行旨、關東在々に相觸、其段高札場幷村役人宅前にも張置、其後召捕いそのより、長脇差を帶し又ハ所持歩行、惡事致しいそのハ死罪申付、其場所に之科書捨札爲ゝ建、或ハ長脇差を帶し又ゟ所持致しいゟ已ニて、外ニ惡事無ゝ之分ハ、遠島之積、當分御仕置可ゝ被ゝ相伺い。尤當時召捕置い惡黨共も、嚴敷吟味之上、夫々御仕置被ゝ相伺ゝ、重科之ものハ、其次第場所々に建札致しい樣可ゝ被致い。

一、無宿ハ勿論、百姓町人等長脇差を不ゝ帶樣、御代官領主地頭ゟて厚く世話致し、若違背之その於有ゝ之ハ、罪科之有無ニゟゝハらに召捕、公事方御勘定奉行に差出い樣、關東在々御料ゟ御代官、私領ハ領主地頭に可ゝ被ゝ在(ママ)い。召捕差出いハゝ、嚴敷吟味之上、可ゝ被申聞ゝい。

右之通ニい迚、長脇差を帶しいそのの聊之惡事白狀のミニて、强ゐ吟味ニ不及、死刑ニ可ゝ被ゝ伺筋ニ有ゝ之ましくい間、逸々嚴敷吟味致し、惡事之次第、可成ゟけ白狀之趣を以御吟味詰い樣可ゝ被致い。

九月(文政九年)

右長脇差之儀、關東在々近來增長致し、良民難儀之趣之由、追々相聞いニ付、出羽守殿(水野忠成)より御勘定奉行に御沙汰有ゝ之ニ付、品々相伺、依ゝ之評定所一座再評議出し、右評議書に伺付札。

書面長脇差ヲ帶しい惡黨共御仕置之儀、評定所一座ニも度々評議爲ゝ仕い處、別冊之通申聞、猶又此度別段存寄書差出い。右類之者、近來追々增長致し、良民之難儀不ゝ少、只今迄之姿ニてハ、彌惡黨共減可ゝ申期も無ゝ之、無據次第ニ御座い。手强遇い樣ニハ可ゝ有ゝ之いへ共、一通り之儀ニても、超過之惡黨共追々相減、良民患ひを被ゝ遁い樣ニハ至り申間敷、細微之内、格別之御仕置申付い間、取締之一筋ゟも相成可ゝ然哉。左いハゝ、不ゝ敎して嚴科ニ被ゝ處いも不ゝ穩い間、觸書案之通、關東在々に爲ゝ相觸、別紙之通、御勘定奉行に申渡い樣可ゝ仕哉。且無宿ハ勿論、百姓町人等、長脇差を不帶樣、御代官領主地頭ニて厚く世話致し、若違背之その於有ゝ之ハ、罪科の有無ニゟゝハらに召捕、奉行所ゟ差出い樣、關東在々、御料ハ御代官、私領ハ領主地頭に、御勘定奉行ゟ爲相達い樣可ゝ仕い。

右書面ニ觸書二通添、出羽守殿(水野忠成)より奥に出、伺之通被仰出之。

關東在々に相觸い趣

近來無宿共長脇差を帶し、又ハ鑓鐵炮等所持致し、在々所々ニおゐて狼藉およひ、且石を見眞似、百姓町人共之内ニも、長脇差を帶し、同樣之所業ニ及ひゆ者有ゝ之、是迄追々御仕置ヲ相成ゆへ共、猶不相止、增長致し、黨を結ひ押歩行ゆ趣も相聞、公儀を不恐仕方、不屆之至ニゆ。依ゝ之以來右躰鐵炮等携ゆその外勿論、長脇差等を帶し、又ハ所持致し歩行ゆその共ハ、惡事之有無、無宿有宿之無差別、死罪其外重科に行ハるゝ間、其旨可相心得者也。

戊〇文政九年。九月

一、文政十一子五月長脇差を帶ゆその共御仕置、當分御改革之儀被仰出、其後追々御改革之趣を以、御仕置申渡ゆへ共、いつまても左樣可有儀ニも有ゝ之間敷趣、公事方御勘定奉行ゟ御沙汰有ゝ之ゆ處、評議いたしゆて申聞ゆ書面ニ、伺付札。

書面長脇差を帶しゆ惡黨共御仕置之儀、去々戊年〇文政九年。伺之上、申渡ゆ處、追々取締可申御仕置舊復之期之處相尋ゆ處、書面之通、申聞ゆ間、伺之通相心得ゆ樣、可申渡哉。

右伺之通被仰出、差出ゆ書付ニ、左之通り承り取ゝ之。

書面申上ゆ通相心得、御仕置舊復之期ニ至りゆハゝ、早速可申上旨被仰渡、奉承知ゆ。

子〇文政十一年。五月十六日

御勘定奉行

——雜書

附記、一封廻狀

〔附記、一〕封廻狀

五月廿一日〇文政九年〇中略。

封廻狀

一通尋之上、同道人ニ預返ス。

一通り尋之上、召連人ニ預ケ返ス。

一通り尋之上、差返ス

一通り尋之上、手鎖。

一通り尋之上、差返ス。

右於評定所村上大和守〇義堆。筒井伊賀守〇政憲。曾根内匠〇次孝。立合、大和守伊賀守申渡之。

殷昌期

小普請組太田内藏頭支配重藏惣領
近藤富藏
戌二十四。

近藤重藏家來
高井庄五郎
戌三十三。

同人中間
助十郎
戌二十六。
文助
同二十四。

右高井庄五郎妻
の
戌二十七。林

中村八太夫御代官所武州荏原郡三田村百姓半之助召仕
金次郎
戌二十一。

同斷同郡下澁谷村百姓
勘四郎
戌七十三。

澁谷廣尾町甚兵衞店
勘五郎
戌五十。

兼房町五人組持店藤助母
よそ
戌六十。

五月廿一日（文政九年。）

六月三日（文政九年。中略。）

封廻狀

一通り尋之上、揚り屋敷ニ遣。

同斷。

一通り尋之上、揚り屋ニ遣ス。

一通り尋之上、入牢。

一通尋之上、預ケ遣ス。

同。

一通り尋之上、改手鎖。

一通り尋之上、預遣。

一通り尋之上、差返。

一通り尋之上、改預ケ。

小普請組太田内藏頭（文政九カ）重藏惣領　近藤富藏

右　近藤重藏

同人家來　高井庄五郎

同人中間　助十郎　文助

右高井庄五郎妻　か　糸

同　家來　奥住伊三郎　戌四十五。

中村八太夫御代官所武州荏原郡三田村百姓半之助召仕　金治郎

同人方日雇　文藏　戌五十二。

澁谷廣尾町甚兵衛店　勘五郎

兼房町五人組持店　藤助

疵所（疑）愈兼ゆゑ付代　藤兵衛　戌四十。

近藤富藏著「八丈實記」

東京　東京府文庫藏

富藏ハ近藤重藏守重ノ男、重藏目黑ノ別墅ニ移居セル後隣家百性塚越半之助ト爭フニ及ビ、富藏コレガ殺傷事件ヲ起シ、八丈島ニ配セラレ、父重藏ハ大溝藩預トナル。本書ハ富藏ガ八丈島配流中八丈島ニ關スル見聞及ビ自己ノ事件ニ關スル感想等ヲ述ベタルモノ、茲ニ揭出セルハ目黑ノ事件ニ關スル繪圖及ビ事件ノ發端ヲ述ベタル「鎗丘實錄」（八丈實記十五。）ノ一部ナリ。

五月廿一日○文政九年。

六月三日○文政九年○中略。

封廻狀

一通り尋之上、揚り屋敷に遣。

同斷。

一通り尋之上、揚り屋に遣ス。

一通り尋之上、入牢。

一通尋之上、預ケ遣ス。

同。

一通り尋之上、改手鎖。

一通り尋之上、預遣。

一通り尋之上、差返。

一通り尋之上、改預ケ。

小普請組太田内藏頭重藏惣領（父配按カ）
近藤富藏

右

近藤重藏

同人家來　高井庄五郎

同人中間　助十郎　文助

右高井庄五郎妻　か　糸

同　家來　奥住伊三郎　戌四十五。

中村八太夫御代官所武州荏原郡三田村百姓半之助召仕　金治郎

同人方日雇　文藏　戌五十二。

澁谷廣尾町甚兵衛店　勘五郎

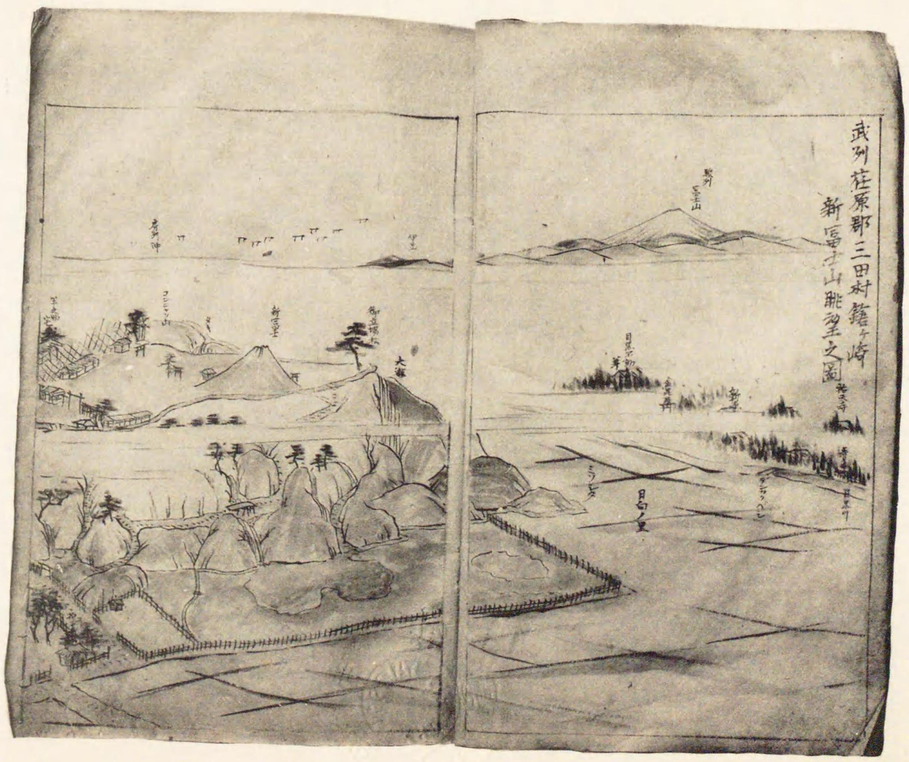
兼房町五人組持店　藤助

疵所愈（養）兼ゐこ付代　藤兵衛　戌四十。

近藤富藏著「八丈實記」

東京　東京府文庫藏

富藏ハ近藤重藏守重ノ男、重藏目黑ノ別墅ニ移居セル後隣家百性塚越半之助ト爭フニ及ビ、富藏コレガ殺傷事件ヲ起シ、八丈島ニ配セラレ、父重藏ハ大溝藩預トナル。本書ハ富藏ガ八丈島配流中八丈島ニ關スル見聞及ビ自己ノ事件ニ關スル感想等ヲ述ベタルモノ、玆ニ掲出セルハ目黑ノ事件ニ關スル繪圖及ビ事件ノ發端ヲ述ベタル「鎗丘實錄」（八丈實記十五。）ノ一部ナリ。


武州荏原郡三田村鐙ヶ崎
新富士山眺望之圖

鎗丈實録

松葉舎親荷　再述

○鷹威莊五郎刺治

○刺一後東征

武藏國　荏原郡　三田村　鎗ヶ崎　新富士　權輿

鎗ヶ崎　新富士山ニオヒテ高井庄五郎　重治ト云者主人ノタメニ百姓ヲ討捨タル故ヲクロヒヲ尋ヌレハ彼ハ近藤正齋先生カ山莊ヲ得シト山川ノ勝地ヲ思ヒメテ遊歷セシカ或日東海道高縄ヨリ行人坂ニカヽリ名ニシオフ太鼓ノ石橋ヲスキ目黒路ニオモムキテ戌亥ノ方ヲ詠レハ一ツノ峯山アリスナハチ青山通リ道玄坂也所ノ者ニコレヲ問ハ新富士トモ又丸且富士ヒカフヨシ正齋地ヲ乞ヒ讓ラス然ルニコノ山ツヽキ三町程南荏原郡ノウチニ中目黒村宿山村三田村ノ三箇ニマタカリ彼渋谷金王丸カ旧地ヨリ祐天寺ノ往還ニ別所坂トテ御立場ノ高松子年ノ翠リヨヤカニ水簾ノ長瀧トシテ岩壁ヲ洗フ山上ニハ流布ノ玉水潺々タリ柳品川驛ヨリコヽニ至ル迄凡ソ四ツノ崎アリ一ツハ大崎　刺殺　松平肥後守義隆　外郎　二ツハ袖ヶ崎　仙臺侯　伊達陸奥守ノ外郎　三ツハ千代ヶ崎

一通り尋之上、
差遣ス。

同人母　そよ
葺手町與兵衛店忠兵衛妻
み　戌二十。よ
中村八太夫御代官所武州荏原郡上目黒村百姓
半兵衛　戌四十二。
同所同郡下澁谷村百姓
勘四郎

右於評定所村上大和守筒井伊賀守曾根内匠立合、大和守伊賀守申渡之。

六月三日○文政九年。
十月六日○文政九年。
遠島。
分部左京亮
御預。
江戸十里
四方追放。
脫衣輕追放。
急度叱り。
殷昌期

小普請組太田内藏頭支配重藏惣領
近藤富藏　戌二十四。
右
近藤重藏　戌五十六。
右近藤重藏家來
高井庄五郎　戌三十三。
一向宗駒込西谷寺
了雄　戌四十一。
右近藤重藏家來
與住伊三郎　戌四十五。

手鎖。

急度叱り。

無レ構。

中村八太夫御代官所武州荏原郡三田村百姓半之助召仕
金次郎
戌二十一。

右半之助日雇
文藏
戌五十二。

右高井庄五郎妻
か
戌二十七。

兼房町五人組持店
藤助
戌四十。

頻ニ付代
藤兵衛

澁谷廣尾町勘兵衛店
勘五郎
戌五十。

増上寺御靈屋料武州荏原郡中目黒村百姓
傳左衛門
戌三十三。

同村百姓市五郎事
安右衛門
戌三十五。

同郡下目黒村
兵藏
戌三十九。

中村八太夫御代官所同郡下澁谷村百姓
勘四郎
戌七十三。

以上。

父之依レ科改易被二仰付一、十五歳まて親類預置。

十月六日○文政九年。

柳營日次記ニハ、外ニ六月廿八日○文政九年。ノ封廻狀有リ。十月六日○文政九年。ノ封廻狀ノ終ニ、「右於評定所、村上大和守○義堅。筒井伊勢守○政憲。曾根内匠○次孝。立合、大和守伊賀守申渡之」ト見エ、更ニ近藤熊藏ノ次ニ、「右於評定所、同斷申渡之」ト記ス。泰平年表ニハ、

同○文政九年四月。十八日夜、近藤重藏小普請組太田内藏頭支配。武州三田村百姓半之助重藏抱屋敷地借住居。父子妻ハ宿意有レ之切害。評定所ニおいて御吟味有レ之重殷昌期

新番藤堂主馬組野間忠五郎知行所武州豐島郡中澁谷村百姓
勘五郎
戌五十。

同人妻
と
戌三十九。

同人娘
ま
戌十三。

中村八太夫御代官所同州荏原郡上目黒村百姓
半兵衛
戌四十七。

葺手町與兵衛店忠兵衛妻
み
戌二十。

小普請組太田内藏頭支配重藏三男
近藤吉藏
戌五歳。

同人四男
近藤熊藏
戌三歳。

——文政略記

藏ハ分部左京亮ニ御預ケ、惣領富藏遠島、其外家來罪科ニ被ㇾ行。

若夫柳營日次記文政十二年六月ノ條ニハ、

廿五日○文政十二年六月○中略。

金拾兩ッヽ。

御徒目付 小川伴兵衛　坂部兵助

分部左京亮ニ御預り之近藤重藏病死ニ付、死骸爲ㇾ檢使、江州大溝ニ被ㇾ遣ㇾ之付被下ㇾ之。

右於ㇾ燒火間、林肥後守○忠英。申ㇾ渡之。

附記、二　東蝦夷ヘ三寺出立

〔附記、二〕東蝦夷ヘ三寺出立

文政九戌年五月廿九日御勘定所ゟ御書面ニ付、代清七差出ㇾ處、左之御書付御勘定藤井久右衛門殿御渡ㇾ被ㇾ成、道中御奉行所ゟ被ㇾ仰渡ㇾ旨被ㇾ仰聞ㇾ之付、請書差出ㇾ。

東蝦夷地等　濤　院　善　光　寺　國　泰　寺

右三ヶ寺江戸表出立之節人馬之儀、松前志摩守ゟ其度々相達次第、傳馬無ㇾ滯可ㇾ差出ㇾ。

戌○文政九年。五月

東蝦夷地等　濤　院　善　光　寺　國　泰　寺

右三ヶ寺江戸表御出立之節人馬之儀、松前志摩守樣ゟ其度々相達次第、無ㇾ滯可ㇾ差出ㇾ旨、道中御奉行所ゟ被ㇾ仰渡ㇾ之趣、承知仕ㇾ。以來松前志摩守ゟ御斷次第、差出可ㇾ申ㇾ。尤賃人足之儀も、江戸表御免ニ付、其段御斷可ㇾ申ㇾ。爲後日御請書差上申ㇾ。以上。

戌○文政九年。五月廿九日

御勘定所

右之通請書差出ㇾ。

口上覺

蝦夷地三ヶ寺江戸表出立之節人馬繼立之儀、今日○文政九年五月廿九日。御勘定所ゟ被ㇾ仰渡ㇾ之ニ付、御案内被ㇾ下、忝存ㇾ。右御勘定所ゟ被ㇾ仰渡ㇾ御趣意、委敷承知致度ㇾ。一躰公義御達ニも人馬之儀ハ御傳馬所ニ可ㇾ申達ㇾ被ㇾ仰渡ㇾ之。旁以善光寺先例相違之儀も有ㇾ之、出立差支ㇾ哉。依ㇾ之不分り之廉も、寺社御奉行所ニ被ㇾ相伺ㇾ之間、先年三ヶ寺人馬之義御取扱之例有無、且御勘定所御達御趣意、兩樣御書取被ㇾ差越ㇾ之樣、此段御賴得御意ㇾ。以上。

五月廿九日○文政九年。

御傳馬役高野新右衛門代　清七

猶々本文始末書御差出被ㇾ成ㇾ、右書面之廉を以、相伺可ㇾ申ㇾ之間、何分御賴申述ㇾ之間、御承知可ㇾ被ㇾ下ㇾ。以上。

高野新右衛門樣

松前志摩守内　石塚官藏

右之通申來ㇾ之ニ付、先例取調左之通書面差出ㇾ。

東蝦夷地等濤院外二ヶ寺之内、文化二丑年四月二日同○文化。三寅年五月十四日同○文化。十一戌年八月廿九日出殷昌期

立之節御朱印御證文人馬ニハ哉、或ハ賃傳馬ニハ哉、取調可申立旨被仰聞、相調ハ處、則左之通御座ハ。

文化二年四月二日
人足拾六人。馬五疋。

此分御朱印番馬込勘解由方被差出ハ例無之、賃傳馬番ヲ小宮善右衛門ハ處、帳面燒失留無御座ハ。

同（○文化）三年五月十四日
馬五疋。

此分同樣帳面燒失、留無御座ハ。

同（○文化）十一戌年八月廿九日
馬三疋。

此分馬込勘解由方當番ニ為差出、蝦夷地御會所ゟ御斷書、左之通御座ハ。

覺

明後廿九日（○文化十一年八月）朝六時出立
一、馬三疋

宿所芝增上寺山内三島谷大笈寮内。

右之千住宿迄之積を以、右日限所付之通可差出ハ。以上。

蝦夷地
善光寺

蝦夷地
會所印

割印　戌○文化十一年。八月廿七日

傳馬所ニ

右之通御座ハ。以上。

戌○文政九年。六月二日

御傳馬役高野新右衛門代
清七

一、同月○文政九年六月。廿二日御勘定所ニて掛合之始末御尋ニ付、左之通差出ハ。

東蝦夷地等濤院外二ヶ寺ニ、松前志摩守樣御預り中、人馬差出ハ例御尋ニ御座ハ。此段當五月廿九日○文政九年。松前志摩守樣ゟ御尋ニ付、同役勤方取調、當月○文政九年六月。二日御家來石塚官藏殿迄、別紙之通差出申ハ。御尋ニ付此段申上ハ。以上。

戌○文政九年。六月廿二日

御勘定所

當月（○文政九年）六月二日志摩守樣ニ差出ハ寫添。

御傳馬役高野新右衛門代
清七

——撰要永久錄

屋鋪受授

六月朔日辛亥○文政九年（紀元二四八六年）○辛亥。三正綜覽。屋鋪ヲ受授ス。外ニ是月○文政九年（紀元二四八六年）六月。若干屋鋪ノ受授有リ。

○屋敷受授。相對替御書附書拔。

屋鋪受授事蹟

屋鋪受授　文政九年六月左ノ屋鋪受授有リ。

文政九戌年

六月朔日、中村忠左衛門上ヶ地
一、四谷右京町四拾八坪餘
六月四日、元上水土手敷跡之内
一、白金村貳百坪
一、同　日
同所拾六坪
但シ元上水土手敷跡之内割殘。

（朱）文政十亥年里村勇三郎ニ渡。

泉田又市
大熊善太郎

御臺樣御廣敷御下男組頭
泉田又市
支配勘定評定所留役助
大熊善太郎
同斷右同斷
右同人
御預地。

殷昌期

富田八郎　同日
一、同所百貳拾坪
但元上水土手敷跡之內。
淺野齊肅　同日
一、同所拾六坪
但右同斷。
久世左京　（朱）文政十亥年里村勇三郎に渡。
金井甚作　六月九日、石川主水正上田左太郎上地
一、外櫻田三千七百拾五坪
六月十二日、三河口八藏上地
一、湯嶋四町目五百拾四坪餘
六月廿日、中村忠左衞門上地
一、駒込新屋敷五拾三坪餘
六月十三日周防守殿（○松平康任）
一、湯嶋四丁目三河口八藏上地添地願
（朱）久世左京へ被レ下。
六月九日渡
一、外櫻田石川主水正上田左太郎上地共添地
文政九戌年六月五日
和泉守殿○松平乘寛。林阿彌ヲ以御渡、河內守○初鹿野信政。請取。
御普請奉行に

御代官中村八太夫手附御普請役元ノ格
富田八郎
同　同　御預地。八
松平安藝守○淺野齊肅。添地。
寄合　久世左京
御普請役　金井甚作
御先手　春日八十郎
松平安藝守
——屋敷書抜

細川之壽
石丸權六郎
內田源十郎
嶋田八郎左
兒玉逸人
吉見定右
落合熊之助
德川齊朝
遠藤清右
戶田三左
竹本隼人

石丸權六郎拜領屋敷
麴町元山王四百四拾貳坪
內田源十郎拜領屋敷
表二番町八百五拾六坪之內五百三拾壹坪
細川熊之丞拜領下屋敷
白銀臺五千八拾坪之內百五拾坪
兒玉逸人拜領屋敷
小川町裏神保小路四百坪之內貳百八拾坪餘
嶋田八郎左衞門拜領屋敷
下谷廣德寺前貳百八拾坪餘
落合熊之助拜領屋敷
牛込築土明神下百五拾坪
吉見定右衞門拜領屋敷
小石川元鷹匠町百五拾坪
右願之通、屋敷相對替被仰付ゐ間、得ニ其意ニ、例之通可レ被致ゐ。
文政九戌年六月廿五日
和泉守殿○松平乘寛。新阿彌ヲ以御渡、河內守○初鹿野信政。請取。
御普請奉行に
遠藤清右衞門拜領屋敷
四谷傳馬町百六拾九坪
尾張殿屋敷
四谷內藤宿九千百九拾壹坪餘之內百坪
竹本隼人拜領屋敷
小川町雉子橋通三百貳拾九坪餘
戶田三左衞門拜領屋敷
深川高橋三百坪餘

細川熊之丞○之壽。に
御小性組松平但馬守組
石丸權六郎に
小普請組久世伊勢守支配
內田源十郎に
御小納戶
嶋田八郎左衞門に
小普請組長井五右衞門支配
兒玉逸人に
御幕奉行
吉見定右衞門に
小普請組土屋讃岐守支配
落合熊之助に
尾張殿○德川齊朝。に
評定所書役
遠藤清右衞門に
御小性組松平但馬守組
戶田三左衞門に
西丸御小性組大岡土佐守組
竹本隼人に

殷昌期

右願之通、屋敷相對替被仰付い間、得其意、例之通可被致い。

——相對替御書附書拔

附記、一　狀箱持人へ暴行

〔附記、一〕狀箱持人へ暴行

乍恐以書附御訴申上い。

大傳馬町貳丁目月行事與右衞門申上い。昨二日松平和泉守様（松平乘寛。）宿繼御證文を以佐州表泉本正助様に被爲遣い御狀箱、申上刻過板橋宿迄差立い持夫三人之内、金藏儀も暑邪に當り、筋違御門内水茶屋に差置、與市梅藏兩人にゐ罷越い途中、湯島六丁目於往還本郷竹町久兵衞店國八、同町吉兵衞店辰五郎、其外大勢連にゐ、往來往逢い間、右御狀箱持夫與市梅藏儀も國八ヲ取押、湯島六丁目月行事清吉に相預ケい内、梅藏を論、與市梅藏共强く打擲に逢いに付、與市儀も國八ヲ取押、湯島六丁目行事清吉に相預ケい内、梅藏を打倒、前書辰五郎右御狀箱を持、板橋宿に繼送りい趣、右町内ゟ爲知參いに付、早速罷越取調、且板橋宿に罷越、相掛合い處右御狀箱御證文申之中刻無滯板橋宿ゟ先宿に差立い旨、右宿ゟ書付取置申い。右與市梅藏兩人共、大勢にゐ强ク打擲に逢、惣身痛强キ旨申之いに付、町内ゟ引取、醫師懸置、相手國八辰五郎も、其町内町役人に預ケ置、此段御訴申上い。御檢使被下置、御吟味奉願上い。以上。

大傳馬町月行事
訴人　與右衞門
五人組　三郎兵衞
名主　勘解由

文政九戌年六月三日

御番所様

大傳馬町月行事
與右衞門　申口
戌五十一。

昨二日（文政九年六月。）松平和泉守様（乘寛。）ゟ宿繼御證文を以、佐州表泉本正助様に被遣い御狀箱、申上刻過板橋宿迄差送りい に付、御傳馬人足與市梅藏金藏爲持夫三人にゐ繼立い處、右金藏儀も筋違御門内にゐ俄に暑邪に當り立歸りいに付、右與市梅藏兩人にゐ、湯島六町目往還に參掛い砌、向ゟ本郷竹町久兵衞店國八同町吉兵衞店辰五郎にい哉、其外大勢參り懸いに付、與市梅藏聲懸ケい得も、片寄不申、却ゐ突懸り、及口論、兩人とも强打擲に逢いに付、與市儀も國八を捕押、湯嶋六町目自身番屋に連參り、月行事清吉に相預ケい内、相手之者共梅藏を打倒、前書辰五郎儀、右御狀箱を持板橋宿に繼送りい趣、右町内ゟ爲知來い間、早速板橋宿に罷越、樣子相尋掛合い得も、御狀箱御證文共申之中刻同宿ゟ先宿に差立い旨申聞いに付、其段書付取置申い。然ル處與市梅藏も大勢に强打擲に逢、惣身痛い旨申聞いに付、兩人共町内に引取、醫師相懸ケ、相手國八辰五郎も右町役人に相預ケ置、不法之始末御吟味奉願度い間、此段五人組名主に申聞、御訴申上い得も、御檢使被下置い。

同町壹丁目半七店御傳馬定人足
與　戌　市

同町半助店次兵衞方ニ同居同屋人足
梅　藏
戌
右兩人申口、

一、私共儀、宿繼御狀箱繼立い途中、口論之上、强打擲に逢いに付、御檢使之上、始末御尋に御座い。私共之内與市儀も、御傳馬御用相勤い馬込勘解由方に御傳馬定人足にゐ罷出、梅藏儀も被雇人足に罷出、宿々に御狀箱其外御品繼送りい持夫に御座い處、昨二日（文政九年六月。）松平和泉守様ゟ佐州表泉本正助様に被爲遣い御狀箱、申之上刻板橋宿迄繼送い樣、勘解由方にゐ申付い間、私共兩人幷同町貳丁目吉右衞門店同人足金藏三人にゐ、御狀箱を持、右宿に罷越い途中、金藏儀も筋違御門内迄參り俄に暑邪に相當りい樣子にゐ難儀致い間、其邊之水茶屋に立寄、藥用致い樣申捨に致、刻限使之儀に付、急キ私共兩人之内與

市ゝ御用と記い高張挑灯を持梅藏ゝ御用と印い革籠に御狀箱を入擔ひ、湯嶋六町目往還迄參掛い得ゝ、其節名前等不ゝ存前書國八辰五郎并外ニ五六人と覺、向ゟ參い間、聲懸ケい得ゝ、片寄不ゝ申い間、急キ御用之儀ニ付、私共儀脇に寄通り可ゝ申と存い得共、却ゟ先キ方ゟ突掛りいニ付、御用ニゟ罷越い者之旨申聞い得ゝ、御狀箱をゝはじき旨乍ゝ申、辰五郎國八義、最初梅藏に打掛りいニ付、與市儀大切之御狀箱ニ付、梅藏持居いを請取い得ゝ、又い與市に打掛りいニ付、相手を取逃間敷と、國八を確と取押相放不ゝ申内、多人數罷出、高張挑灯ゝ被ゝ打破ゝ、與市持居い御狀箱ゝ被ゝ奪取ゝ、兩人共強く打擲被ゝ致い間、與市儀國八を右町自身番屋に連參、月行事淸吉に相預ケ、其内梅藏ゝ被ゝ打擲ゝ、左肩ゟ首筋に懸六寸程打疵壹ケ所、鼻右之方ゟ同方頰に懸壹寸程打破、疵壹ケ所、與市儀ゝ右肩ゟ背に掛打疵壹ケ所、腰ニ同壹ケ所右足、太股ニ打疵壹ケ所被付いニ付、兩人共無症ニ相成、其後之儀ゝ不奉存い。再應御尋ニ御座い得共、前書之外可ゝ申上品無御座ゝい。右體御用使ニ罷出、理不盡ニ打擲等被致いゟゝ、向後共御大切之御狀箱等繼立いニ難儀仕い間、御吟味奉願上ゝい。尤右御狀箱之儀ゝ、相手之内辰五郎儀、板橋宿に持參、問屋役人ニ相渡請取書取參い由、跡ニゟ承知仕い儀ニ御座い。前書之始末、私共ゟがさつケ間敷儀等仕い儀無御座ゝい間、何分御聞濟奉願上ゝい。

同町貳丁目吉右衞門店同人足
金藏　戌申口

前書御檢使ニ付、私儀ゝ被ゝ召出ゝ始末御尋ニ御座い。私儀御傳馬定人足ニゟ、右與市梅藏同樣ニ御座い處、昨二日〇文政九年六月。兩人申上い通之手續ニゟ、御狀箱を持三人ニゟ罷越い砌、私儀筋違御門内迄參い處、俄ニ暑邪ニ當り難儀仕い得共、刻限使之儀ニ付、私ヲ捨置、兩人共御狀箱繼立參いニ付私儀ゝ其邊之水茶屋に立寄養生致、宿に立歸りい義ニ御座い。

然ル處與市梅藏義、湯嶋六町目往還ニゟ前書國八辰五郎其外大勢之者ニ打擲ニ逢い由及ゝ承い義ニ御座い私儀不快ニゟ宿元に立歸りい間、口論之儀を一向不ゝ奉存い間、何分御聞濟奉願上ゝい。

湯島六丁目月行事
清　吉

五人組
清　兵衞
戌　戌

右兩人申口。

私共町内ニゟ、前書與市梅藏義口論之上打擲ニ逢い儀ニ付、被ゝ召呼ゝ始末御尋ニ御座い。此節世上物騷敷御座いニ付、町内自身番屋之儀ゝ、通筋ゟ凡半町程茂横町に入い得ゝ、町役人共晝夜共相詰罷在い處、昨二日〇文政九年六月。夕七ツ時過頃、町内道筋口論有ゝ之趣及ゝ承い間、早速罷出い得ゝ、前書與市儀相手之由ニゟ國八を捕引連參い。跡ゟ右梅藏も參いニ付、國八ゝ預り、右兩人にゝ手當致置、口論之場所に罷出見い得共、相手之者共一同逃散、壹人茂居不ゝ申、然ル處與市梅藏儀ゝ、御用狀ヲ持板橋宿に繼立い者之由ニい處、右躰町内ニゟ口論ニ相成い故、御狀箱ゝ相手之内辰五郎儀持いゟ、壹人ニゟ板橋宿に參い旨、誰となく申聞い間、私共儀驚入、早速跡ゟ町内抱番人五助并半左衞門ゝ申ゝ聞い得共、辰五郎不聞入ゝい由ニゟ、三人ニゟ町内番屋ニい哉、辰五郎儀歸り懸ニ行逢い間、御狀箱之儀承い得ゝ、右ゝ板橋宿問屋役人に相屆、則受取書取來い旨申聞い由ニ付、右書付相渡い樣半左衞門ゟ申聞い得共、辰五郎不聞入ゝい由ニゟ、三人ニゟ町内番屋に參い間、私共ゟも掛合い上、書付受取、右口論之始末大傳馬町に爲相知ゝい得ゝ、町役人中參い間、右書付相渡い儀ニ御座い。再應御尋ニ御座い得共、町内番屋横町に入込ゝを幸ひ仕口論之儀乍ゝ承不ゝ罷出ゝい義ニゝ無御座ゝ、乍併右與市儀相手之由ニゟ、國八ヲ引連參い節ニ至り、番屋ゟ罷出い段、手後レ之致方と御察斗請いゟゝ可ゝ申立樣無御座ゝ、奉恐入ゝい。

與市疵改

一、右之肩ゟ背に掛ケ八寸程打疵壹ケ所。

一、腰ニ五寸程之同疵壹ケ所。

一、右之足太股ニ六寸程同壹ケ所。

但、膏藥打引藥致有ゝ之ゆ。

梅藏疵改

一、左肩ゟ首筋に懸六寸程打疵壹ケ所。

一、鼻右之方ゟ同方頰に懸壹寸程同壹ケ所。

一、左足太股ニ五寸程同壹ケ所。

但、右同斷。

右膏藥打引藥致有ゝ之上ゟ見分仕ゆ處、請答ゑ仕ゆ得共、强打擲ニ逢ゆ故、座臥成兼ゆ樣子ニ付、療治致醫師ニ容躰相尋ゆ處、加減之煎湯相用ゆ得共、元氣脉體相應こゐ、食事茂給ゆ得とも、差當氣遣敷儀ゑ無ゝ之ゆ得共、變症之程ゑ難ゝ計ゆ旨申ゝ之ニ付、則口上書取持參仕ゆ。

右之通、町役人爲ニ立合一疵所相改、中口承ゆ。以上。

大傳馬町月行事與右衛門
五人組　三郎兵衛　家主　半七

五人組　半助　同　右梅藏　半助

五人組　半七　同　右金藏　吉右衛門

五人組　久右衛門　名主　勘解由

湯島六丁目月行事清吉
五人組　清兵衛　名主　六右衛門

御番所

檢使　吉田源次兵衛　横地惣兵衛

右御掛り榊原主計頭樣ゟ御番所。

定廻

捕者
書上

本郷竹町喜平次店
大工　虎次郎　二十四歳

右ゑ去ル二日（文政九年六月。）湯嶋六町目往還ニゐ、御狀箱持夫と及ニ口論一ゆ手合之趣相聞ゆニ付、召捕相尋ゆ處、左之通御座ゆ。

一、虎次郎儀、去ル二日（文政九年六月。）晝時過、本郷竹町吉兵衛店辰五郎同町久兵衛店國八、同町五人組持店新五郎同所同朋町源藏店五郎吉同町良右衛門店幸吉一同申合懸合、湯嶋六町目孫八店市五郎方に罷越酒結合ゆ上新五郎壹人夕八ツ半時頃歸宅いさし、跡ニ辰五郎外四人之ゟの罷在、是又夕七時頃市五郎宅を出五人連立歸ゆ途中御狀箱持夫與市梅藏ニゆ哉行逢ゆ節、辰五郎國八先キ立一同及ニ口論一ゆ節、虎次郎儀、双方打合ゆ中に立入、取支ゆ得共、聞入不ゝ申ゆニ付、俱ニ右與市梅藏を拳ニて打擲いさしゆ旨申ゝ之ゆ。

殷昌期

一、新五郎義も市五郎宅ニ而一同酒給い得共及ニ口論い節ゟ半時も以前に歸宅いゟしい由ニ而、右場所ニも携不ル申趣相聞申い。

右之通御座い間、新五郎儀も先ツ町役人共ニ預ケ置虎次郎召捕召連申い。以上。

六月五日〇文政九年。

定廻

穗坂甚十郎
中村伴藏

捕者
御屆

本郷竹町久兵衛店
國八
戌二十八

同町吉兵衛店
辰五郎
同二十九

右之ゝその召捕、腰縄ニ而町役人差添、召連い間、此段申上い。以上。

六月四日〇文政九年。

穗坂甚十郎
中村伴藏

馬込勘解由様
當用

湯嶋六町目月行事
清兵衛

以ニ手紙ニ得ニ御意ニい。然も私共往來ニ而、其御役所ゟ之御用狀板橋宿ニ參い與市長吉と申仁通被ル掛い處、本郷竹町久兵衛店國八と申その及ニ口論ニい處、御用狀も早速右宿ニ相送り、當人共双方共捕押置申い間、此段御屆申上い。尚又追ゝ可ニ申上ニい。以上。

六月二日〇文政九年。

差出申一札之事

一、於ニ江戸ニ松平和泉守様〇乗寛。ゟ至ニ佐州ニ泉本正助様ニ被ル爲ル遣い御狀箱壹、今二日〇文政九年六月。申中刻迄相達則例之通請書差出卽刻蕨宿ニ繼送い處、請取書途中ニ而相滯い ニ付、右御狀箱相達い哉否被ル相尋い處、前書之通請取いニ付、爲ル念一札差出申處如ル件。

戌〇文政九年六月二日夜

馬込勘解由殿

覺

中山道板橋宿問屋
新左衛門印

一、於ニ江戸ニ松平和泉様ゟ至ニ佐州ニ泉本正助様ニ被ル爲ル遣い油紙包之御狀箱壹、青糸結御差札壹枚、并御判印壹ケ所。

一、和泉守様宿繼御證文壹通、白紙ニ御包、くるんせ寄ニ而右御狀箱ニ御結付有ル之い。但油紙ニ而御覆有ル之い。

右之通相改、今二日〇文政九年六月。申中刻慥ニ請取、卽刻蕨宿ニ繼送申い。以上。

戌〇文政九年六月二日

板橋宿問屋
新左衛門印

御傳馬役
馬込勘解由殿

預り一札之事

殷昌期

一、我等店辰五郎に掛り合之儀御座いに付、御預被成い段、慥に承知預り置申い。御公用之節も、不依何時召連可罷出い。爲念仍如件。

文政九戌年六月

本郷竹町家主　吉兵衛印

大傳馬町御傳馬掛り行事
與右衛門殿

三郎兵衛殿

預り申一札之事

一、宿繼御狀箱今二日（文政九年六月。）七時頃町内往還相通い砌右持人足貳人、本郷竹町久兵衛店國八と申その外五六人口論およひい趣にて、右人足打擲に逢、既に御狀箱取落い趣にて、本郷竹町吉兵衛店辰五郎と申その、右御狀箱板橋宿に持越、御狀箱請取書幷草籠共、各方に相渡、殘り御用高張挑灯御町内人足與市梅藏相手國八とも慥に預り申處實正也。爲後日預り一札、仍如件。

文政九戌年六月二日

湯嶋六町目行事
清吉印

御傳馬懸り月行事
與右衛門殿
同定使
又七殿

本郷竹町吉兵衛店
辰五郎
戌貳十九歳。

同町久兵衛店入墨
國八
戌貳十八歳。

庄七殿

戌（文政九年）六月四日入牢。
同月廿六日溜預。

右同斷。

右同斷。

右同斷。

本郷同朋町良右衛門店
幸吉
戌貳十四歳。

同町源藏店
五郎吉
戌貳十八歳。

同月五日入牢。本郷竹町喜平次店
虎次郎
戌廿四歳。

右申口

一、私共儀、御用狀持夫與市梅藏を打擲いさし疵付いに付、大傳馬町町役人共ゟ當御番所に御訴申上、御檢使之衆被遣い上、辰五郎國八も被召捕、幸吉五郎吉儀も欠込（缺）訴いゑしいに付、一同入牢被仰付御吟味御座い。

此段辰五郎申上い。私儀茂右衛門忰に有之、同人儀も前栽物渡世いたしいに付同居同渡世いさし罷在い處、茂右衛門義別宅いさし度旨望に付、其意に任せ同町庄右衛門店借受差置、私儀も日雇稼致罷在い。當六月二日（文政九年。）前書幸吉五郎吉本郷竹町喜平次店當時病死虎次郎儀、湯嶋六町目孫八店市五郎方に參居い旨承、右も同人義近頃妻を貰受いに付、歡に參りい儀と相察し、幸吉共外之そのとも罷越い上も、私儀不參いゑも懇意之間柄儀（ママ）理合不宜存、酒肴調同日（文政九年六月二日。）九半時頃市五郎方に罷越い處、幸吉五郎吉虎次郎幷本郷竹町五人組持店新五郎儀罷在、酒給居、國八義も跡ゟ罷越いに付、銘々土産に持參い酒肴取披、一同給合い處、新五郎儀も夕八ツ半時頃用事有之由にて先に立歸り、市五郎儀も給醉い

躰ニ而其座に倒れ伏熟睡いたし、私共儀茂給醉いに付、市五郎妻ゟよに暇乞いたし、同七時頃私儀も先に立、國八其外之者共引續、市五郎宅を出裏路次口ゟ同町往還に立出い節、御傳馬人足大傳馬町壹町目半七店與市ニい哉、高張挑灯を持、同町半助店治兵衛方同居梅藏ニい哉、革籠を擔キ、往來を駈參い處、私義强醉出足元不ニ定、行違い節過テ梅藏に突當りい處、御狀箱に突當どふもるとも詞荒ニ相咎、右も御用物ヲ持いそのニい哉不ニ心付ニがさつ之申方と心外ニ存、何と乍ニ申拳を振上打懸い處、梅藏儀も立向互ニ拳を以打合、與市儀梅藏に荷擔可ニ致と立寄いを國八儀後ロゟ組付、同人と揉合居い節、幸吉五郎吉虎次郎も落合いニ付、私國八とも力を得、一同ニ而兩人を打擲いたしい處、與市義國八を捕放し不ニ申、御用物を持居いそのを打擲いたし不ニ相濟ニ町役人罷在いハヽ出會之樣呼ニりいニ付、難相濟存、往來人立之内に紛レ逃去い得共、國八身分無ニ心元存、立歸見い得も、同人も與市梅藏ニ被捕同町自身番屋に被ニ引連ニ幸吉外貳人も逃去い哉不ニ罷在ニ右場所ニ梅藏擔キ居い革籠往還ニ落有ニ之、往來人之内ニ而、右も御用狀ニい處、刻限遲滯致シいるも以之外不ニ相濟儀ニ付誰ニ而も早と板橋宿に持參可ニ然と、口とニ申ニ之、畢竟私儀口論仕出しいニ付、御用狀差滯いるハ如何樣之御仕置可ニ被ニ仰付ニ茂難計と怖敷存、直ニ右革籠を持、板橋宿に罷越、問屋新左衛門に相渡い處、定例持夫三人歟又も貳人ニ而持來い處何故壹人ニて罷越い哉と相尋い間、相仕之その途中ニ而病氣ニ付、無據壹人ニ而罷越い儀之旨品能申僞りい處、右革籠を明け相改い上、申申刻受取、即刻蕨宿に繼送りい旨、馬込勘解由宛右新左衛門印形之書付相渡い間請取立歸い途中、殊之外草臥い間、駕籠を雇乘參い處、同宿外レ字平尾と申所ニ而、湯嶋六町目家主佐平次弟半左衛門同町抱番人五助ニ行會い處、半左衛門義御用狀も如何致い哉と承い間、板橋宿宿役人に渡し請取書取參い旨相答い處、右書付爲ニ見い趣申いニ付、途中ニ而も難相渡旨相斷い得も、左いハヽ立歸い上、町役人共に相渡い樣、半左衛門申聞、同人幷五助義、私に付添、湯嶋六丁目自身番屋に罷越、右請取書も清吉に相渡、私儀も與市梅藏を打擲いたしい相手之由ニ而、町役人とも儀番屋ニ留置い處、大傳馬町壹丁目月行事與右衛門罷越、湯嶋六町目月行事清吉五人組清兵衛に掛合之上、與市梅藏も居町に引取、私幷國八も、銘と居町町役人共に相預ケ立歸、大傳馬町町役人共ゟ右之趣當御番所に御訴申上、私幷國八共、當御組同心衆ニ被召捕ニ其後幸吉五郎吉も欠込訴いたし、虎次郎も被召捕ニ一同入牢被仰付ニ其後私儀病氣ニ付溜御預被仰付、御吟味相成い。御檢使之上、與市梅藏疵所御改御座い處、與市義も、右之肩ゟ背に懸ケ八寸程打疵壹ケ所、腰ニ五寸程同壹ケ所、右之足太股ニ六寸程同壹ケ所、梅藏義も、左肩ゟ首に懸ケ六寸程同壹ケ所、鼻右之方ゟ同方頰に懸壹寸程同壹ケ所、左足太股ニ五寸程同壹ケ所有ニ之い處、當時常躰ニ平愈いたし、虎次郎も御吟味中病死いたしい旨奉承知い。再應御吟味御座い得共、最初ゟ御用狀持夫之そのと存なのら、打擲いるしい儀ニも曾而無ニ之、全梅藏義詞荒ニ相咎いを酒狂之上風と心外ニ存、及打擲ニい儀ニ而、外子細曾而無御座旨申上いニ付、被仰聞ニいも、私義當六月二日（文政九年）湯嶋六町目市五郎方に罷越酒給合、本郷竹町國八外三人連立、同日夕七時過同人方立出、私も先に立路次口を立出い節、御用狀持夫與市梅藏ニい哉、革籠又も挑灯を擔、同町往還を駈參、私と行違い節、私義足元不ニ定過テ梅藏に突當りい處、同人義詞荒ニ相咎、其節も强醉出心外ニ相成、何と乍ニ申拳を振上ケ打懸りい處、梅藏義も拳を以立向いニ付、互ニ打合、與市儀荷擔可ニ致と立向いを、國八義組付揉合い處、五郎吉幸吉虎次郎も

落合ゆニ付、力を得、五人ニゐ打擲いさしゆ處、與市儀國八を捕、御用狀持參ゆそのを打擲いさし不ニ相濟旨呼ゐりゆニ付、御用狀持夫之そのを心付、其儘逃去ゆ得共、無ニ心元一存立戻りゆ處、其節も喧嘩も相鎭り、往還ニ梅藏持居ゆ革籠捨有ニ之、右も御用狀ニゆ處、刻限遲滯いゐしゆゐも不ニ相濟一儀之旨、往來之者共申合ゆを承り、畢竟私口論仕出しゆゐ事起、御用差滯ゆ節も、罪科難ニ遁存、革籠を擔き板橋宿に持參、相仕之その病氣ニ付、壹人罷越ゆ旨品能申僞、宿役人相渡ゆ段、御狀箱損ハ勿論刻限遲滯も不ニ致、板橋宿ゐ蕨宿に繼送り之儀ニもゆ得とも、右始末不屆之旨御吟味請、無ニ申披奉誤ゆ。

一、國八幸吉五郎吉申上ゆ。私共之內國八義も、本鄕竹町家主不ニ存古道具渡世利八悴ニ有ニ之、同人義身上不如意ニゐ取續相成兼ゆニ付、拾貳年以前亥年（○文化十二年。）利八一同本鄕春木町壹丁目長右衞門店佐兵衞方に同居致シ罷在ゆ處、私義小遣錢ニ差支、惡心出盜いゐしゆ所、同年（○文化十二年。）八月火附盜賊御改長井五左衞門樣御組之衆ニ被ニ召捕一、同（○文化十二年八月。）十三日入牢御吟味之上、私儀町家裏入口戶建寄有ニ之處明ケ這入、手元ニ有ニ之衣類雜物盜取、右品之內預ケ置銀子借受又も賣拂ゆ代金共遣捨ゆ依ニ科一、同（○文化十二年。）九月十九日入墨重敲之上、親理八に御引渡ニ相成、其後利八義本鄕壹丁目源七店借請引移ゆニ付、同居罷在ゆ所、翌子年（○文化十三年。）利八病死いゐしゆニ付、右店相仕舞、當店借受潰物渡世致申ゆ。

一、幸吉儀も、湯嶋六町目幸右衞門店久次郎悴ニ有ニ之、同人も四ヶ年以前未年（○文政六年。）病死いゐしゆニ付店相仕舞、兄本鄕竹町久兵衞店安五郎方に被ニ引取一、駕日雇渡世いゐし、去西年（○文政八年。）四月當店借請同渡世いゐし罷在ゆ。

一、五郎吉儀も、本鄕同朋町家主不ニ存久藏悴ニ有ニ之、同人も去西年（○文政八年。）病死いゐしゆニ付、跡相續いゐし、きせる張渡世いゐし申ゆ。

一、虎次郎儀も、本鄕春木町壹丁目文七店久七悴ニゐ、同人も拾貳年以前亥年（○文化十二年。）病死いたし、兄久次郎義跡相續いゐし、私義も同町大工平藏弟子ニ相成、職分いゐし覺、去西年（○文政八年。）三月年季明ゆニ付、同職いゐし罷在ゆ。

一、當六月二日（○文政九年。）幸吉五郎吉幷本鄕竹町喜平次店當時病死知人虎次郎湯嶋六丁目孫八店市五郎義、渡世相休、宿元ニ罷在ゆ趣承、同人義近頃妻を貰受ゆ處、末歡ニも不ニ罷越一ゆニ付、本鄕竹町五人組持店新五郎申合、同九時頃爲ニ土產酒肴相調持參、市五郎方に罷越、取披キ酒給合居ゆ節、前書辰五郎幷國八義も、幸吉其外之者共罷越ゆ趣承、追ニ跡ゐ罷越、一同落合酒給合ゆ處、新五郎儀ハ、用事有ニ之ゆ由ニゐ、同日夕八半時頃立歸り、市五郎儀も給醉其座ニ倒レ伏熟睡いゐしゆニ付、七時頃酒宴相仕舞、市五郎妻に暇乞いゐし、辰五郎も先に立、國八も引續幸吉五郎吉共追ニ跡ゐ同人裏路次口を立出ゆ節、前書與市梅藏ニゆ哉、革籠を擔き、又も高張挑灯を持、駈參ゆ處、辰五郎儀行違ニ突當り、同人口書ニ申上ゆ通之手續ニゐ打合居、與市ニゆ哉荷擔いさしゆ躰ニゐ、辰五郎に立向むゆ間、連之義難見捨一、國八儀與市後ロゐ組附、同人と揉合居ゆニ付、幸吉五郎吉虎次郎儀も、國八同樣之心庭ニゐ、一同打懸り、五人ニゐ右兩人を打擲いゐしゆ處、與市儀國八を捕ゆ儘不ニ相放一、御用物を持居ゆそのを打擲いゐし不ニ相濟一、町役人罷在ゆハヽ出合ゆ樣呼ゐりゆニ付、初ゐ御用物持夫之そのを心附、怖敷存、幸吉五郎吉虎次郎も往來人立ニ紛き逃去、國八も與市梅藏ニ被ニ捕押一、湯嶋六町目自身番屋に被ニ引連一ゆ處、與市梅藏一同番屋ニ留置、同町月行事淸吉ゐ大傳馬町町役人に懸合ゆ處、同町月行事與右衞門罷

越、懸合之上、國八義も居町町役人に相預ケ、與市梅藏義も是又居町に引取立歸、大傳馬町町役人共ゟ右之趣當御番所に御訴申上ゆに付、御檢使之衆被差遣、國八并前書辰五郎義も、當御組同心衆に被召捕ゆ處、幸吉五郎吉儀も、右口論相手に付御捕方有之趣及承、難遁存、有躰にも不申立、品能申立、欠込訴致ゆ處、御留置に相成、虎次郎儀も御組廻同心衆に被召捕、一同入牢被仰付、御吟味相成ゆ。與市梅藏疵所御改御座ゆ處、與市儀も、右之肩ゟ背に懸八寸程打疵壹ケ所、腰に五寸程同壹ケ所右之足太股に六寸程同壹ケ所、梅藏義も左肩ゟ首に掛六寸程同壹ケ所、鼻右之方ゟ同方頬に懸壹寸程同壹ケ所、左足太股に五寸程同壹ケ所有之ゆ處、當時常躰平愈いゐし、且御用狀箱之儀も、口論場所に落有之ゆ處、辰五郎儀一旦逃去りゆ後立戻り、同人口書に申上ゆ通、板橋宿に持參、宿役人に相渡ゆ儀之旨、御吟味之上奉承知ゆ。且幸吉五郎吉儀欠込訴いゐしゆ節、一旦申陳ゆ得共、追ゝ御吟味之上難押包、前書之通有躰申上ゆ儀にゐ、再應御吟味御座ゆ得共、全御用物と宇存右始末およひゆ儀にも無之、銘ゝ酒醉之上、連之義難見捨、辰五郎に荷擔いたしゆ儀にゐ、外子細曾ゐ無御座、虎次郎も御吟味中病死いたしゆ旨奉承知ゆ段申上ゆに付、被仰聞ゆも、私共儀當六月二日（文政九年。）辰五郎一同市五郎方にゐ酒給合、同日夕七時過連立、辰五郎も先に立、市五郎宅ゟ路次口ヲ出ゆ節、御傳馬人足與市梅藏にゆ哉、革籠又も高張挑灯を擔キ、往還を駈參りゆ所、行違に辰五郎義突當りゆゟ事起り、及口論、拳を以梅藏と打合ゆ節、與市儀荷擔致し立向ひゆ躰に付、國八儀後ロゟ組附揉合居ゆに付、幸吉五郎吉虎次郎も落合、五人一同にゐ與市梅藏を打擲いたしゆ處、與市儀國八を捕、御用物を持參ゆ者を打擲いたし不相濟旨呼ゐりゆに付、御用人足と心附、幸吉五郎吉虎次郎儀も、其場を逃去、國八儀も自身番屋に被召連ゆ始末、不屆之旨御吟味請、無申披奉誤ゆ。

右之通相違不申上ゆ。以上。

戌（○文政九年）
月

辰五郎　國八
幸吉　五郎吉
大傳馬町壹丁目半七店御傳馬定人足　與市
同町半助店次兵衛方同居同屋人足　梅藏
戌
右申口

戌（○文政九年）六月四日疵養生中預。

私共儀、御用狀持參りゆ途中、湯島六町目往還おゐて、本鄕竹町吉兵衛店辰五郎外四人に打擲に逢、疵痛所請ゆに付、御檢使之上被召出、御吟味御座ゆ。

此段與市儀も、勢州飯高郡西野村百姓病死正藏忰にゐ、拾三年以前戌年（○文化十一年。）御當地に出、所々町方奉公いゐし、去酉年（○文政八年。）五月ゟ御傳馬定人足致し申ゆ。梅藏義も、越前國丹生郡安來村百姓半兵衛忰にゐ、七ヶ年以前辰年（○文政三年。）御當地に出、大傳馬町壹丁目半助店車力渡世次兵衛方に同居同渡世いゐし、御傳馬定人足不足之節も雇に出申ゆ。御傳馬人足之儀も、日ゝ定番を以町役人共ゟ申渡、御傳馬役馬込勘解由宅に相詰ゆ儀にゐ、當六月二日（○文政九年。）私共定番にゐ、同町貳丁目吉右衛門店金藏一同勘解由宅に相詰罷在ゆ處、同日（○文政九年六月二日。）夕七時過御老中樣宿繼御證文を以佐渡御奉行樣に被遣ゆ御用狀之由、革籠に入ゆ儘、勘解由并町役人共ゟ私共并金藏に相渡、右御用狀箱御持參被成ゆ御徒目付衆に、申之

上刻之御請書差出い間、途中入念板橋宿に持參いさし、宿役人に相渡い樣申付いに付、即刻一同勘解由方立出急キ參りい處、金藏儀暑氣に中り頭痛强差發、歩行難相成旨申聞、右體病氣之者と同道致しいるも途中拂取不申いに付、立歸り手當いるしい趣申談、筋違橋御門外にて同人とも立別レ、梅藏義も革籠を擔き、與市儀も御用と記い高張挑灯を持、湯島六町目往還駈通りい節、本郷竹町吉兵衛店辰五郎に申い哉、向之方ゟ行違に與市に强突當いに付、御狀箱に突當どふすると詞荒に相咎い處、辰五郎儀何と乍申拳を振上ケ相掛りいに付、梅藏儀も拳を以互に打合、與市儀も辰五郎を捕可申と立寄りい處、本郷竹町久兵衛店國八に申い哉後ロゟ組付い間、持居い高張挑灯を投捨、同人を引組捻合居い節、本郷同朋町良右衛門店幸吉同町源藏店五郎吉本郷竹町喜平次店虎次郎に申い哉、追々引續參い處、右兩人に荷擔致、一同相懸り、私共を打擲いるしいに付、御用物を持居いものを打擲いるし不相濟一町役人罷在いハヽ出會之儀呼もり、與市儀も國八ヲ捕い儘、始終不相放一自身番屋に可引連といるし、同人も參間敷と爭い內、辰五郎外三人も何方に歟逃去、右躰打擲に逢い砌、梅藏義も擔キい革籠も往還に取落い處、相手を取逃いるも如何と存、與市俱に國八を捕、湯島六町目自身番屋に召連參い處、同町月行事淸吉五人組淸兵衛相詰罷在い間、私共義も御用狀持參りい途中にて、不法者に出合打擲に逢、國八も右相手之內に付、召連參い間、町內に預い旨申、右兩人に引渡、尤右御用狀箱も同町往還に其儘差置い間、持參呉い樣申い處、程過右御狀箱も板橋宿に繼送い旨申聞、私共儀强打擲に逢、物身痛歩行難相成い間、右番屋にて療治手當請罷在い處、右御狀箱之儀も、相手之內辰五郎儀板橋宿に持參、宿役人に相渡、無滯蕨宿に繼送りい哉、町役人共ゟ繼送りい儀と存罷在い處、大傳馬町壹丁目月行事與右衛門義罷越、右町役人に懸合之上、國八并辰五郎も居町町役人に相預、私共儀も町內に引取、其段翌三日（文政九年六月。）當御番所に御訴申上い得も、御檢使之衆御越有之、私共疵所御改御座い處、與市儀も右之肩ゟ背に掛ケ八寸程打疵壹ケ所、腰に五寸程同壹ケ所、右之足太股に六寸程同壹ケ所、梅藏義も左肩ゟ首に懸六寸程同壹ケ所、鼻右之方ゟ同方頰に懸ケ壹寸程同壹ケ所、左足太股に五寸程同壹ケ所有之、相手辰五郎國八義も被召捕一、翌四日（文政九年六月。）一件一同被召出一、右兩人も入牢、私共儀も疵養生中御預被仰付一疵處平癒之上被召出一、御吟味相成い。御吟味之上、辰五郎國八に荷擔いるしい者も、前書幸吉五郎吉虎次郎之旨奉承知一い。再應御吟味御座い得とも、前書之外子細曾る無御座一い旨申上いに付、被仰聞一いも、私共儀當六月二日（文政九年。）夕七時過御老中樣宿繼御證文を以佐州表に被差遣一い御用狀箱を擔、又も高張挑灯を持、湯島六町目往還駈通い節、本郷竹町辰五郎義行違に梅藏に强突當いに付、詞荒に相咎い處、何と申かゝら拳を以打掛いに付、同樣拳にて打合、與市梅藏義相手を可捕と立寄い砌、國八義後ロゟ組付いに付、摑合居い處、本郷同朋町幸吉外貳人引續參、右兩人に荷擔いるし、五人一同にて打擲いるしい紛レ、御用狀箱も往還に取落い間、與市儀も國八を捕いまゝ不相放一御用物持參いものを打擲いるし不相濟旨呼もりい處、辰五郎外三人も逃去いに付、兩人にて國八捕自身番屋に召連參い跡、辰五郎義立戻、右御用狀箱を持、板橋宿に持參いるし、無滯繼送り相濟い儀にもい得共、右躰相手ヲ取逃いるも如何と存い迚、大切之御品を往還に差置い儘、附添不致、兩人共自身番屋に罷越い段、不行屆取計不念之旨御吟味請、可申立樣無御座一い。以上。

右之通相違不申上一い。

殷昌期

戌（○文政九年）
月

與　市

御傳馬役　梅　藏
馬　込　勘解由
大傳馬町壹丁目月行事　戌
與　右衛門

右申口

前書御吟味之趣奉承知い。

一、私共之内勘解由儀ハ、名主役之外、御傳馬役相勤、與右衛門儀ハ家主役いゑし、當六月○文政九年。之月行事ニ相當、同月○文政九年六月。二日夕七時頃、御徒目付高橋小三郎殿勘解由宅ニ被相越、松平和泉守様○乘寛。ゟ佐渡御奉行泉本正助様ニ被ゝ遣い御狀、長サ壹尺程、巾五寸程、厚サ壹寸程ニゐ、油紙ニ包、白キ苧を以十文字ニ結ひ有ゝ之御狀箱一つ、幷宿繼御證文壹通御渡、早ゝ繼送い様被仰渡いニ付、與右衛門一同御證文拜見之上、御狀箱封ジ之所ニ紙ヲ當、風呂敷ニ包、桐之箱ニ入、眞田紐ニゐ結ひ、革籠ニ入、兼ゐ勘解由方ニ相詰罷在い御傳馬定人足大傳馬町壹丁目半七店與市、同雇人足同町半助店次兵衛方同居梅藏、同定人足同町貳丁目吉右衛門店金藏ニ、右革籠相渡、刻限申聞、途中入念板橋宿ニ持參い様申付、即刻差立申上刻請取い間、私共連印前書高橋小三郎殿宛之請書御同人ニ差出申い。然ル處同日夕七半時過湯嶋六丁目月行事清吉ゟ勘解由宛之文通差越い間、一覽いゐしい處、前書與市梅藏儀、同町往還通り懸りい節、本郷竹町久兵衛店國八ゝ申者及ニ口論い處、御用狀ゝ早速板橋宿ニ相送り、双方共捕押置い旨申來、子細難相分い ニ付、與右衛門義、右町内ニ罷越、清吉ニ懸合、始末承い處、前書與市梅藏口書ニ申上い通手續ニゐ、打擲ニ逢い ニ付、相手之内國八ゝ捕押自身番屋ニ召連來い ニ付、疵人ニゝ醫師を掛手當いゝし、國八ゝ留置、且相手之内辰五郎儀、右御狀箱を持板橋宿ニ罷越い旨及ゝ承い間、湯島六町目家主佐平次弟半右衛門、同町抱番人五助を追駈させい處、同宿手前平尾ゝ申所ニゐ、辰五郎儀駕籠ニ乘歸來い ニ、行逢い ニ付、連歸相尋い處、御用狀ゝ宿役人ニ相渡請取書取參い旨申聞い間、右請取書一覽仕い處、於ニ江戸ニ松平和泉守様ゟ至ニ佐州ニ泉本正助様ニ被ゝ遣い油紙包御狀箱壹、青糸結御差扎壹枚、幷御判印壹ヶ所、和泉守様宿繼御證文壹通、白紙ニ御包、くゝんせ寄ニゐ右御狀箱ニ御結付有ゝ之、但油紙ニゐ御覆有ゝ之い。右之通相改、今二日○文政九年六月。申中刻慥ニ請取、即刻繼送い旨相認、板橋宿問屋新左衛門印形有ゝ之、勘解由宛之書付ニゐ、見覺手跡印形等も相違無ゝ之い得共、無ニ心元存、同夜四時過町内抱定使傳兵衛ゝ申ゝをのヲ板橋宿ニ差遣、爲ニ承糺い處、前書辰五郎義壹人ニゐ御狀箱持來い ニ付、不審ニ存相咎い處、相仕之者病氣ニ付、無據壹人ニゐ參い旨申聞い間、申中刻請取い旨、勘解由宛之請取書辰五郎ニ相渡、直ニ蕨宿ニ繼送い儀ニゐ、尤御狀箱ニ付異變等無ゝ之旨同宿年寄名左衛門申聞い ニ付、右繼送りい趣爲念書付渡呉い様申談、問屋新左衛門ゟ書付請取立歸り、與市梅藏疵痛所とも格別之様子ニも不相見ゝい間、私共町内ニ引取、相手辰五郎國八ゝ右町内ニ預置、同○文政九年六月。三日御檢使相願い處、辰五郎國八とも當御組同心衆ニ被ニ召捕一、御檢使之上、被ニ召出一御吟味相成い儀ニ御座い。何分御聞濟奉ゝ願い。子細曾ゐ無ニ御座一い。以上。

戌（○文政九年）六月四日預。

湯島六町目月行事　清　吉
股　昌　期　戌五十三歳

同斷。

同斷。

五人組　清兵衛　戌三十九歳
同町家主佐平次弟　半左衛門　戌五十歳
同町抱番人　五助　戌三十四歳
右申口

私共之内清吉儀ハ、常州新治郡府中宿香瓦町町人清吉悴ニ而、親之跡ハ弟彦兵衛相續いたし、私義ハ拾壹ヶ年以前子年○文化十三年。御當地ニ出、同町重右衛門店借受蠟燭渡世いたし、九年以前寅年○文政元年。四月同町家主利助養子ニ成、間もなく同人病死、後跡相續、家主役相勤申ゆ。

一、清兵衛儀ハ、下谷茅町壹丁目忠藏店病死權左衛門悴ニ而、跡相續古着渡世いたし、七年以前辰年○文政三年。七月中湯島六町目家主安兵衛退役致ゆニ付、同人跡家主相勤罷在ゆ。私共町内ニ而大傳馬町壹丁目半七店御傳馬定人足與市外壹人義、本郷竹町吉兵衛店辰五郎外四人ヲ及ニ口論一、與市梅藏共打擲ニ逢、疵痛所請ゆニ付、大傳馬町町役人共ゟ御訴申上、御檢使之上、被ニ召出一、御吟味御座ゆ。此段清吉清兵衛申上ゆ。私共之内清吉儀ハ、當六月○文政九年。之月行麦ニ相當り、同○文政九年六月。二日夕七時過、町内自身番屋ニ相詰居ゆ處、近邊物騒敷ゆニ付、立出見ゆ處、自身番屋ゟ西之方凡五拾間程隔り人立有ゟ之ゆ間、早速罷出ゆ處、其節ハ最早口論相鎭り、大傳馬町壹丁目半七店御傳馬定人足與市同町半助店治兵衛方同居同雇人足梅藏ニゆ哉、本郷竹町久兵衛店國八ニゆ哉、其節ハ名前も不ニ存捕押一、自身番屋ニ引連參、相手之者ニ付、町内ニ預ケゆ旨申聞ゆ間、請取、手當致し、兩人共疵痛所有ニ之ゆニ付介抱いたし、子細承りゆ處、御用狀箱持參りゆ人足之旨申聞、右御用狀箱ハ往還ニ取落ゆ儘差置ゆ間、取寄呉ゆ樣申ゆ間、驚右場所ニ罷越見ゆ處、右御品ハ無ニ之一、往來人立之内ニ而、御用狀箱ハ前書辰五郎義直ニ板橋宿ニ持參致しゆ旨、口ゟニ申ゆ間、同町家主佐平次弟半左衛門同町抱番人五助ニ申付、辰五郎儀彌板橋宿ニ御用狀箱持參ゆ哉、同宿ニ罷越承合可ニ申旨申談遣ゆ處、同七半時過半左衛門五助義、辰五郎ヲ駕籠ニ乘連來ゆ間、子細相尋ゆ處、板橋宿手前字平尾ヶ申所迄罷越ゆ處、向ゟ辰五郎儀駕籠ニ乘參りゆ間、御狀箱ハ如何いたしゆ哉ヶ承りゆ得ハ、板橋宿宿役人ニ相渡請取書取來りゆ旨申聞ゆニ付、右書付爲ニ見一ゆ樣申談ゆ得ハ、大切之書付ニ付、容易ニ難ニ見せ一旨申、同人ハ口論相手之内ニ付、駕籠ニ乘せゆ儘途中心付召連參ゆ旨、右兩人申聞ゆ間、辰五郎ニ相尋ゆ處、打擲等致しゆ始末ハ不ニ申聞一、御狀箱入ゆ革籠ニゆ哉往還ニ落有ゟ之、右ハ御用狀ニゆ處、刻限遲滯致しゆ而ハ以之外ニゆ旨往來之ゟの申ゆニ付、直ニ同宿ニ持參、問屋新左衛門ニ相渡、受取書取參りゆ旨申ゆ間、右書付一覽いたしゆ處、申中刻同宿ニ着致し、蕨宿ニ繼送ゆ旨、右新左衛門印形馬込勘解由宛之書面ニ有ゟ之、且與市梅藏義御用狀箱ハ如何致ゆ哉ヶ度ヶ承り、同人共强取昇せ居ゆ樣子ニ付、委細之義ハ不ニ申聞一、町役人ゟ繼送り相濟ゆ間、安心致ゆ樣申聞、且辰五郎ハ番屋ニ留置、勘解由方ニ前書與市梅藏義國八ヶ及ニ口論一ゆ處、御用狀ハ早速右宿ニ相送り、當人共双方捕押置ゆ旨清吉一名ニ而勘解由宛之手紙相認メ、同人方ニ差遣ゆ處、無程大傳馬町壹丁目月行事與右衛門義自身番屋ニ罷越、始末承合ゆニ付、前書之趣申聞、御用狀ハ口論相手之内辰五郎儀板橋宿ニ持參致ゆニ付、前書之手續ニ而連歸留置ゆ旨申聞、辰五郎ゟ請取ゆ書付爲ニ見ゆ處、彌同宿ニ無滯着致しゆ否之儀ハ、猶

又勘解由方ゟ問合可申旨申聞、且與市梅藏とも疵所之儀格別之樣子ニも不相見、永く私共町内ニ留置いも氣之毒ニ付、引取可申旨與右衞門ゟ申聞い間、則引渡、辰五郎國八儀も、夫と與右衞門ゟ居町町役人ニ相預引渡、立歸りい後、大傳馬町町役人共ゟ右之趣翌三日（文政九年六月。）當御番所ニ御訴申上い處、御檢使之衆御越有之、與市梅藏疵所御改御座い處、與市儀も右之肩ゟ背ニ懸八寸程打疵壹ヶ所、腰ニ五寸程同壹ヶ所、右之足太股ニ六寸程同壹ヶ所、梅藏義も左肩ゟ首ニ掛ケ六寸程同壹ヶ所、左足太股ニ五寸程同壹ヶ所有之、相手辰五郎國八義も被召捕、翌四日（文政九年六月。）一件一同被召出、右兩人も入牢、私共も御預被仰付、其後本郷同朋町重右衞門店幸吉、同町源藏店五郎吉儀も、欠込訴いたし、本郷竹町喜平次店當時病死虎次郎儀も被召捕、一同入牢被仰付、御吟味罷成い。前書之通り辰五郎儀、板橋宿迄御用狀持參い旨承い上も、早速私共之内罷越可申處、其節町役人共無人ニ付疵人手當又も相手之その預置い儀ニ付、難手放し、半左衞門外壹人差遣い儀ニ付、勘解由方に清吉ゟ掛合い節も、前書之始末委細可申遣處、其節も最早辰五郎儀も立歸り、板橋宿に繼送りい段無相違相聞い間、彼是繁雜ニ紛レ、町役人ゟ送屆い旨申遣い段、奉恐入い。再應御吟味御座い得共、前書之外子細曾ゐ無御座い。且虎次郎儀も、御吟味中致病死い段奉承知い旨申上いニ付、被仰聞い也、私共儀、當六月二日（文政九年。）夕七時過町内自身番屋ニ相詰罷在い處、近邊物騷敷いニ付立出い節、御傳馬人足與市梅藏ニい哉、國八を捕自身番屋に召連參いニ付、子細相尋い處、與市梅藏義も御用狀箱持參い途中、右國八其外名前不存その大勢ニ打擲ニ逢、御狀箱も往還に捨置い旨申聞い間、右場所に罷越い處、御狀箱も無之、右も辰五郎儀板橋宿に持參い旨往來之もの共申聞いニ付、半左衞門外壹人に申付、爲追駈い處、辰五郎義板橋宿宿役人に御狀箱相渡、請取書取立歸い途中ニゐ、行合連歸り、右躰繼送り無滯相濟いニ付、町役人ゟ板橋宿に繼送い旨、一旦清吉ゟ勘解由方に及欠合、其上口論場所迄格別問合隔りい儀ニも無之上も、早速罷出相制し可申處、彼是及遲滯い段、家主役之身分一同不埒之旨御吟味請、可申立樣無御座い。

一、半左衞門五助申上い。半左衞門も、兄佐平次方ニ同居日雇稼いゐし、五助儀も、湯島六町目抱番人相成罷在い。當六月二日（文政九年。）夕七時過前書清吉外壹人口書ニ申上い通之手續ニゐ、本郷竹町吉兵衞店辰五郎儀、御用狀箱を持板橋宿に罷越い旨及承い間、同人を追駈參、引戻い樣清吉清兵衞ゟ申付いニ付、連立板橋宿に向ケ罷越い處、同宿手前字平尾と申所ニゐ、向之方ゟ辰五郎儀駕籠ニ乘參りいニ行逢い間御狀箱も如何致い哉と承りい得も、板橋宿宿役人に相渡請取書取參い旨申い間、右書付爲見い樣申い得共、不聞入、同人も前書與市梅藏を打擲致い相手之者ニ有之い間、何もニも町内に召連可參と存、其儘駕籠ニ附添心付、町内自身番屋に召連立歸り、其段清吉清兵衞に申聞置い處、右之趣大傳馬町町役人共ゟ御訴申上、御檢使之上、私共儀後被召出、御預被仰付、御吟味罷成い。再應御吟味御座い得共、前書之外子細曾ゐ無御座い。何分御聞濟奉願い。

右之通相違不申上い。以上。

戌（文政六年）月

清吉　清兵衞
半左衞門　五助

本郷竹町五人組持店
新五郎　戌二十七歳。

湯島六丁目孫八店
市五郎　戌三十壹歳。

私共儀、本郷竹町吉兵衛店辰五郎外四人儀、御用狀持參い大傳馬町壹丁目半七店與市外壹人ヲ打擲之上疵付い一件、御檢使之上、私共儀も引合ニ付被召出、御吟味御座い。

此段、新五郎儀も、米舂渡世いゑし申い。當六月二日〇文政九年。本郷同朋町良右衛門店幸吉、同町源藏店五郎吉本郷竹町喜平次店虎次郎ニ出會い處、右之その共申聞いも、知人前書市五郎儀、先達ゑ妻ヲ呼迎い處、いまゝ歡ニ不相越、同日も渡世相休宿元ニ罷在い旨ニ付、私義も參ル間敷哉之旨申聞い間、同意いゑし、酒肴持參、市五郎方ニ罷越い處、本郷竹町吉兵衛店辰五郎、同町久兵衛店國八義、追ゝ罷越、酒給合い處、私儀も外用向有之いニ付、同日夕八半時頃先ニ立歸い跡、右辰五郎其外之者とも儀、前書與市梅藏を打擲いゝし疵付いニ付、御檢使之上、御吟味相成、私儀も被召出い儀ニ御座い。再應御吟味御座い得共、私義も先ニ立歸りい儀ニ付、跡之儀も一向不申存、右口論ニ携い義無御座い。何分御聞濟奉願い。

一、市五郎儀も、大工職いゑし申い。當六月二日〇文政九年。職分相休宿元ニ罷在い處、晝九時頃前書幸吉五郎吉虎次郎新五郎儀酒肴持參、私方ニ罷越、私義當三月〇文政九年。中家主孫八娘そよを妻ニ貰請い處、右歡ニ參りい旨申聞い間、彼是咄合罷在い内、追ゝ辰五郎國八義も罷越いニ付、銘ゝ持參い酒肴取披給合い處、新五郎儀も、用事有之い由ニゑ夕八半時頃立歸、私義も強醉出不覺熟睡いゝしい内、辰五郎外

大傳馬町貳丁目吉右衛門店御傳馬定人足　金戌藏
平岩右膳御代官所中山道板橋宿問屋　新左衛門戌
右申口

人共立歸い處、私宅表之方往還ニゑ、御用狀持夫與市梅藏を打擲いゝし疵付い哉、右之通熟睡いゝし居いニ付、一向存不申、尤右一件ニ携い義曾ゑ無御座い。何分御聞濟奉願い。

一、金藏申上い。私義御傳馬定人足致罷在い。當六月二日〇文政九年。大傳馬町壹丁目半七店與市同町半助店治兵衛方同居梅藏一同、御傳馬役馬込勘解由宅ニ相詰罷在い處、同日夕七時頃與市梅藏口書ニ申上い通之手續ニゑ、御用狀入い革籠幷御用と記い高張挑灯請取、代ル〳〵擔キ板橋宿迄罷越い途中、暑邪ニ申りい哉氣分不宜、筋違橋御門外迄罷越い處、頭痛强歩行相成兼いニ付、其段與市梅藏ニ申聞い處、右體病氣ニいハゝ早ゝ立歸り手當いゝし可申、御用狀も兩人ニゑ持參可申旨申聞い間、賴合立別レ、直ニ立歸り可申處、益氣分惡敷いニ付、途中所ゝニ立休らひ、同七半時過漸大傳馬町ニ立歸り、其段町役人ニ申聞置い儀ニゑ、前書口論一件ニ携い儀無御座い。何分御聞濟奉願い。

一、新左衛門申上い。私儀板橋宿問屋いゑし、當六月二日〇文政九年。夕七半時頃宿役人一同役場ニ相詰罷在い處、前書辰五郎儀、松平和泉守樣宿繼御證文を以佐渡御奉行泉本正助樣ニ被遣い御用狀、革籠ニ入い儘持來いニ付、請取、定例持夫も貳人或も三人ニゑ持參い處、辰五郎壹人罷越い段不審ニ存、相尋い處、相仕之その途中ニゑ病氣ニ付、無據壹人ニゑ罷越い儀之旨相答い間、御證文拜見之上、得ゝ相改い處、御封印等相替りい儀も無御座い間、申中刻請取、即刻蕨宿ニ繼送い旨私印形いゝし、馬込勘解由宛之書付辰五郎ニ相渡い處、立歸り申い、同夜四時頃大傳馬町壹丁目抱定使傳兵衛と申その罷越、前書御用狀も蕨宿ニ繼送りい段ニ相違無ゝ之哉之旨承い間。改之上右宿ニ繼送り無滯相濟い旨相答い得も、請取書途中ニゑ相滯い儀有之いニ付、爲念書付差出呉い樣申聞い間、任其意差出申い。然ル

處右ゝ御用狀持夫與市梅藏を前書辰五郎其外之者共儀湯島六丁目往還ニ而及ニ打擲一ハ之付、御檢使之上、御吟味相成、私儀も被ニ召出一ハ儀ニ御座ハ。右御用狀持參辰五郎儀ゝ、與市梅藏を打擲ハ之しハを
の之ニ而、相仕之者病氣ニ付壹人之ニ而持來ハ旨申聞ハゝ、僞ハ儀之旨奉ニ承知一ハ。再應御吟味御座ハ得共、
前書之外子細曾而無御座一、何分御聞濟奉ニ願ハ。
右之通相違不ニ申上一ハ。以上。
戌（○文政九年）月

新五郎　市五郎
金藏　新左衞門
本鄕竹町吉兵衞店　辰五郎

申渡

（朱）松平和泉守殿御差圖。

其方儀、去年六月二日○文政九年國八外三人一同ニ而市五郎方ニ罷越酒給合、同日夕七時過同人方立出、其方儀ゝ先ニ立路次口ゟ往還ニ出ハ節、御用物持居ハ與市梅藏共不ニ心付一、與市ゝ高張挑灯を持、梅藏儀ゝ革籠を擔キ駈參ハ節、其方儀强給醉足元不ニ定過一チ梅藏ニ突當りハ處、同人義詞荒ニ相咎ハ故、心外ニ存、
拳を以打掛ハ處、梅藏儀も立向ハニ付、互ニ拳ニ而打合ハ處、與市儀其方を可ニ捕押一ゝ立寄ハを、國八義
與市後ロゟ組付揉合居ハ節、幸吉五郎吉虎次郎儀も荷擔ハし、一同ニ而右兩人ヲ打擲ハ之しハ節、與
市儀國八を捕、御用物持居ハそのを打擲致しハゝ不ニ相濟一旨呼ゝりハニ付、其節御用物ゝ心付ハ間、驚
逃去ハ得共、國八身分無ニ心元一存立戻見ハ處、喧嘩も相鎭り、右跡ニ梅藏持居ハ革籠捨有ゝ之ハ處、往來人
之內ニ而御用狀刻限遲滯ハ之しハゝ不相濟一旨申ハ間、其方口論仕出シハゝ事起り、御用狀差滯ハ而ゝ
如何樣ニも難儀可ニ相掛一哉難ハ斗、怖敷相成、直ニ右革籠を持、板橋宿問屋新左衞門方ニ罷越、相仕之者
の途中ニ而相煩ハニ付、壹人ニ而持參致しハ旨、品能申僞、同人ニ相渡ハ段、御狀箱損ハ儀ゝ勿論、刻
限等無ニ遲滯一板橋宿ゟ繼立ハ儀ニゝハ得共、右始末不屆ニ付、江戸拾里四方追放申付ル。

但、御構場所徘徊致間鋪。

本鄕竹町久兵衞店入墨　國八　同所同朋町良右衞門店　幸吉
同町源藏店　五郎吉

其方共儀、去年○文政九年六月二日辰五郎一同市五郎方ニ罷越酒給合、强醉出、同日夕七時過連立同人方立出、
辰五郎儀ゝ先ニ立路次口ゟ往還ニ出ハ砌、御用物持居ハ人足共不ニ心付一、與市ゝ高張挑灯を持、梅藏儀ゝ
革籠ヲ擔キ、聲掛駈參ハを、辰五郎儀過チ梅藏ニ突當りハゟ事起り、及ニ口論一、互ニ拳を以打合ハ節、與
市儀辰五郎を可ニ捕押一ゝ立寄ハニ付、國八義與市後ロゟ組付、揉合居ハ間、其方共幷當時病死虎次郎一同
ニ而、梅藏外壹人ヲ打擲ハ之しハ處、與市儀國八ヲ捕押、御用物持居ハそのヲ打擲致しハゝ不相濟一旨
呼ゝりハニ付、其節御用物ゝ心付ハ故、驚後難怖敷相成、其方共ゝ一同其場を逃去、國八義ゝ被ニ捕押一ハ
始末、不屆ニ付、國八ゝ江戸拂、幸吉五郎吉ゝ自訴ハ之しハニ付、五十日手鎖申付ル。

但、御構場所徘徊致間敷。

大傳馬町壹丁目半七店御傳馬定人足　與市　同町半助店治兵衞方同居同雇人足　梅藏

其方共儀去年○文政九年六月二日夕七時過、宿繼御用狀入ハ革籠御傳馬役馬込勘解由ゟ請取、與市ゝ高張挑灯

を持、梅藏儀も右革籠を擔キ、立出、駈參りゆ途中、湯島六町目往還ニゐ、辰五郎義酒ニ給醉足元不ㇾ定梅藏ニ突當りゆ節、同人義詞荒ニ相咎ゆゑ事起、及ニ口論、辰五郎儀理不盡ニ拳ヲ以打掛りゆ故、互ニ打合ゆ節、與市儀相手ヲ可ニ捕押ㇾと立寄ゆ砌、國八儀後ロゑ組付ゆ間、揉合居ゆ處、幸吉五郎吉幷當時病死虎次郎義、辰五郎ニ荷擔致、右之者共ニ打擲ニ逢ゆ紛、御狀箱も往還ニ取落し、與市儀國八ヲ捕押、御用物持居ゆそのヲ打擲いゐしゆゐも不相濟旨呼ゐりゆ處、辰五郎外三人も逃去ゆニ付、其方共兩人ニゐ國八ヲ捕押、自身番屋ニ連參ゆ跡ニゐ、相手辰五郎儀、右御狀箱ヲ持參、板橋宿宿役人ニ相渡、御狀箱も無ニ遲滯ㇾ繼立ゆ儀ニもゆ得共、相手を取逃間鋪と存ゆ迚、大切之御用物を往還ニ差置、附添ゑ不ㇾ致、兩人共自身番屋ニ罷在ゆ段、不埒ニ付、兩人共三十日手鎖申付ル。

湯島六町目月行事　清吉　五人組　清兵衛

其方共儀、去年〇文政九年。六月二日夕七時過、町內自身番屋ニ相詰罷在ゆ處、近邊物騷敷ゆ間、往還ニ立出ゆ節、與市梅藏義國八ヲ捕自身番屋ニ連參ゆニ付、子細相尋ゆ處、御狀箱持通りゆ途中、國八外四人之その共ニ打擲ニ逢、右御狀箱も往還ニ差置ゆ旨申聞ゆ間、早速右場所ニ罷越相尋ゆ處、御狀箱も辰五郎儀、板橋宿ニ持參いゐしゆ旨往來之者共申聞ゆニ付、直ニ半左衛門外壹人ニ申付、爲ニ追駈ゆ處、辰五郎義板橋宿宿役人ニ御狀箱相渡、同所ニゐ繼立ゆ旨之請取書取立歸ゆ途中、行會、連歸ゆニ付、右之趣清吉ゑ勘解由方ニ及ニ欠合ゆ得共、右體口論有ニ之ゆハヽ、其節世上物騷敷申渡ゆ儀も有ニ之ゆ上も、早速罷出捕押可ニ申處、無ニ其儀等閑ニ致し置ゆ段、家主之身分番屋ニ相詰居ゆ詮無ニ之、旁右始末不屆ニ付、兩人共家主役取放、百日手鎖申付ル。

其方共儀、右一件ニ付遂ニ吟味ㇾ處、不埒之筋無ニ之間無ニ構。

右之通申渡間、其旨可ㇾ存。

亥〇文政十年。十二月廿五日

御傳馬役　馬込勘解由
同町吉右衛門店御傳馬人足　金藏
湯島六町目家主佐平次弟　半左衛門
同町孫八店　市五郎
大傳馬町壹丁目月行事　與右衛門
同町抱定使　傳兵衛
同町抱番人　五助
本郷竹町五人組持店　新五郎
平岩右膳御代官所中山道板橋宿問屋　新左衛門

〔附記、一〕屋鋪ヲ市人ニ貸ス勿ラシム

十四日〇文政九年六月〇中略。

封廻狀

申渡之覺

拜領屋敷長屋を町人等ニ貸置ゆ儀も勿論、屋敷地面之內、他人ニ貸置ゆ儀も、不相成事ニゆ。改先年

右町役人宿役人

——撰要永久錄

附記、一　屋鋪ヲ市人ニ貸ス勿ラシム

御番醫師　山田宗悅　名代望月三英。

相觸い趣も有レ之い處、其方長屋町人等に貸置い趣相聞不束之事こい。御穿鑿をも可レ被レ遂い得共、此度も先不レ被レ及レ其御沙汰こい。依レ之屋敷被レ召上、差扣被レ仰レ付レ之。

六月○文政九年。

右於本多遠江守○正意。御役宅、同人申レ渡レ之。御目付新見伊賀守○正路。相越ス。

十六日○文政九年六月○中略。

本多遠江守殿○正意。御渡御書付

屋敷之内ヲ町人等ニ貸置い儀、前々より御制禁こい。彌以て差置申間敷い。至レ來春○文政十年。可レ相改こい間、可レ存レ其旨こい。

右之通安永八亥年相觸い處、近來猥ニ相成、屋敷地面之内ハ勿論、長屋をも町人等ニ貸置い趣相聞い。彌右之趣相守、心得違無レ之様可レ致い、尤追ゐ可レ相改こい間、可レ存レ其趣こい。

右之通可レ被レ相觸こい。

六月○文政九年。

——柳營日次記

撰要永久錄ハ、本令ニ左ノ如ク附記ス。

右之通御書付出い間、爲レ心得可レ相觸旨、從レ町御奉行所レ被レ仰渡こい間、町中不レ洩様可レ相觸こい。以上。

六月廿一日○文政九年。

〔附記、二〕濱庭修理

晦日○文政九年六月。

附記、二　濱庭修理

時服三。

濱御庭中島海手兩御茶屋其外御修復中、見廻り相勤い ニ付被下レ之。

右於芙蓉間、老中駿河守○植村家長。列座、和泉守○松平乘寛。申レ渡レ之。若年寄中侍座。

小普請方　山田卯太郎

銀七枚。

同斷御用相勤い ニ付被下レ之。

右於御右筆部屋縁頰、出羽守○水野忠成。申レ渡レ之。侍座同前。

小普請奉行　夏目左近將監○信平。

同五枚。

同貳枚。

同三枚。

同斷ニ付被下レ之。

小普請方改役勤方　石倉内三郎
同假役　白石左兵衛
大工棟梁　溝口萬藏

右於燒火之間、林肥後守○忠英。申レ渡レ之。

——柳營日次記○文政略記同。

三十日○文政九年六月。小普請奉行夏目左近將監濱の庭園茶亭その他修復の事奉はりしにより、時服を賜ふ。所屬のともがら賜物差あり。

——文恭院殿御實紀

〔附記、三〕測量器

八日○文政九年七月○中略。

殷昌期

附記、三　測量器

銀三枚。

工夫仕い測量器差上いに付被下之。

右於鄭躅間、若年寄中出座。京極周防守（高傳）申渡之。

天文方高橋作左衛門手附富士見御寶藏番
足立左内

——柳營日次記（文政略記同）。

七月九日己丑（文政九年（紀元二四九六年）己丑、三正綜覽）。屋鋪相對替有り。是月（文政九年（紀元二四八六年）七月）。外ニモ屋鋪受授ヲ見ル。（相對替御書附書拔。屋敷書拔。）

屋鋪受授　文政九年七月左ノ屋鋪受授有り。

文政九戌年七月九日

出羽守殿（水野忠成）。丹阿彌ヲ以御渡、河内守（初鹿野信政）。請取。

御普請奉行に。

森川銓太郎拜領屋敷
小日向築地五百坪

太田伊織拜領屋敷
駒込貳百五拾坪

大久保宗次郎拜領屋敷
小石川大塚四百貳拾九坪

夏目藤四郎拜領屋敷
牛込御門内四百六拾坪餘

藤野茂兵衛拜領屋敷
赤坂貳百四拾三坪餘

二丸御留守居
太田伊織に
小普請組佐野豐前守支配
森川銓太郎に
寄合
夏目藤四郎に
小普請組佐野豐前守支配
大久保宗次郎に
御勘定吟味方改役
飯田庫三郎に

屋鋪受授

太田伊織
森川銓太郎
夏目藤四郎
大久保宗次郎
飯田庫三郎

屋鋪受授事蹟

飯田庫三郎拜領屋敷
四谷表大番町五百坪之内貳百坪

三輪滿藏拜領屋敷
赤坂三百坪

鈴木藤十郎拜領屋敷
小石川新小川町貳百拾貳坪餘

大村小左衛門拜領屋敷
本所南割下水貳百坪

右願之通、屋敷相對替被仰付い間、得其意、例之通可被致い。

文政九戌年七月廿五日

出羽守殿（水野忠成）。丹阿彌ヲ以御渡、河内守（初鹿野信政）。請取。

御普請奉行に。

小宮山又七郎拜領屋敷
四谷内藤宿貳百坪

玉井藤右衛門拜領屋敷
新道壹番町三百坪餘

大久保十五郎拜領屋敷
田安樹木八百拾坪

佐野萬之助拜領屋敷
小日向馬場五百坪餘

津金新十郎拜領屋敷
四谷内藤宿六百坪餘之内三百坪餘

同所之内
三百坪餘

三輪滿藏
藤野茂兵
大村小左
鈴木藤十郎
玉井藤右
小宮山又七郎
津金新十郎
大久保十五郎
佐野萬之助

御勘定評定所留役
三輪滿藏に
支配勘定
藤野茂兵衛に
兵部卿殿近習番
大村小左衛門に
小普請組淺野隼人組
鈴木藤十郎に

大御番戸田美濃守組與頭
玉井藤右衛門に
御書院番松平内匠頭組
小宮山又七郎に
西丸御小性組岡部因幡守組
津金新十郎に
小普請組土屋讃岐守支配
大久保十五郎に
長井五右衛門支配
佐野萬之助に

吉田八郎兵　西山新右衛門拜領屋敷
牛込藥地百五拾坪餘
西山新右　吉田八郎兵衛拜領屋敷
小石川馬場百貳拾坪餘
櫻井傳次郎　中神伴次郎拜領屋敷
牛込若宮貳百坪
中神伴次郎　櫻井傳次郎拜領屋敷
牛込山伏町三百五拾貳坪餘之內百五拾坪
小野鼎之助　右願之通、屋敷相對替被仰付ゐ間、得其意、例之通可被致ゐ。

文政九戌年
七月廿六日
一、青山權田原元御屋敷跡
鈴木庄八郎上地、先年小野定右衛門に御預ゐ場所、此度御改ゐ處、右庄八郎上地道式に相成申ゐ。

〔附記、一〕城郭附近等花火申禁

附記、一城郭附近等花火申禁

十一日○文政九年七月○中略。
京極周防守殿○高儁。御渡御書付

御納戸組頭
吉田八郎兵衛に
小普請組神尾豐後守支配
西山新右衛門に
太田內藏頭支配
櫻井傳次郎に
久世伊勢守支配
中神伴次郎に

——相對替御書附書拔

小普請組石川民部支配
小野鼎之助頂地

——屋敷書拔

花火之儀、御曲輪近邊ゑ勿論之儀、程遠き場所たりとも、家近之場所にゐて、無用に致し、且海手又ゑ川筋にゐも、大造之花火流星等さて申間敷處、近來相圖之火同樣之花火さてゐ儀、是又無用に可致旨、度々相觸ゐ處、今以心得違之向も有之哉に相聞、如何之事にゐ。前々相觸ゐ通、堅く無用さるへくゐ。若此以後心得違之向も有之ゐハゝ、急度御沙汰も可有之ゐ。

右之通、向々に可被相觸ゐ。

七月○文政九年。

〔附記、二〕傳通院供所修理

附記、二傳通院供所修理

十二日○文化九年七月○中略。
銀七枚。
傳通院樣御供所向御修復御用中見廻り相勤ゐに付被下之。
右於御右筆部屋緣頰、出羽守○水野忠成。申渡之。若年寄中侍座。
同五枚。
同斷御用相勤ゐに付被下之。
右於鄰躅間、若年寄中出座、京極周防守○高儁。申渡之。
同三枚ツゝ。
同貳枚。
同斷に付被下之。
右於燒火間、林肥後守○忠英。申渡之。

小普請方
後藤彌五兵衛

小普請方改役
河合喜左衛門

同御徒假役
栗原平十郎

同大工棟梁
小林土佐

〔附記、三〕藏奉行役宅普請

附記、三藏奉行役宅普請

小普請方吟味役
上川傳右衛門

——柳營日次記

——柳營日次記○文政略記同。

十六日○文政九年七月○中略。

同（○銀）七枚ツヽ。　　御勘定吟味方改役大岩龜太郎　御勘定中村又左衛門

御藏奉行御役宅御普請中附切相勤ゆニ付被下之。

右於ニ同席。○御右筆部屋録頭。同人○水野忠成。申ニ渡之。侍座同前。○林忠英侍座。

——柳營日次記

臨時手當支給

廿一日辛丑○文政九年（紀元二四八六年）七月○辛丑、三正綜覽。臨時夜警ノ爲メ少ナカラズ町費ヲ要シタルニ由リ、特ニ府内各町ニ手當ヲ給ス。○撰要永久錄。

臨時手當支給事蹟

臨時手當支給　撰要永久錄ニ據ル。

臨時町入用相掛ゆニ付御手當。

一、此度惣町々臨時夜番相勤、多分之町入用相掛ゆ旨、御聽ニ入、格別之思召を以、御手當被ニ下置ゆ段被仰渡ゆニ付、渡方積金差出ゆ振合を以、左之通。

一、名主一ト支配限地主惣代居付地主壹人。

但、小支配下ニ而居付地主無之分も、月行事。

一、名主銘々。

但、病氣差合ゆハヽ、組合名主請持可申ゆ。

一、行事持之分、二三ヶ町宛組合居ゆ共、積金差出ゆ通り居付地主壹人。

但、居付地主無之ゆハヽ、月行事壹人。

一、惣町之儀、奥行不同有之ゆ間、是迄町入用割合ゆ小間高取調、一組限り寄セ付置可申ゆ。

一、積金無之共差加金いたしゆ町々にも、割渡可申ゆ。

一、積金幷差加金共更ニ無之分も、相除可申ゆ。

一、惣町中上中下三段ニ位分ケ致ゆ儀、巨細ニも相分り兼ゆ間、先年勸進能之節、町年寄方ニ而札割渡ゆ振合を以、貳拾壹組を三段ニ相分ケ可申ゆ。

但、此度上中下位分ケ之儀、上ゟ中壹割劣り、中ゟ下同斷、上下見競、貳割劣ニ相成申ゆ。

上、壹番組。貳番組。四番組。五番組。六番組。七番組。八番組。十一番組。

中、三番組。九番組。十貳番組。十五番組。十七番組。番外吉原。

下、十番組。十三番組。十四番組。十六番組。十八番組。十九番組。貳十番組。貳十一番組。番外品川。

一、初日日本橋ゟ北之方、

一番組。貳番組。三番組。十一番組。十貳番組。十三番組。十四番組。十六番組。十八番組。貳十番組。貳十一番組。番外吉原。〆十二組。

一、二日目日本橋ゟ南之方、

四番組。五番組。六番組。七番組。八番組。九番組。十番組。十五番組。十七番組。十九番組。番外品川。〆十壹組。

右之通、一組限惣小間高ニ割付ゆ金銀、一組宛罷出ゆ地主惣代居付地主支配名主一同爲立合相渡、尤多人數ニ而可及混雜間、請取書之儀も、兼而渡金高帳面仕立置、一組居付地主惣代壹人、名主惣代壹人、印

形爲致い樣可仕い。差掛りい儀ニ付、荒增評儀仕、此段申上い。以上。

年番肝煎　同名主

戌（○文政九年）七月

右ゝ追ゝ御内意有之いニ付、寄合評儀之上、前書之通書面差上置い處、同月（○文政九年七月）廿一日御伺濟ニ相成い旨、被仰渡いニ付、同日茅場町藥師別當所に寄合、惣町小間高取集方等相談之上、同（○文政九年七月）廿三日達書案伺い處、書面之通可取計旨ニ付、同（○文政九年七月）廿四日組ゝ肝煎壹人宛相呼、左之達書寫物ニ致い。

惣町ゝ小間高差急キ御入用之旨、御詰合御役人方被仰渡い間、一ト支配限り、町入用他町組合出銀いたしい小間高御書出、可被成い。

但、他町組合小間割出銀仕來無之裏行無之場所ハ、裏行貳十間ニ平均い小間御書出可被成い。

一、積金不差出町ゝハ、相除キ、且聊ニ〆も差加金差出い町ゝハ御書出可被成い。

右之通、御心得、別紙案紙之通、半紙堅帳ニ御認、御組合分御取集メ、惣寄高御綴込、明後晝四ツ時迄、拙者共詰所へ御差出可被成い。此段御達申い。以上。

但、月行事持場所之儀ハ、各樣ニ〆御取調、御加印ニ〆御差出可被成い。

戌（○文政九年）七月廿四日

半紙堅帳

一、小間何拾間　何番組名主誰支配　何町

一、同　何拾間　何町

一、同　何拾間　何町

但、裏行不同有之、平均小間。

町會所　年番肝煎

何町名主誰

〆惣小間何百何拾間。

右ハ、積金幷差加金差出い町ゝニ御座い。以上。

戌（○文政九年）七月

何番組何拾何ケ町

惣小間高何百何十間。

右之通御座い。以上。

戌（○文政九年）七月

何番組何町肝煎

名主　誰　印

同月（○文政九年七月）廿六日同勤惣出ニ〆、組ゝ小間高取集メ、左之通金高割付書認、翌廿七日（○文政九年七月）御詰合方に當番ゟ差上い。

御手當金割付書

一、金千八百四拾兩

但、惣小間拾三萬千三百拾四間半、町數千四百八拾貳町、上中下三段壹割劣ニ割付い。

内譯

上之部　八組、町數四百六拾壹ケ町。

小間高三萬七千六百三間。

但、小間壹間ニ付　銀九分四厘。

年番肝煎

同名主

壹番組　七拾七ヶ町。
小間高六千九百七拾五間半。
此金百九兩壹分銀貳匁八分七厘七毛。

貳番組　八十三ヶ町。
小間六千貳百七間。
此金九拾七兩壹分銀三分八厘七毛。

四番組　四十ヶ町。
小間三千四百貳十八間。
此金五拾三兩貳分銀拾貳匁七分六厘五毛。

五番組　三十七ヶ町。
小間貳千七百七拾五間半。
此金四十三兩壹分銀拾四匁三分三厘五毛。

六番組　五拾六ヶ町。
小間四千六拾貳間半。
此金六拾三兩貳分銀九匁貳分七厘八毛。

七番組　五拾六ヶ町。
小間五千百五拾壹間。
此金八拾兩貳分銀拾貳匁六分壹厘。

八番組　五十五ヶ町。
小間四千九百廿九間。
此金七拾七兩銀拾三匁九分壹厘。

拾壹番組　五十七ヶ町。
小間四千七拾四間半。
此金六十三兩三分銀五匁五分六厘。

中之部　六組町數四百八拾九ヶ町。
小間高四萬八千五百八拾間半。
但、小間壹間ニ付銀八分四厘六毛。

内
三番組　七拾八ヶ町。
小間九千四百八十六間半。
此金百三拾三兩三分銀壹匁七分貳厘。

九番組　百壹ヶ町。
小間八千四百三拾八間半。
此金百拾八兩三分銀拾四匁九分八厘六毛。

拾貳番組、　四拾壹ヶ町。
小間三千八百拾六間。
此金五拾三兩三分銀三匁七分九厘五毛。

拾五番組　百四拾七ヶ町。
小間壹萬千六百拾八間。
此金百六拾三兩三分銀五匁壹分九厘。

拾七番組　百拾六ヶ町。
小間壹萬四千百八十間半。
此金百九拾九兩三分銀拾三匁四分八毛。

番外
新吉原　六ヶ町。
小間千四拾壹間。
此金拾四兩貳分銀拾匁八分壹厘。

下之部　九組町數五百三拾貳ヶ町。
小間高四萬五千百三拾壹間。
但、小間壹間ニ付銀七分五厘貳毛。

内　六拾壹ヶ町。
拾番組　小間六千五百九拾貳間。
此金八拾貳兩貳分銀七匁八分八厘六毛。
拾三番組　七拾三ヶ町。
小間八千六百九間。
此金百七兩三分銀九匁八分八厘六毛。
拾四番組　百四拾四ヶ町。
小間壹萬千百四拾八間。
此金百三拾九兩貳分銀拾四匁四分八厘五毛。
拾六番組　五拾五ヶ町。
小間貳千九百九拾五間。
此金三拾七兩貳分銀貳匁五分五厘九毛。
拾八番組　五拾三ヶ町。
小間五千七百拾六間半。
此金七拾壹兩貳分銀九匁四分壹厘八毛。
拾九番組　拾八ヶ町。
小間千六百五拾四間。
此金貳拾兩貳分銀拾三匁九分八厘四毛。
貳拾番組　五拾六ヶ町。
小間五千四百三拾間。
此金六拾八兩銀三匁九分三厘九毛。
貳拾壹番組　六拾三ヶ町。
小間貳千四百貳拾六間。
此金三拾兩壹分銀九匁六分壹厘。

番外　九ヶ町。
品川　小間五百六拾間半。
此金七兩銀壹匁五分五厘五毛。
右之通御座ゐ。以上。
戌（〇文政九年）八月

年番肝煎　同名主

八月二日〇文政九年。御詰合方御惣出、御組頭大井勘左衞門様御出席有之、同勤一同被召呼、當夏臨時夜番致ゐ之付、惣町中ゑ爲御手當千八百四拾兩被下ゐ間、早々割渡ゐ様被仰渡ゐ之付、三日四日兩日ニ割渡ゐ之付、左之通達書差出ス。

被仰渡之儀有之ゐ間、明三日明後四日四ツ時、一ト御支配ニ而居附地主惣代壹人御召連、御組合御同役中御銘々御自身御出勤有之ゐ様、御通達可申旨、御詰合御役人方被仰渡ゐ間、此段御達申ゐ。御組合早々行屆ゐ様、御取計可被成ゐ。且又御支配町々之内、居付地主無之分も、月行事惣代壹人御召連可被成ゐ。以上。

八月二日〇文政九年。

町會所　年番肝煎

一、八月三日四日〇文政九年。兩日積金取立之通、御用達年番肝煎罷出、居付惣代幷名主ゑ御詰合方左之通被仰渡有之、右席ニ而印形取、不殘調印濟ゐ上、割付受印帳差上ゐ。

當夏町中物騷ニ付、夜番被仰渡ゐ處、入念取締行屆、右ニ付而ハ臨時町入用不少趣ニ付、右入用之内ゑ、爲御手當惣町中ゑ金千八百四拾兩被下之。尤渡方之儀も、其場所ニ應し割渡遣ゐ間、其旨可存。

戌（〇文政九年）八月

殷昌期

右之通被仰渡、私共組合分書面之金高御渡被ニ下、難ニ有奉ニ頂戴一ゐ。仍如件。

文政九戌年八月

何番組何十何ケ町惣代何町居付
地主　誰
何町年番
名主　誰

小間高何百何十間
一、金何百何十何兩銀何匁何分。
但、一ト小間何分何厘
以書付ニ申上ゐ。

一、此度臨時町入用相掛りゐニ付、御手當金被ニ下置一、私共組合町〻小間高ニ應し、銘〻割合、難ニ有奉ニ頂戴一ゐ。右爲ニ御禮一此段申上ゐ。以上。

文政九戌年八月

何番組惣代年番何町
名主　誰印

町御會所

右之一組限り年番壹人宛麻上下着用、來ル五日六日（文政九年拾月。）兩日之内、御禮罷出ゐ積り申合之事。

八月三日（文政九年。）

一、此方支配居付地主惣代松川町新兵衛召連罷出、金七兩貳分ト銀四匁四分九厘請取ゐ。小間九分四厘宛之割。

——撰要永久錄

屋鋪受授

八月九日戊午（文政九年（紀元二四八六年）。）戊午、三正綜覽。**屋鋪預有り。外ニ是月**（文政九年（紀元二四八六年）八月。）**及九月**（文政九年（紀元二四八六年）十月。）（文政九年（紀元二四八六年）。）**受授スル所屋鋪若干。**（屋敷書拔。相封禁御書附書拔。）

屋鋪受授事蹟

屋鋪受授　文政九年八月九月十月中受授スル所、屋鋪若干也。

文政九戌年

八月九日、大塚幸左衛門上地
一、四谷北寺町四百坪
（朱）當十一月廿一日山口辨左衛門福原卯之吉ニ渡。

八月廿二日。
一、下澁谷村六百貳拾五坪
但シ下豐澤村入合芝地大筒稽古角場地所父庄兵衛拜借仕ゐ處、私儀番代被ニ仰付一引續拜借。

八月廿七日、大谷鉄次郎上地
一、四谷内藤宿新屋敷百坪
（朱）當十一月廿一日海賀善四郎ニ渡。

文政九戌年九月六日

加賀守殿（大久保忠眞。）新阿彌ヲ以御渡、河内守（初鹿野信政。）請取。

御普請奉行ニ。

蜷川八右衛門拜領屋敷
愛宕下五百貳拾三坪餘
中宮祐左衛門拜領屋敷
本所綠町四百坪
戸田雄之丞拜領下屋敷
小日向茗荷谷五千七百坪餘之内貳百坪餘
梶柔之助拜領屋敷
本所南割下水貳百坪
大澤金五郎拜領屋敷
小日向築地七拾坪

戸田氏綏
蜷川八右
梶柔之助
中宮祐左
蒔田榮之助
織田五左
齋藤十太郎
關十藏

西丸御書院番近藤石見守組
織田五左衛門預地。
御持筒頭小笠原豐前守組與力
齋藤十太郎
小普請組久世伊勢守支配
關十藏
御預地。
——屋敷書拔

戸田雄之丞（氏綏。）ニ
小普請組太田内藏頭支配世話取扱
蜷川八右衛門ニ
石川民部支配
梶柔之助ニ
御天守番
中宮祐左衛門ニ
寄合
蒔田榮之助ニ

大澤金五郎　蒔田榮之助拜領屋敷
小日向築地貳千五百八拾七坪餘之内三拾貳坪　小普請組太田内藏頭支配　大澤金五郎に
林半太夫　山中仙助拜領屋敷
駿河臺觀音坂上三百七拾五坪餘之内貳百坪　富士見御寶藏番之頭　林半太夫に
山中仙助　林半太夫拜領屋敷
四谷坂町貳百八拾坪餘　小普請組太田内藏頭支配　山中仙助に
鈴木半十郎　六郷萬輔拜領屋敷
澁谷五百五拾坪之内貳百五拾坪　御作事下奉行　鈴木半十郎に
六郷萬輔　同人拜領屋敷北本所
南割下水五拾坪　小普請組土屋讃岐守支配　六郷萬輔に
飯田小十郎　鈴木半十郎拜領屋敷
上澁谷百貳拾坪　兵部卿殿勘定奉行　飯田小十郎に
荻原岩之丞　松平健三郎拜領屋敷
小川町堀留七百拾四坪之内三百坪　小普請組太田内藏頭支配　荻原岩之丞に
飯田小十郎拜領屋敷
新道壹番町三百坪　淺野隼人支配　松平健三郎に
松平健三郎　荻原岩之丞拜領屋敷
赤坂五百四拾貳坪餘之内貳百坪　神尾豐後守支配　岡田與助に
岡田與助　渡邊伊織拜領屋敷
四谷内藤宿三百坪　同人支配　渡邊伊織に
渡邊伊織　岡田與助拜領屋敷
牛込水道町四百四拾坪餘
右願之通、屋敷相對替被仰付ゐ間、得其意、例之通可被致ゐ。
中川三郎兵　九月十日、深津武左衞門割殘
一、同所（谷）四表大番町三拾坪　——相對替御書附書拔
但小河惣左衞門中川三郎兵衞兩人之ゐ預罷在ゐ處内藤碇之助右三郎兵衞に。　小十人矢部彦五郎組與頭　中川三郎兵衞　御預地。

小里久米吉　九月廿一日、杉浦八十八上地
一、巣鴨五軒町百坪餘　小普請組土屋讃岐守支配　小里久米吉
（朱）文政十亥年九月七日柴田八左衞門に渡。
鈴木榮次郎　九月廿二日、松浦八十八上地
一、小石川白山御殿跡五十五坪餘　小普請組神尾豐後守組　鈴木榮次郎
田村宗顯　十月六日
一、愛宕下田村右京太夫一手持辻番模樣替增地所　田村右京太夫（宗顯）
堀親窖　同日
一、大名小路西尾隱岐守上田左太郎堀大和守組合日割辻番所場所替　堀大和守（親窖）
平岡越中守　十月廿二日、山田宗悅上地之内
一、昌平橋内五百坪　西丸御小納戸　平岡越中守
河野作左　十月廿二日、山田宗悅上地之内
一、昌平橋内百三拾坪餘　紀伊殿附　河野作左衞門
森川由三郎　十月廿四日
一、筋違御門外三百四拾九坪餘　表御右筆　森川由三郎
附記　責罰　——屋敷書拔

〔附記〕責罰
十月十九日（文政九年○中略。）　有田善阿彌
申渡之覺
當六月十三日（文政九年。）之夜、親類方え罷越立歸りゐ途中、失念之品有之供之召連ゐ中間を取之遣し、自身挑灯を提歸りゐ砌、池田甲斐守陸尺共突當ゐ上、理不盡之組付大小とも被拔取、鞘を以打擲之逢、又
殷昌期

と拳にも被敲、押合ながら辻番所に罷越い由にい。右躰多勢之儀にい共、如何様とも取計方も可有之處、大小共被拔取、不束成始末、其上最初吟味相願い節之趣とも相違之儀も有之、旁以不埒之事にい。依之改易被仰付いい也。十月〇文政九年。

榊原主計頭〇忠之。於御役宅、申渡左之通い。

遠島。

重追放。

武家奉公構。非二差遣一い様主人に申達ス。

押込。

急度叱り。

急度叱り。

右同斷。

右同斷。

無レ構。

以上。十月廿日〇文政九年。

御書院番頭池田甲斐守月抱陸尺
政吉　源三郎　次助

同人家來目付役
本多莊右衛門

田安殿用人朝比奈忠四郎頭取辻番人
長藏　庄五郎

三藏　藤吉

同人家來
植村長五郎

御小性組溝口備後守組加藤三郎兵衛家來
綠川庄十郎

水戸殿家老中山備前守頭取辻番人
重兵衛　仙助

三平　長七

池田甲斐守陸尺
喜助

十月廿一日〇文政九年〇中略。

申渡い覺

御書院番頭
池田甲斐守
名代鶴田勘右衛門。

當六月十三日〇文政九年。親類方に罷越い供之その退迎に出い途中、陸尺とも酒狂之上、有田善阿彌に突當、立腹之躰にい迚、理不盡に組付、同人帶居い大小、拔取、刀を拔放し、鞘にも善阿彌を打擲いゑし、又も拳を以敲、不法之事に付、右陸尺共始、夫々御仕置等申付い。供之ものかさつ等無之様との義、度々被仰出も有之い上も、平日嚴敷可申渡置儀にい處、右及二始末一い段、申付方等閑故之儀、其上最初居之趣も侍體之もの突當、刀を拔放しい に付、抱留い由も、相違之儀にも、家來共紛シ方も不行屆、旁以不束之事にい。依之差控被仰付之。

右於二攝津守〇堀田正敦。宅一、同人申渡之。御目付御手洗五郎兵衛〇正路。相越。十月十九日〇文政九年。

——文政略記

十一月朔日戊寅〇文政九年(紀元二四八六年)〇戊寅、三正綜覽。借地受授有リ。是月〇文政九年(紀元二四八六年)十一月。屋鋪若干ヲモ受授ス。〇屋敷書拔。相封替御書附書拔。

屋鋪其外受授

屋鋪其外受授事蹟

齋藤金次郎
萩原平作

屋鋪其外受授　文政九年十一月屋鋪其外若干ヲ受授ス。

文政九戊年

十一月朔日

一、飯田町俎橋際百四拾九坪

但、御庭石類竹丸太納物御用相勤申いに付拜借。

御作事方大工棟梁並植木屋
齋藤金次郎
萩原平作

殿昌期

（朱）天保十三寅年四月廿八日御作事方ゟ地所請取。

一、同日　同所拜借地内塗垂家　同　同　人　人

桁行七間梁間三間高九尺壹ヶ所、番小屋桁行三間梁間貳間棟高ニ無レ之壹ヶ所。

一、十一月二日　神田川通浚御普請ニ付　御勘定吟味方改役並出役　横山吉十郎

揚土之儀有來土置場之外壹ヶ所。　御普請役　坂儉次郎

文政十亥年閏六月十八日

一、同所（神田川通）浚土置場拾ヶ所之内　富士見御寶藏番村田主計組　篠原彌兵衛

七ヶ所御請取殘り三ヶ所追而返地事。　御預地。

一、十一月九日近藤重藏上地　表高家　大友丹次郎

巣鴨三百五拾坪

（朱）當十二月十七日柴田出雲守龜井伊三郎ニ渡。

一、十一月十八日　小石川大塚本目帶刀頭取　御書物同心　海賀善四郎

組合辻番場所替。

一、十一月廿一日、大谷鐵次郎上地　四谷内藤宿百坪　御臺樣御膳所御臺所人　福原卯之吉

一、十一月廿一日、大塚幸左衛門上地之内　四谷北寺町貳百坪　御臺樣御膳所改役　山口辨左衛門

一、同日、右同斷之内　同所貳百坪　御本丸西丸御納戸呉服師　橋本甚太郎

一、十一月廿九日　南本所尾上町拾四坪餘　拜借地。

但、裏之方稻荷社圍込地。

一、同月（〇六月）廿三日遠江守殿（〇本多正意）　春日八十郎

一、四谷北寺町大塚幸左衛門上地添地願　御先手　春日八十郎

福原卯之吉（朱）、山口喜左衛門に被レ下。

文政九戌（〇十亥カ）年閏六月廿七日四谷内藤宿土方大内記引替上地之内ニる渡。

一、同月（〇六月）廿二日御同人（〇本多正意）　御本丸西丸御納戸呉服師　橋本甚太郎

一、南本所尾上町稻荷社有ゟ之場所圍込拜借願　——屋敷書拔

（朱）文政九戌年十一月廿九日。

文政九戌年十一月晦日

出羽守殿（〇水野忠成）雲阿彌ヲ以御渡、肥前守（〇大河内政長）。請取。

御普請奉行ニ。

後藤佐渡守拜領屋敷　表高家　大友丹次郎ニ

本所一三之橋之間六百六拾五坪之内五百拾五坪　兵部卿殿家老　後藤佐渡守（〇行明）ニ

大友丹次郎拜領屋敷　大御番内藤豐後守組與頭　遠山彦八郎ニ

神田橋外七百貳拾坪餘　西丸御小性組大岡土佐守組　天野覺左衛門ニ

土屋甚之丞拜領屋敷　御書院番池田甲斐守組　土屋甚之丞ニ

御堀端壹番町貳百八拾坪餘　大御番松平對馬守組　難波田八右衛門ニ

遠山彦八郎拜領屋敷

淺草元鳥越三百坪

難波田八右衛門拜領屋敷

四谷内藤宿貳百五拾坪

天野覺左衛門拜領屋敷

小日向馬場貳百五拾三坪

小笠原彌太郎
吉見本次郎
小石川白山御殿跡百拾坪餘
服部源五郎
澁谷笄橋五百坪之内貳百貳拾坪
服部源五郎拜領屋敷
本郷金助町貳百貳拾坪餘
荻原源三郎
江口織之助
小日向龍慶橋三百坪
荻原源三郎拜領屋敷
大久保新屋敷三百坪餘
小泉求馬
三浦五郎左衛門
巢鴨四百九拾六坪之内貳百五拾坪
小泉求馬拜領屋敷
牛込築土貳百坪
高原清四郎拜領屋敷
四谷北寺町五拾坪
横山次左衛門
小石川白山御殿跡四百坪之内貳百坪
瀧川左膳
高原清四郎
下谷御掃除町三百坪之内百五拾坪
瀧川左膳拜領屋敷
小田切小膳
上原富三郎
青山權田原百七拾三坪餘之内五拾坪
小田切小膳拜領屋敷
赤坂元氷川五百坪餘之内六拾坪
小濱三郎四郎
南本所富川町百三拾五坪
長田傳藏
四谷貳百坪
小濱三郎四郎拜領屋敷

御小性組駒木根大内記組
小笠原彌太郎
大御番本庄伊勢守組
服部源五郎
御賄調役
吉見本次郎
御小性組大久保上野介組
荻原源三郎
小普請組石川民部支配
江口織之助
御書院番松平信濃守組
小泉求馬
小普請組久世伊勢守支配
三浦五郎左衛門
大御番内藤豐後守組
横山次左衛門
小普請組淺野隼人支配
瀧川左膳
御普請役
高原清四郎
大御番水野伯耆守組
小田切小膳
御鐵炮玉藥奉行組同心
上原富三郎
大御番戸田美濃守組
小濱三郎四郎
小普請組石川民部支配
長田傳藏

鎌田作左
榎下逸之助
石野主水
岩月彌右衛門
戸田三十郎
小野七郎兵衛
小笠原大次郎
日根熊之丞
都筑海之助
近藤隼之助
松浦繁之丞
奥津清三郎
松本武左
松田雄右

岩月彌右衛門拜領屋敷
牛込山伏町三百三拾三坪餘
石野主水拜領屋敷
市谷長延寺谷貳百貳拾坪
鎌田作左衛門拜領屋敷
白金今里村貳百坪之内百五拾坪
榎下逸之助拜領屋敷
市谷御門内貳百六坪餘
小野七郎兵衛拜領屋敷
小石川白山御殿跡百三拾三坪餘
戸田三十郎拜領屋敷
市谷新本村七拾七坪餘
日根熊之丞拜領屋敷
小石川築地貳百坪餘
小笠原大次郎拜領屋敷
四谷新宿三百坪
近藤隼之助拜領屋敷
麻布笄橋四拾坪
都筑海之助拜領屋敷
下谷竹門四百坪之内百拾貳坪
奥津清三郎拜領屋敷
四谷内藤宿三百七拾五坪
松浦繁之丞拜領屋敷
同所三百四拾七坪餘
板倉茂兵衛拜領屋敷
巢鴨稲荷前七拾六坪餘
松本武左衛門拜領屋敷
下谷貳丁町百坪

御疊奉行
鎌田作左衛門
小普請組神尾豐後守支配
榎下逸之助
長井五右衛門支配
石野主水
富士見御寶藏番
岩月彌右衛門
小普請組神尾豐後守支配
戸田三十郎
石川民部支配
小野七郎兵衛
太田内藏頭支配
小笠原大次郎
久世伊勢守支配
日根熊之丞
太田内藏頭支配
都筑海之助
小普請方改役下役
近藤隼之助
小普請組土屋讃岐守支配
松浦繁之丞
久世伊勢守支配
奥津清三郎
御簾中樣御廣敷添番
松本武左衛門
御徒目付
松田雄右衛門

松田雄右衛門拜領屋敷
小石川築地百貳拾坪餘

右願之通、屋敷相對替被仰付ゐ間、得其意、例之通可被致ゐ。

廿六日○文政九年十一月○中略。

西丸下屋敷御用ニ付家作共可被差上ゐ。
大名小路松平周防守屋敷家作共被下之。

右於芙蓉間、老中列座、同人。○水野忠成申渡之。

西丸下植村駿河守屋敷家作共被下之、
只今迄之屋敷家作とも可差上ゐ。
西丸下松平能登守屋敷家作共被下、
只今迄之屋敷家作共可被差上ゐ。

右於奥相濟。

〔附記、一〕上野文殊樓修理

廿二日○文政九年十一月○中略。

時服三。

上野文殊樓屋根向其外御修復御用相勤ゐニ付被下之。

右於芙蓉間、列座同前○老中植村家長列座。同人○水野忠成申渡之。若年寄中侍座。

銀十五枚。

同斷ニ付被下之。

板倉茂兵衛
松平乘美
松平康任
植村家長
附記、一上野文殊樓修理

四五六

表火之番
板倉茂兵衛

——相對替御書附書拔

松平能登守○乘美
松平周防守○康任
植村駿河守○家長
——柳營日次記○文政略記同。

小普請奉行
夏目左近將監○信平

小普請方
谷中宗左衛門

右於御右筆部屋緣頰、同人申渡之。侍座同前。

同七枚。

同斷ニ付被下之。

右於躑躅間、同人申渡之。林肥後守○忠英。侍座。

同。

同斷ニ付被下之。

右於同席、若年寄中出座、本多遠江守○正意申渡之。

同七枚。
同五枚。
同三枚。

同斷ニ付被下之。

右於燒火間、林肥後守申渡之。

〔附記、二〕魯文和解

十一月廿九日○文政九年○中略。

銀十五枚。

魯西亞人著述之書籍和解校合等仕ゐニ付被下之。

支配勘定
本目權十郎
小普請方改役
山中彌吉
小普請方吟味役
市江藤作
同御徒假役
渡邊宗四郎
同大工棟梁
村松伊勢
——柳營日次記○文政略記同。

附記、二魯文和解

御書物奉行天文方兼帶
高橋作左衛門○景保。

右於御右筆部屋縁頰、同人○水野忠成。申渡之、若年寄中侍座。

——柳營日次記○文政略記同。

十二月三日戊戌○文政九年(紀元二四八六年)○戊戌、三正綜覽。辻番所地ヲ受授ス。是月○文政九年(紀元二四八六年)十二月。外ニ若干屋鋪ヲ受授ス。○屋敷書拔。相對替御書附書拔。柳營日次記。文政略記。

屋鋪其外受授事蹟

屋鋪其外受授 文政九年十二月屋鋪其外受授スル所、左ノ如シ。

文政九戊年

一、十二月三日
麹町五町目横町堀小四郎頭取組合辻番所模様替

堀利堅　御使番　堀小四郎○利堅。

一、十二月六日、雨宮出雲守相對替
牛込北御徒町貳拾三坪

大久保六郎　小普請石川民部支配　大久保六郎永御預地。

(朱)天保十四卯年十月廿三日青木軍平太ニ預替ル。

一、十二月八日、小川作十郎割殘上地
麻布狸穴四拾坪

眞井紋次　御普請方役所門番人　眞井紋次

一、十二月九日
麻布狸穴七拾坪
但、屋敷崖かゝれ之場所。

野本左十郎　小普請方役所門番人　野本左十郎御預地。

(朱)文政十三寅年二月廿三日荒井釜三郎ニ渡。

一、同日、小川作十郎上地割殘
同所四拾貳坪
但、右同斷。

眞井紋次　御普請方役所門番人　眞井紋次御預地。

十二月十四日、本郷六丁目

近藤鎌吉　御普請方　近藤鎌吉

一、溶姫君樣御住居六百六拾六坪餘但町屋取拂之分
御門道式御普請方ニ相渡ル事

中島八郎　同　中嶋八郎

菅沼給左　同下奉行　菅沼給左衛門

前田齊泰

一、十二月十四日、町屋引拂地所
本郷六丁目六百六拾六坪餘
但、溶姫君樣御住居表裏御門建之場所右御門通地所貳ヶ所。

松平加賀守○前田齊泰。

柴田勝明

一、十二月十七日、近藤重藏上地之内
巣鴨貳百貳拾八坪餘

田安殿家老柴田出雲守○勝明。

龜井伊三郎

一、同日、右同斷
巣鴨百貳拾壹坪餘

御留守居室賀山城守與力龜井伊三郎

石川民部

一、十二月十八日
水道橋外石川民部物揚場地所操替

石川民部

齊藤友三郎

一、十二月廿四日、溝野鐵之助上地
本所北割下水七拾五坪

御裏門切手番之頭鵜殿三郎九郎組同心齊藤友三郎預地。

(朱)文政十亥年十月廿八日向井勘藏ニ渡。

一、十二月廿六日、松平能登守居屋敷之内
大名小路七百七拾三坪餘
但、大戸障子階子別ニ帳面有レ之。

堀親窰

堀大和守○親窰。添地。

一、六月廿二日、和泉守殿(○松平乘寛)
屋敷手狹ニ付添地願
(朱)文政九戊年十二月十七引渡。

田安中納言殿家老柴田出雲守

一、十二月廿六日渡。
大名小路松平能登守居屋敷之内添地

堀大和守

文政九戊年十二月十日、
下野守殿○青山忠裕。新阿彌を以御渡、河内守○初鹿野信政。請取。

——屋敷書拔

殿昌期

松平齊承　土井利忠　山内豐資　岡部長富　田中龍之助　内藤熊吉　水野臣十　桑山六左　中川忠英　内藤重三郎　吉田鎌次郎

御普請奉行に。

土井錦橘拜領屋敷
蠣殼町貳千六百七拾四坪之内千三百三拾七坪
松平伊豫守拜領下屋敷
本所龜戸八千五百六拾五坪之内五百坪
岡部因幡守拜領屋敷
木挽町築地千三百四拾五坪餘
松平土佐守拜領下屋敷
品川壹萬六千四百四拾壹坪餘之内貳百坪
内藤熊吉拜領屋敷
小川町貳千貳百拾六坪之内千六百八拾六坪
同所之内五百三拾坪
桑山六左衞門拜領屋敷
巣鴨東横町貳百坪
水野臣十拜領屋敷
本郷御弓町貳千坪
内藤熊吉拜領下屋敷
本所南割下水三千坪之内千八百坪
田中龍之助拜領屋敷
水道橋内小川町貳百五拾坪
内藤重三郎拜領屋敷
下谷御掃除町三百坪
中川飛驒守拜領屋敷
北本所百坪
加藤勝之助拜領屋敷
白山御殿坂上四百五坪餘之内三百四拾五坪餘

松平伊豫守（齊承）に
土井錦橘（利忠）に
松平土佐守（豐資）に
西丸御小性組番頭
岡部因幡守（長富）に
奥御右筆
田中龍之助に
寄合
内藤熊吉に
同
水野臣十に
奥御右筆
桑山六左衞門に
御旗奉行
中川飛驒守（忠英）に
御小納戸
内藤重三郎に
西丸御書院番大久保豐後守組
吉田鎌次郎に

加藤勝之助　大谷木龍太郎　野村彦右　境野次郎八　富岡卯之吉　成田勘次郎　磯山市五郎　白須政德　菅沼新八郎　松平勘介

古田鎌次郎拜領屋敷
小日向馬場三百三坪餘
野村彦右衞門拜領屋敷
牛込逢坂上六百拾七坪餘之内貳百三拾六坪餘
大谷木龍太郎拜領屋敷
本所石原五拾坪
富岡卯之吉拜領屋敷
小石川築地三百貳拾三坪餘
境野次郎八拜領屋敷
四谷内藤宿貳百坪
磯山市五郎拜領屋敷
青山千駄ヶ谷百坪餘
成田勘次郎拜領屋敷
赤坂今井谷百四拾坪

右願之通、屋敷相對替被仰付ゝ間、得其意、例之通可被致ゝ。
文政九戌年十二月廿六日

下野守殿（青山忠裕）。丹阿彌ヲ以御下、河内守（初鹿野信政）。請取。

御普請奉行に。

菅沼新八郎拜領下屋敷
本所四ツ目貳千五百坪
白須甲斐守拜領下屋敷
駒込富士前貳千六坪之内百坪餘
蓮原亮平拜領屋敷
四谷内藤宿百拾五坪

近藤石見守組
加藤勝之助に
表御右筆
大谷木龍太郎に
御勘定
野村彦右衞門に
小普請組土屋講岐守支配
境野次郎八に
同人支配
富岡卯之吉に
久世伊勢守支配
成田勘次郎に
太田内藏頭組
磯山市五郎に

御側衆
白須甲斐守（政德）に
交替寄合
菅沼新八郎に
寄合
松平勘介に

殷昌期　四六一

蓼原亮平
荒川金藏
小栗忠高
堀三五郎
岡野孫一郎
曲淵甚右
朝岡又兵
山本大膳
石丸豐次郎
多門甚右
安西伊賀之助
深尾七右

荒川金藏拜領屋敷
市谷新本村百七拾七坪餘之內五拾坪
松平勘介拜領下屋敷
小日向江戸川端四百四拾八坪之內三百貳拾五坪
同所之內百貳拾三坪
岡野孫一郎拜領屋敷
駿河臺九百七拾坪
小栗又一拜領屋敷
淺草鳥越千四百七拾四坪餘之內貳百五拾坪
堀三五郎拜領屋敷
本所三ツ目五百四拾坪
朝岡又兵衞拜領屋敷
小石川丸山百坪
外御預地貳拾八坪
曲淵甚右衞門拜領屋敷
袋貳番町百五拾坪
石丸豐次郎拜領屋敷
駿河臺鈴木町四百七坪之內百三拾六坪
山本大膳拜領屋敷
市谷本村五拾坪
安西伊賀之助拜領屋敷
目黑三百坪之內百坪
多門甚右衞門拜領屋敷
本所綠町百七拾坪餘
山內一八郎拜領屋敷
駒込新屋敷百坪餘

御普請方
蓼原亮平に
同心
荒川金藏に
御小性組小笠原大和守組
小栗又一〇忠高に
同人組
堀三五郎に
御書院番松平內匠頭組
岡野孫一郎に
大御番水野伯耆守組
曲淵甚右衞門に
小普請方吟味役勤方
朝岡又兵衞に
御代官
山本大膳に
小普請組太田內藏頭支配
石丸豐次郎に
久世伊勢守支配
多門甚右衞門に
佐野豐前守支配
安西伊賀之助に
同人支配
深尾七右衞門に

山內一八郎
古橋新左
岩下大之丞
野口市三郎
小泉半之助

深尾七右衞門拜領屋敷
赤坂築地五百拾坪之內貳百坪餘
山下大之丞拜領屋敷
牛込藁店百坪餘
古橋新左衞門拜領屋敷
牛込輕子坂七百坪之內貳百六拾八坪餘
小泉半之助拜領屋敷
根津元御屋敷跡四拾八坪餘
野口市三郎拜領屋敷
巢鴨火之番町六拾坪餘

式部卿殿小十人
山內一八郎に
小普請組淺野隼人支配世話取扱
古橋新左衞門に
御書院番之頭池田甲斐守與力
岩下大之丞に
御中間
野口市三郎に
表小間遣
小泉半之助に

右願之通、屋敷相對替被仰付ゝ間、得其意、例之通可被致ゝ。
十日〇文政九年十二月〇中略。

——相對替御書附書拔

大御番頭
松平對馬守〇定謨。

願之通下屋敷被下、所ハ見立可被願ゝ。
右於芙蓉間、老中列座、同人〇青山忠裕。申渡之。
十六日〇文政九年十二月〇中略。

松平定謨

右願之通、屋敷相對替被仰付ゝ間、得其意、例之通可被致ゝ。
十日〇文政九年十二月〇中略。

右願之通下屋敷被下、所ハ見立可被願ゝ。
右於芙蓉間、老中列座、同人〇青山忠裕。申渡之。
十六日〇文政九年十二月〇中略。

居屋敷手狹ニ付、隣松平能登守居屋敷之內七百七十三坪餘家作共添地被下ゝ之。
右於芙蓉間、老中列座、同人〇青山忠裕。申渡之。〇中略。

堀大和守

松平能登守

毛利齊元

居屋敷之内七百七十三坪餘御用ニ付家作共可ㇾ被ニ差上一ハ。代地ハ被ㇾ下間敷ハ。

右下野守○青山忠裕。於ㇾ宅、家來ハ書付相ニ渡之一。

廿日○文政九年十二月○中略。

松平大膳大夫○毛利齊元。名代毛利甲斐守。

櫻田御用屋敷之内二千七百四十三坪居屋敷爲ニ添地一被ㇾ下ハ。虎之門中屋敷之内二千六十七坪餘可ㇾ被ニ差上一ハ。

右於ニ御白書院緣頰一、老中列座、下野守○青山忠裕。申ニ渡之一。

——柳營日次記○文政略記同。

附記、一古金銀ニ關スル示達

〔附記、一〕古金銀ニ關スル示達

廿五日○文政九年十二月○中略。

林肥後守殿○忠英。御渡御書付

古金銀通用之儀、當二月○文政九年。相觸ハ通、來亥年○文政十年。二月ゟ彌通用停止ハ間、停止以後、堅く通用致間敷事。

一、古貳朱判之儀も、近く通用停止可ㇾ被ニ仰出一ハ條、古貳朱判所持之者も、此節精出し引替所ニ差出、引替可申ハ事。

一、古金銀通用停止以後も、遠國其外無ㇾ據引替殘古金銀も可ㇾ有ㇾ之哉ニ付、引替所之儀、古貳朱判通用中も、先是迄之通被ニ差置一ハ間、古金銀所持之者も、早々差出、引替可ㇾ申ハ。若停止以後古金銀通用いたしハ歟、又ハ古金銀貯置、不ニ引替一者有ㇾ之ニおいても、吟味之上、急度可ニ申付一ハ。

——柳營日次記○櫻要永久錄同。

附記、二牢屋鋪修理

〔附記、二〕牢屋鋪修理

廿五日○文政九年十二月○中略。

同（○銀）十枚

牢屋敷御修復中見廻り相勤ハ二付被ㇾ下ㇾ之。

右於ニ同席一○御右筆部屋緣頰。同人○水野忠成。申ニ渡之一。林肥後守○忠英。侍座。

同十五枚。

同五枚。

同三枚。

同。

同斷御用相勤ハ二付被ㇾ下ㇾ之。

右於ニ燒火間一、林肥後守○忠英。申ニ渡之一。

御大工頭遠山吉十郎

御作事下奉行勤方豐藤省吾

假役岸半右衞門

勘定役勝田孫七郎

大棟梁甲良吉太郎

——柳營日次記○文政略記同。

附記、三麒麟丸修理

〔附記、三〕麒麟丸修理

廿七日○文政九年十二月○中略。

銀五枚。

殿昌期

御勘定吟味方改役並吉田治助

麒麟丸御船御修復中立合相勤ゆゑ付被下之。

右於鵜蹟間、出羽守○水野忠成。申渡之。若年寄中侍座。

——柳營日次記○文政略記同。

附記、四　兩國上り場竪川出口浚

〔附記、四〕兩國上り場竪川出口浚

廿七日○文政九年十二月○中略。

同。（○銀五枚）

御召御船上乘役　染屋武左衞門

兩國御上り場幷竪川出口浚方之儀骨折ゆゑ付被下之。

右於燒火間、若年寄中出座、京極上總介○高備。申渡之。

——柳營日次記○文政略記同。

寺社異動　寺地異動事蹟　蓮長寺

是年○文政九年（紀元二四八六年）。寺地異動若干有り。○御朱印拜領地寺社帳。地子古跡寺社帳。除地古跡寺社帳。拜領地古跡寺社帳。

寺地異動　文政九年寺地異動若干有り。

蓮長寺　客殿其他ヲ營作ス。

除地境内千百壹坪。

門前百姓家貳軒。

池上本門寺末　日蓮宗　蓮長寺　南品川

間口、五間之家壹軒。四間半之家壹軒、

右相願ゆゑ、客殿玄關庫裏幷ゑ表門其外及ゑ破ゆゑ付、此度客殿梁間三間桁行五間半、前へ壹間ゑ五間之庇、七尺ゑ貳間半之向拜、西之方壹間ゑ五間半之錺、東之方壹間ゑ五間半之庇、玄關九尺貳間、庫裏梁間三間桁行八間、東之方三尺ゑ八間之下屋、表門高サ壹丈三尺、明キ七尺五寸之腕木門、兩扉附、東之方高サ五尺三寸明キ三尺之潛り附、同所九尺貳間之門番所、西之方九尺之板塀、有形之通り建修復いたし、且右門番所屋根、是迄板葺ゑ有之ゆゑ處、爲ゑ火除瓦葺ゑいたし、作事致し度旨願出ゆゑ付、遂吟味、隣寺所之者へも相尋ゆゑ處、障儀無之旨證文差出ゆゑ付、願之通り差免、蓮長寺へ爲證文申付、寺社方帳面張紙仕ゆゑ旨、松平伊豆守○信順。より印形之斷手紙を以て申越ゆゑ。依之文政九戌年六月十九日申上、御帳面張紙仕ゆゑ。

——地子古跡寺社帳

正法院

正法院　客殿其外營作。

拜領地境内四百貳拾四坪五合。

内百八十二坪門前町屋。表間口折廻シ三十六間二尺餘。

右相願ゆゑ、客殿表門其外共、當三月○文政九年。類燒いたしゆゑ付、此度以前之場所ゑ、庫裡梁間三間桁行五間、東之方ゑ三尺ゑ五間之庇廊下、三間ゑ一間半客殿、居間梁間三間桁行五間、裏ゑ二間ゑ三尺之佛壇、前ゑ二間ゑ一間之玄關、坐鋪梁間二間桁行四間半、且表門以前之通腕木門ゑいたし、高サ八尺、明キ七尺、兩扉附、西ノ方ゑ三尺ノ潛附、同所ゑ二尺五寸東之方ゑ四尺五寸、高サ六尺宛ノ板塀取附、西ノ方裏門、是迄塀重門有之ゆゑ處、此度腕木門ゑいたし、高サ六尺五寸、明キ六尺、兩扉附、北之方壹尺南之方ゑ五尺、高サ六尺宛之板塀取附、同所ゑ梁間二間半、桁行五間ノ物置一ケ所、東ノ方ゑ二間ゑ九尺之土藏壹ケ所、右何ゑ爲ゑ火除屋根瓦葺ゑいたし、假作事いたし度旨願出ゆゑ付、遂吟味、同所組合寺幷處之者ゑ爲相尋ゆゑ處、障儀無之旨證文差出ゆゑ付、願之通差免、正法院ゑ證文申付、寺社方帳面張紙仕ゆゑ旨、土井大炊頭○利位。ゑ印形之斷手紙ヲ以申越ゆゑ。依之文政九戌年七月廿九日申上、御帳面張紙仕ゆゑ。

東叡山末　天台宗　正法院　下谷

長德院

長德院　客殿其外營作。
拜領地境内　表拾八間壹尺。裏拾七間四尺。
外、長貳拾七間四尺。横三尺五寸。安永八亥年境内へ圍込地。
右相願ゆゑ、表門客殿其外共、文化三寅年類燒以後、假作事いたし置ゆ處、及大破、其上手狹ニ付法要等差支ゆニ付、客殿前有來九尺ニ七尺之玄關、此度貳間ニ七尺といたし、折廻し三尺ニ五間之霧除庇付、同所並へ有來之非常口、此度木戸門ニ仕、東之方へ四尺、西之方へ折廻し四間半、有來之竹垣取拂ひ、板塀ニ仕、客殿後之方へ貳間ニ貳間半之位牌堂、塗家仕、同所客殿へ九尺ニ三間之渡り廊下付、梁間三間桁行五間之座敷建足、東之方へ三尺ニ五間之庇付、貳間半ニ三間半有來之隱居家、此度裏之方へ四間程引寄せ取附、庫裏東之方へ壹間ニ七間之庇、三尺ニ四間半之孫庇付、同所南之方へ貳間ニ三間之葺下し、三尺ニ四間半之庇付、且表門是迄之通り冠木門ニいたし、惣高サ壹丈壹尺明キ七尺五寸、兩扉付、東之方へ高サ六尺明キ三尺之潛り付、同所有來九尺四方之門番所、東之方へ三尺ニ九尺之庇付、西之方折廻し貳間有來之板塀取拂ひ、高サ七尺五寸之土塀ニ仕、右何れも爲火除屋根瓦葺ニいたし、建足作事付、遂吟味、隣寺所之ものへも相尋ゆ處、障儀無之旨證文差出ゆ。御鳥見組頭へ爲相尋ゆ處、是又障儀無之ニ付、願之通り差免、長德院へ證文申付、寺社方帳面張紙仕ゆ旨、土井大炊頭〇利位。より印形之斷手紙を以て申越ゆ。依之文政九戌年十月十四日申上、御帳面張紙仕ゆ。
——御朱印拜領地寺社帳

京妙心寺末　淺草
濟家宗　長　德　院

——除地古跡寺社帳

大松寺

大松寺　貸家貸續。

芝青松寺末　淺草
曹洞宗　大　松　寺

拜領地境内千百拾七坪。
右相願ゆゑ、境内表門左右竹垣いたし、三尺引込、南之方入口三ヶ所明ケ、梁間貳間半桁行六間半、北之方入口四ヶ所明ケ、梁間貳間半桁行九間、何れも前通り三尺之庇附、後通壹間之下屋附、二階屋瓦葺作事いたし、惣長屋之裏へ引付、三間通り藏地相添、文化十三子年より當戌年〇文政九年。迄中年拾年季貸家貸續度旨、松平右近將監〇武厚。寺社勤役中願出差免置ゆ處、年季明ニ付、又ゆ當戌年〇文政九年。より來る申年〇天保七年。迄中年拾年季貸家貸續度旨願出ゆニ付、遂吟味、隣寺并ニ所之ものへ爲相尋ゆ處、障儀無之旨證文差出ゆニ付、願之通差免、尤町屋ヶ間敷見世商等不爲致、紛敷もの差置申間敷、年季明ゆハヽ勿論、年季之内ニ成も家作取崩しゆハヽ可相屆旨、大松寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕ゆ旨、松平伊豆守〇信順。より印形之斷手紙を以て申越ゆ。依之文政九戌年十二月廿六日申上、御帳面張紙仕ゆ。
——御朱印拜領地寺社帳

觀藏院

拜領地境内八百拾九坪七合。
觀藏院　護摩堂其外營造。
右相願ゆゑ、護摩堂并門番所、文化三寅年類燒後建後れゆニ付、今般右護摩堂、以前之通梁間三間桁行三間、後へ三尺之庇、前之方九尺ニ三尺之向拜付、且門番所是又以前之通貳間四方ニいたし、表之方へ壹間ニ三尺之出格子窓附、右何れも爲火除屋根瓦葺ニいたし作事いたし度旨相願ゆニ付、遂吟味、隣寺所之者へも相尋仕ゆ旨、土井大炊頭〇利位。より印形之斷手紙を以て申越ゆ。依之文政九戌年七月十日申上、御帳面張紙仕ゆ。
——御朱印拜領地寺社帳

護國寺末　淺草新寺町
新義眞言宗　觀　藏　院

殷　昌　期

清水寺

清水寺　拝領地境内　地所貸續。

東叡山末　天台宗　淺草　清水寺

東西五拾三間。南北四拾壹間。

右相願いて、境内西南之方、間口拾間奥行拾五間之場所、淺草本願寺末皆應寺へ去る子年（文化十三年）より當戌年（文政九年）迄中年拾年季貸地いたし度段願出、願之通り差免置いゝ處、年季明いゝに付、又いゝ當戌年（文政九年）より來る申年（天保七年）迄中年拾年季貸地貸續度段、皆應寺一同願出いゝに付、遂吟味、隣寺へ為相尋いゝ處、障儀無之旨證文差出いゝに付、願之通り差免、年季明いゝゝ勿論、年季之内にても返地いたしいゝゝ可相屆旨、清水寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕いゝ旨、土井大炊頭（利位）より印形之斷手紙を以て申越いゝ。依て之文政九戌年十二月四日申上、御帳面張紙仕いゝ。

——御朱印拜領地寺社帳

淨念寺

淨念寺　貸家撤去。

拝領地境内貳千百貳拾五坪。

増上寺末　淺草　淨土宗　淨念寺

右去酉年（文政八年）十一月駈込訴人山谷威光院同居定琢と申立身分疑敷いゝに付、吟味いたしいゝ處、實を淺草新堀端淨念寺に罷在いゝ道心琢心と申ものにて、淨念寺儀願為不致貸家取建いゝ旨申立いゝに付、爲相糺いゝ處、貸家躰之長家取建いゝ趣無相違相聞いゝに付、遂吟味いゝ處、境内南東之方、梁間貳間桁行五間壹棟、梁間貳間桁行三間壹棟、梁間貳間桁行拾壹間壹棟、平家作に取建貸家にいたし、且地中源信院燒跡へ、梁間貳間桁行拾壹間半之平家壹棟、願之外新規取建有之いゝに付、淨念寺呼出吟味いたしいゝ處、元來貧寺之儀、住職無間為類燒いたし、本堂其外再建難及自力、外に助成も無之に付、境内へ貸家取建、右之助成を以て追々手入等為いたし度、尤門前貸家を相願いゝ得共、境内之儀故願いにも不及儀と相心得、去る寅年（文政元年）貸家三棟取建、猶又去酉年（文政八年）九月同樣壹棟取建いゝ處、是以境内之事故、奉行所へ願出聞濟之上取建可申儀とも不心附、吟味之上願も不致、貸家を難相成旨相辨、無申披恐入いゝ旨申立、且先年貸家類燒いたし後年限中にいゝ迚、願も不致作事いたしいゝに付、急度叱りに相成身分にても、又いゝ無沙汰に追て貸家取建いゝ始末、不埒に付、淨念寺儀も咎申付、願も不致新規取建いゝ貸家四棟ハ、可取拂旨申渡置いゝ處、取拂いゝ段屆出いゝ間、遂吟味いゝ處、無相違に付、淨念寺へ證文申付、寺社方帳面張紙仕いゝ旨、松平伊豆守（信順）より印形の斷手紙を以て申越いゝ。依て之文政九戌年八月廿四日申上、御帳面張紙仕いゝ。

——拜領地古跡寺社帳

市街地異動若干有り。（文政町方書上。屋敷書拔。）

市街地異動

市街地異動事蹟　本湊町　蜂須賀齊昌

市街地異動若干有り。　文政九年市街地異動若干有り。

本湊町　蜂須賀氏一手持入堀中に張出有ル町地に對シ、修復ノ時撤取スルコトヲ命ス。

文政九戌年

四月三日

一、本湊町松平阿波守

但、一手持入堀之内町方張出有レ之いゝに付見分之事。

松平阿波守（蜂須賀齊昌。）

本湊町家主　儀兵衛

月行事　幸七

五人組　定右衛門

同所久志本屋敷家主　文左衛門

同日

一、右同斷之儀に付、修復之節

但シ、取拂い樣被仰渡いゝ儀。

殿昌期

赤坂新町四町目
本所尾上町

赤坂新町四町目　町屋鋪受領者有り。　名主　庄三郎

赤坂新町四町目○中略。　——屋敷書拔

表田舍間拾三間壹尺。裏幅同拾六間貳尺四寸。裏行東拾三間壹尺、西九間。此坪數百拾三坪七合七勺。

右ハ西丸表御坊主倉田清林拜領町屋鋪ニ御座い處、文政九戌年十二月中右地面上ケ地ニ相成い處、同○文政。十亥年閏六月廿三日津川九榮拜領被仰付い。　西丸表御坊主　津川九榮

本所尾上町　石置場內稻荷社地ヲ借地スル者有リ。　——文政町方書上

本所尾上町○中略。

右拜借地後北之方御石置場之內。

一、南之方西ゟ東ニ貳間五尺北之方西ゟ東ニ三間貳尺餘、南ゟ北ニ四間四尺、此坪數十四坪餘。

但、家作不相成地所。右同人○橋本甚太郎。拜借地。

右地所之儀ハ、御石置場之內稻荷社地ニ有之い所、橋本甚太郎拜借地ニ相願、願之通被仰付、文政九戌年十一月廿九日地所御引渡有之い。南本所尾上町拜領町屋敷裏御石置場之內稻荷社御座い所、稻荷圍込拾四坪餘拜借被仰付い二付、被遊御渡、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉受取い。勿論稻荷社之義ハ、御材木藏持ニ相心得、右地所拜借中ハ社頭玉垣等私方ニ而修復仕、尤家作ハ難相成、北之方

屋鋪受授
屋鋪受授事蹟

友榮殿拜領町屋敷境目之儀ハ、少ゝ明置、稻荷社ニ引附圍仕置い樣被仰渡、奉畏い。爲後日仍如件。

文政九戌年十一月廿九日　御本丸西丸御納戸呉服師　橋本甚太郎印

御普請方改役勤方　中嶋八郎殿
御普請方　近藤鎌吉殿

前書御繪圖面之通、拜領地境目立合い所、被遊御改い通、相違無御座い。爲後日仍如件。　橋本甚太郎印

前書御繪圖面之通、町屋境目立合い處、被遊御改い通。相違無御座い。爲後日仍如件。　本所尾上町名主　長兵衛印

右之通中嶋八郎殿近藤鎌吉殿御材木藏手代元〆同手代同心御本丸御納戸同心衆御立合、書面之通立合印形仕、地所御引渡有之い。　——文政町方書上

十年丁亥○文政○紀元二四八七年。正月廿四日庚子○庚子、三正綜覽。徒組屋鋪收公地ヲ返給ス。外ニ是月○文政十年（紀元二四八七年）正月。並ニ二月○文政十年（紀元二四八七年）。ヲ以テ受授スル屋鋪若干有リ。○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。相對替御書附書拔。

屋鋪受授　屋鋪受授ノ文政十年正月二月ニ行ハレタル者ヲ擧グ。

圖○略。

下谷和泉橋通　西丸御徒頭永田與左衞門組元御徒白戸彥兵衞上地坪數貳百三拾八坪餘。

東　西丸御徒頭永田與左衞門組御徒柴山數右衞門。　西　西丸御徒頭永田與左衞門組御徒吉田宇平次。
南　西丸御徒頭永田與左衞門組御徒頭伊庭八郎次。　北　西丸御徒頭永田與左衞門組御徒益田佐太郎。

徒組屋鋪

東　七間五尺。　西　七間餘。
南　三十貳間。　北　三十貳間。

下谷和泉橋通白戸彦兵衛上地貳百三拾八坪餘、御徒組屋敷大繩之内ニ御座いニ付、御請取、直ニ右組ニ被成御差戻。四方間敷、御繪圖之通、相違無御座ニ請取申い。爲後日仍如件。

西丸御徒頭永田與左衛門組御徒
正木十藏印

文政十亥年正月廿四日

御普請方改役
森川八兵衛殿
御普請方
近藤鎌吉殿

出役、御普請方同心鈴木治兵衛、地割棟梁服部任藏。

前書御繪圖之通、屋敷境目立合い處、御改之通相違無御座ニい。爲後日仍如件。

西丸御徒頭永田與左衛門組御徒頭
伊庭八郎次印
同組御徒
益田佐太郎印
柴山數右衛門印
吉田宇平次印

圖○略。

牛込榎町濟松寺前　御先手細井出雲守組元同心黑野與三郎上地百三拾九坪餘。

東　御先手細井出雲守組同心鈴木半三郎。　西同同人組同心村山豐五郎。
南　道。　北　西ニ同ジ（村山豐五郎）

先手組屋鋪

東　貳十六間貳尺。　西　貳十五間。
南　六間。　北　四間五尺餘。

牛込榎町濟松寺前黑野與三郎上地百三拾九坪餘、御先手組屋鋪大繩之内ニ御座いニ付、御請取、直ニ右組ニ被成御差戻、四方間敷、御繪圖之通、相違無御座ニ請取申い。爲後日仍如件。

御先手細井出雲守組與力
飯尾謙太郎印

文政十亥年正月廿五日

御普請方改役
森川八兵衛殿
御普請方
近藤謙吉殿

出役、御普請方同心假役西城吉左衛門、同地割棟梁服部任藏。

前書御繪圖之通、屋敷境目立合い處、御改之通、相違無御座ニい。爲後日仍如件。

御先手細井出雲守組同心
鈴木半三郎印
同同
村山豐五郎印

——屋鋪渡預繪圖證文

圖○略。文政十亥年九月七日市野金助ニ渡ス。

小日向茗荷谷　御留守居倉林五郎右衛門組元同心花岡清太夫上地坪數百四拾七坪餘。

東　戸田淡路守下屋鋪。　西　新御番蜷川大和守組神谷市郎右衛門。
南　道。　北　西丸御留守居寛越前守。

東　十四間貳尺。　西　十三間餘。
南　十壹間貳尺餘。　北　十間貳尺。

神谷市郎右

小日向茗荷谷五軒町花岡清太夫上地百四拾七坪餘、神谷市郎右衛門に被成御預之、四方間數、御繪圖之通、相違無御座奉預い。尤御預地内家作等一切仕間敷旨被仰渡、奉畏い。爲後日仍如件。

文政十亥年二月二日

新御番蜷川大和守組神谷市郎右衛門内　常原彌兵衛　印

御普請方改役　森川八兵衛殿

御普請方　近藤鎌吉殿

出役、御普請方同心小島新九郎、同地割棟梁服部任藏。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合い處、御改之通、相違無御座い。爲後日仍如件。

新御番蜷川大和守組神谷市郎右衛門内　常原彌兵衛　印

西丸御留守居寛越前守内　豐田左市　印

津輕信順

前書御繪圖之通、下屋鋪境目立合い處、御改之通相違無御座い。爲後日仍如件。

戸田淡路守内　岡本源兵衛　印

圖○略。

北本所　津輕越中守○信順。物揚場幷船繫杭。

東　道。　西　大川。
南　大川。　北　大川。
東西　二間壹尺。
南北　八間。物揚場。船繫杭五本、物揚場北之方。

北本所津輕越中守父右京太夫抱屋鋪前通物揚場無御座い。に付、川内に物揚場仕附、船繫杭建置申度旨、越中守願之通被仰渡い。に付、川内に右物揚場仕附い場所、幷船繫杭打い場所等、御繪圖之通、御定杭之通、被成御渡之、奉請取い。尤川筋御通船等之節は船繫い儀無用可仕旨、奉畏い。爲後日仍如件。

文政十亥年二月五日

御普請方下奉行　菅沼給左衛門殿

同　改役勤方　中島八郎殿

御普請方　近藤鎌吉殿

出役、御普請方同心肝煎役兼子又三郎、同同心鈴木治兵衛、同假役上野仁三郎、同地割棟梁河合正助、平野定次郎。

津輕越中守内　徳永可助　印

小笠原彌太郎

圖○略。弘化二巳年二月八日山本喜左衛門に預替ル。

澁谷笄橋　御小性組駒木根大内記組小笠原彌太郎永預地。

東　御小性組駒木根大内記組小笠原彌太郎。
南　小普請組石川民部支配齋木甚四郎永御預地。
西　道。
北　大御番本多伊勢守組服部源五郎永御預地。
東西　十間貳尺。
南北　貳間五尺餘。

澁谷笄橋小笠原彌太郎屋鋪之内、去戌年○文政九年。十一月服部源五郎殿に切坪相對替被仰付い。に付、是迄彌太郎永御預地五拾五坪之内三拾坪餘、彌太郎に引渡被成御預替之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉預い。尤御預地内家作等一切仕間敷旨被仰渡、奉畏い。爲後日仍如件。

殷昌期

文政十亥年二月九日

御普請方下奉行出役
清水三郎右衛門殿
同　改役
森川八兵衛殿
御普請方
吉際源藏殿

出役、御普請方同心肝煎役川村吉藏、同同心假役小田藤次郎、地割棟梁河合正助。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合い處、御改之通、相違無御座い。爲後日仍如件。

御小性組駒木根大内記組小笠原彌太郎内
西村德五郎　印

前書御繪圖之通、永御預地境目立合い處、御改之通、相違無御座い。爲後日仍如件。

大御番本庄伊勢守組服部源五郎内
渡邊善藏　印

小普請組石川民部支配齋木甚四郎内
伊藤角左衛門　印

服部源五郎

圖○略。

澁谷笄橋　大御番本庄伊勢守組服部源五郎永御預地坪數貳拾四坪餘。

東南　大御番本庄伊勢守組服部源五郎。　西道。
北　御小性組駒木根大内記組小笠原彌太郎永御預地。
小普請組長井五右衛門支配青木八郎兵衛永御預地。

東西　八間壹尺。
南北　貳間五尺餘。

澁谷笄橋小笠原彌太郎殿屋鋪之内、去戌年○文政九年。十一月服部源五郎屋敷切坪相對替被仰付い之付、是迄彌太郎殿永御預地五拾五坪之内貳拾四坪餘、源五郎に引渡被成御預之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉預い。尤御預地内家作等一切仕間敷旨被仰渡、奉畏い。爲後日仍如件。

大御番本庄伊勢守組服部源五郎内
渡邊善藏　印

文政十亥年二月九日

御普請方下奉行出役
清水三郎右衛門殿
同　改役
森川八兵衛殿
御普請方
吉際源藏殿

出役、御普請方同心肝煎役川村吉藏、同同心假役小田藤次郎、地割棟梁河合正助。

前書御繪圖之通、屋敷境目立合い處、御改之通、相違無御座い。爲後日仍如件。

大御番本庄伊勢守組服部源五郎内
渡邊善藏　印

前書御繪圖之通、永御預地境目立合い處、御改之通、相違無御座い。爲後日仍如件。

御小性組駒木根大内記組小笠原彌太郎内
西村德五郎　印

小普請組長井五郎右衛門支配青木八郎兵衛内
森田仁兵衛　印

毛利齊元

圖○略。

虎之御門内　松平大膳大夫○毛利齊元。屋鋪之内上地境煉塀。

南ゟ北へ三拾七間三尺。上地貳千六十七坪。

東　松平大膳大夫。　西　上地分。
南　明地。　北　明地。

虎之御門内松平大膳大夫屋鋪之内上地境に煉塀築立申度旨相伺ゆに付、今日御改之上、御繪圖面朱引境目、御定杭之通相心得、煉塀築立ゆ様被仰渡、奉畏ゆ。以上。

松平大膳大夫内
井原素兵衛印

文政十亥年二月十日

御普請方下奉行
増田源三郎殿
同　改役勤方
中島八郎殿
御普請方
近藤鎌吉殿

出役、御普請方同心肝煎役兼子又三郎、同同心鈴木治兵衛、同假役上野仁三郎、地割棟梁河合正助、平野定次郎。

圖○略。

麻布谷町　御先手森山安藝守組元同心勝田金太郎上地坪數五拾九坪餘。

東南　御先手森山安藝守組同心平松榮五郎。
西北　同人組　同心白崎儀八郎。
東北　道。　西南　麻布今井寺町。

東南、西北　十壹間三尺。
北　四間五尺餘。　西南　五間貳尺。

同　御先手森山安藝守組元同心勝田金太郎足地上地坪數六拾五坪餘。

東南　御先手森山安藝守組同心小島榮次郎足地。
同　同人組同心　平松榮五郎足地。
東北　道。　西南　道。

東南、西北　十間四尺。
東北　六間三尺。　西南　五間五尺。

麻布谷町勝田金太郎上地并足地上地共都合百貳拾四坪餘、御先手組屋敷大縄之内に御座ゆに付、御請取、直に右組に被成御差渡、四方間數、御繪圖之通、相違無御座請取申ゆ。爲後日仍如件。

御先手森山安藝守組與力
淵邊忠藏印

文政十亥年二月十七日

御普請方改役
森川八兵衛殿
御普請方
吉際源藏殿

出役、御普請方同心假役小田藤次郎、同地割棟梁本多安次郎。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ゆ處、御改之通、相違無御座ゆ。爲後日仍如件。

森山安藝守組同心
平松榮五郎印
同人組
白崎儀八郎印
同人組
小島榮次郎印

前書御繪圖之通、町屋境目立合ゆ處、被遊御改ゆ通、相違無御座ゆ。爲後日仍如件。

今井寺町名主七左衛門代
佐兵衛印

圖○略。天保十五辰年三月五日吉澤字平次相對替に付預替ル。

小石川丸山　大御番水野伯耆守組曲淵甚右衛門御預地坪數貳拾八坪。崖なゞき。

東　大御番水野伯耆守組曲淵甚右衛門。
南　小普請組神尾豐後守支配矢部庄右衛門。
西　小普請組久世伊勢守支配佐野犀之助。
北　小普請組土屋讃岐守組吉川小兵衛。

東　十貳間四尺餘。　西　十三間。
南　貳間貳尺餘。　北　壹間五尺餘。

小石川丸山朝岡又兵衛殿屋鋪曲淵甚右衛門屋敷相對替、去ル戌年（文政九年。）十二月被仰付ハヽ付、右屋鋪續御預地貳拾八坪、此度甚右衛門ハ被成御預替之ハ、四方間數、御繪圖之通、相違無御座奉預ハヽ。尤御預地內家作等一切仕間敷旨被仰渡、奉畏ハヽ。爲後日仍如件。

文政十亥年二月十八日

御普請方改役　森川八兵衛殿
御普請方　近藤鎌吉殿
田役、御普請方同心網代五助、同地割棟梁清水吉太郎。

大御番水野伯耆守組曲淵甚右衛門內　片野文藏印

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合ハヽ處、御改之通、相違無御座ハヽ。爲後日仍如件。

峯姫君樣添番格御侍　加藤清次郎印
小普請組土屋讃岐守組　吉川小兵衛印
西丸御小性組大岡土佐守組中山市郎左衛門內　橋爪藤兵衛印
小普請組神尾豐後守支配矢部庄右衛門內　淺野文藏印
同久世伊勢守支配佐野犀之助內　大野彌助印

——屋鋪渡預繪圖證文

文政十亥年

二月二日、花岡清太夫上地
一、小日向茗荷谷百四拾七坪餘
（朱）當九月七日市野金助ハ渡。

二月五日
一、北本所津輕越中守父右京大夫抱屋敷川內ハ物揚場仕附ハヽ場所
并船繫杭打渡地所

二月九日、小笠原彌太郎屋敷之內切坪相對替
一、澁谷笄橋三拾坪餘
（朱）弘化二巳年二月八日山本喜右衛門ハ預替。

同日、右同人屋敷之內切坪相對替
一、同所貳拾四坪餘

二月十日
一、虎御門內松平大膳大夫
上地境ハ煉塀築立申ハヽ一件

二月十八日、朝岡又兵衛相對替御預替
一、小石川丸山貳拾八坪
（朱）天保十五辰年三月五日吉澤宇平ハ預替。

文政十亥年二月十一日

和泉守殿（乘寛。）丹阿彌ヲ以御渡、河內守（初鬼野信政。）請取。
御普請奉行ハ。

新御番蜷川大和守組　神谷市郎右衛門御預地。
津輕越中守
御小性組駒木根大內記組　小笠原彌太郎永預地。
大御番本庄伊勢守組　服部源五郎永御預地。
松平大膳大夫
大御番水野伯耆守組　曲淵甚右衛門

——屋敷書拔

殿昌期

大久保土佐守　小林甚之助　小澤鐵太郎　杉浦八郎五郎　南條太兵　村越茂助　鈴木善左　清水彌五左　山中熊五郎　島十郎右

小林甚之助拜領屋敷
裏六番町九百九拾八坪
杉浦八郎五郎拜領屋敷
四谷千駄ケ谷八百六拾三坪餘之內百五拾四坪餘
同所之內四百坪
大久保土佐守拜領屋敷
麴町貳丁目横町五百坪
小澤鐵太郎拜領屋敷
外櫻田貳百五拾坪
村越茂助拜領屋敷
元矢之倉貳千拾八坪之內貳百坪
鈴木善左衞門拜領屋敷
青山、權田原七百三拾壹坪餘之內貳百四拾三坪餘
南條太兵衞拜領屋敷
青山、權田原三百坪
嶋十郎右衞門拜領屋敷
本所南割下水貳百五拾坪之內百坪
清水彌五左衞門拜領屋敷
巢鴨七軒町三百坪之內貳百坪
山中熊五郎拜領屋敷
本郷御弓町貳百坪
外御預地三拾八坪。

右願之通、屋敷相對替被仰付ゐ間、得其意、例之通可被致ゐ。

御小納戸
大久保土佐守に
小普請組長井五右衞門支配
小林甚之助に
久世伊勢守支配
小澤鐵太郎に
長井五右衞門支配
杉浦八郎五郎に
大御番內藝豐後守組與頭
南條太兵衞に
御小性組溝口備後守組
村越茂助に
小十人柳澤八郎右衞門組與頭
鈴木善左衞門に
西丸小十人宮崎平四郎組
清水彌五左衞門に
小普請組土屋讃岐守支配
山中熊五郎に
尾張中將殿附
嶋十郎右衞門に

——相對替御書附書拔

二月廿日丙寅（○文政十年（紀元二四八七年）○丙寅、三正綜覽。）將軍實父一橋家隱居德川治濟（○准大臣。）薨ズ。三月五日庚辰

德川治濟薨去

（○文政十年（紀元二四八七年）○庚辰、三正綜覽。）**東叡山**（○市內下谷區。）**ニ葬リ、最樹院ト法諡ス。**（○柳營日次記。文恭院殿御實紀。一橋德川家譜。）

德川治濟薨去　八、十九日（○文政十年二月○中略。）

御使大久保加賀守（○忠眞）
一橋儀同殿（○德川治濟。）
同同人
德川兵部卿殿（○德川齊禮。）

右ハ儀同殿御病氣御大切ニ付、爲御尋被遣之。

一、今九時前、卽刻之御供揃ニ成、吹上御庭ニ被爲成、夫ゟ卽刻之御供揃ニ成、兵部卿殿神田橋屋形御立寄可被遊ゐ處、兵部卿殿ゟ御斷被仰達ゐニ付、御延引被仰出之。（廿日○文政十年二月。）

一、公方樣御實父一橋儀同殿、今卯中刻薨去ニ付、普請ハ今日（○文政十年二月廿日。）ゟ七日、鳴物ハ十四日停止之旨、被仰出之。（○中略。）

一、公方樣（○德川家齊。）今日（○文政十年二月廿日。）ゟ定式之御忌服被爲請。

內府樣（○德川家慶。）ニハ、定式半減之御忌服被爲請ゐ之旨被仰出之。

寺社奉行
太田摂津守（○資始。）

御勘定奉行
遠山左衞門尉（○景晋。）

一橋儀同殿御葬送御法事御用被仰付之。

右於新番所前溜、和泉守（○松平乘寛。）申渡之。

殿昌期

同斷御用被仰付之。

右於同所、河内守（増山正寧。）申渡之。（中略。）

一、明廿一日（文政十年七月。）御三家方始惣出仕有之。（中略。）

増山河内守殿（正寧。）御渡御書貳通。

一橋儀同殿薨去ニ付、公方様今日（文政十年二月廿日。）ゟ定式之御忌服被爲請、内府様ニも、定式半減之御忌服被爲請ゆ事。二月廿日（文政十年。）

一橋儀同殿薨去ニ付、爲伺御機嫌、明廿一日（文政十年二月。）御本丸西丸ゟ惣出仕之事。

一、病氣幼少隱居之面々も、御本丸西丸月番之老中ゟ、使者可差越事。

一、在國在邑之面々も、老中若狹守（酒井忠進。）駿河守（植村家長。）田沼玄蕃頭（意正。）ゟ、使札可差越事。

一、普請も今日（文政十年二月廿日。）ゟ七日、鳴物も十四日停止之事。

右之通可被相觸ゆ。二月廿日（文政十年。）

廿一日（文政十年二月。）

一、一橋儀同殿薨去ニ付、爲伺御機嫌、水戸殿始惣出仕有之、於席々謁老中。

一、右同斷ニ付、爲伺御機嫌、紀伊大納言殿徳川太眞殿ゟ使者被差出之、於躑躅間、謁和泉守。（松平乘寛。）

小普請奉行　夏目左近將監（信平。）　御目付　金森甚四郎（可充。）

小田切土佐守（直温。）

右同斷ニ付被遣之。（中略。）

増山河内守殿御渡御書付

御朦中御機嫌窺

二月廿二日（御本丸西丸）ゟ惣出仕。

廿三日（御本丸西丸）ゟ惣出仕。

廿五日　御本丸ゟ。（詔誥。高家。罷之問誥。芙蓉間御役人。）

右之通可有出仕ゆ。

右之通、可被相觸ゆ。二月（文政十年。）

廿三日（文政十年二月。中略。）

増山河内守殿御渡御書付

一橋儀同殿御法號

殿昌期

右同斷ニ付爲御尋被遣之。

内府ゟも御意有之。

御使溝口備後守　紀伊中納言殿（徳川齊順。）　同松平内匠頭　尾張中將殿（徳川齊朝。）

御使青山下野守　徳川兵部卿殿（齊禮。）　同仙石丹波守　田安中納言殿（徳川齊匡。）

同同人　徳川式部卿殿（徳川齊明。）　同同人　徳川右衞門督殿（齊荘。）

最樹院殿

右之通、向後最樹院殿と可稱旨、被仰出ゐ事。

廿五日○文政十年二月○中略。

於東叡山最樹院殿御送葬御法事中、勤番被仰付之。

右於芙蓉間、老中列座、和泉守申渡之。

朔日○文政十年三月○中略。

林肥後守殿○忠英。御渡御書付

最樹院殿

三月五日

巳下刻　御出棺。

未下刻　御葬送。

一、御法事、來七日○文政十年三月。より同○文政十年三月。十三日迄。

右之通ゐ事。三月○文政十年。

四日○文政十年三月○中略。

林肥後守殿御渡御書付

來ル七日○文政十年三月。最樹院殿御法事ゐ付、爲祠御機嫌、溜詰高家衆御奏者番芙蓉間御役人、御本丸西丸に出仕。

内田伊勢守○正容。

其外万石以上之面々も、御本丸西丸月番之老中に使者可差越ゐ。

一、御法事中、一度、高家詰衆御奏者番、御本丸西丸に可有出仕ゐ。

一、御法事相濟ゐゑ付、十四日○文政十年三月。溜詰高家詰衆御奏者番芙蓉間御役人、御本丸西丸に出仕、其外万石以上之面々も、御本丸西丸月番之老中に、使者可差越ゐ。

右之通、可被相觸ゐ。三月○文政十年。

五日○文政十年三月。

一、最樹院殿今○文政十年三月五日。巳下刻、神田橋御屋形御出棺、上野に御葬送相濟ゐ。

一、右御葬送相濟ゐ、上野に御名代松平和泉守。

十四日○文政十年三月。

御座間。

寺社奉行　太田摂津守○資始。

御勘定奉行　遠山左衛門尉○景晋。

右於上野、最樹院様御法事御用取扱ゐゑ付御目見。

廿日○文政十年三月○中略。

寺社奉行　太田摂津守○資始。

御勘定奉行　遠山左衛門尉○景晋。

時服五。

同三。

同二ツゝ。

御目付　金森甚四郎○可充。

小田切土佐守○直温。

殷昌期

最樹院殿御葬送御法事御用相勤ゆゑ付被下之。

右於芙蓉間、老中列座、出羽守（水野忠成。）申渡之。若年寄中侍座。

御勘定組頭　大島九郎太郎　漆奉行　藤井孫十郎

銀十枚ツヽ。

御勘定　奥山又三郎　山本雄三郎

同五枚ツヽ。

馬場金之丞　支配勘定　村上次郎左衛門

同断ニ付被下之。

右於御右筆部屋縁頰、和泉守申渡之。

御徒目付　坂部兵助　上村吉兵衛

銀五枚ツヽ。

野宮市太夫　鴨田鉄三郎

同断ニ付被下之。

右於蕉火間、林肥後守申渡之。

十二日（文政十一年七月。中略。）

時服二。

最樹院様御新葬御法事之節御用取扱ゆゑ付被下之。

右於芙蓉間、老中列座、加賀守（大久保忠真。）申渡之。若年寄侍座。

御普請奉行　夏目左近将監（信平。）

銀五枚。

普請方　谷中宗左衛門

同断ニ付被下之。

右於御右筆部屋縁頰、和泉守（松平乗寛。）申渡之。若年寄中侍座。

銀三枚。

同断ニ付被下之。

右於鄰蹴間、若年寄出座、林肥後守（忠英。）申渡之。

御普請方吟味役　市河藤作　小普請方改役　山中彌吉

銀五枚ツヽ。

同御徒假役　渡邊宗四郎

同断ツヽ。

内藤杢左衛門

同断ニ付被下之。

同大工棟梁　村松伊勢　小林土佐

右於蕉火間、同人申渡。

——柳營日次記

二十日（文政十年二月。）一橋儀同治濟卿遂に薨じさせたまひぬ。よて御所には定式、内府には定式半減の忌服を請けさせらるへしとなり。又普請は七日。鳴物同じく停止せらる。寺社奉行太田攝津守勘定奉行遠山左衛門尉に、御同所御葬送御法會の事命せらる。小普請奉行夏目左近將監目付金森甚四郎小田切土佐守また同しく御葬送御法會の事命せらる。

廿三日（文政十年二月。中略。）儀同治濟卿に御諡ありて、最樹院殿と稱しまいらす。

五日（文政十年三月。）最樹院殿はけふ東叡山に御葬送あり。はてゝ松平和泉守代參す。

七日○文政十年三月。東叡山最樹院殿御法會初日なり。

十一日○文政十年三月。林肥後守御使して、日光門主に檜重をおくらせらる。最樹院殿御法會中日によりてなり。

十三日○文政十年三月○中略。御法會結願により、日光門主に白銀二百枚を贈らせらる。執當衆僧へ褒銀を下さる。

十五日○文政十年三月○中略。御法會濟せられしにより、死罪流罪のもの二十四人を東叡山より赦さる。また谷中の里にて米二百苞を非人にほどこしあたへらる。

二十日○文政十年三月。最樹院殿御葬送御法會の事奉はりし寺社奉行太田攝津守勘定奉行遠山左衞門尉目付金森甚四郎小田切土佐守、ともに時服を賜ひ、所屬のともがら賜物差あり。

十二日○文政十一年七月。夏目左近將監は、最樹院殿御新送御法會の事奉はりしをもて、時服を賜ふ。

——文恭院殿御實紀

治濟豐之助。○德川。

寶曆元年辛未十一月六日生。母細田氏。同八年戊寅十二月十九日爲世子。同十二年十二月朔日民部卿。明和元年甲申十一月十一日從三位左近衞權中將。十二月十九日襲封。安永八年己亥十二月廿五日命每歲賜金三千兩。天明元年辛丑十二月五日參議。同四年甲辰六月二日命每歲賜金一万兩。寛政三年辛亥三月五日權中納言。同四年壬子九月二十四日命收甲斐國采地三万石餘、更賜遠河國三万石餘地。同十一年己未正月廿七日從三位權大納言。授食封于世子而老。命每歲別賜俸米五万苞金五千兩。同十二年庚申十二月二日命每歲加賜金三千兩、通前八千兩。文化二年乙酉正月十八日有內旨加賜金七千兩、通前一萬五千兩。文政元年戊寅六月五日剃髮稱穆翁。文政三年庚辰四月廿一日從一位。同八年三月七日准大臣。

十年丁亥二月廿日薨、七十七歲。御諡最樹院。同十一年戊子正月廿九日贈內大臣。同十二年己丑二月八日贈太政大臣。

——德川家譜

屋鋪受授

三月十一日丙戌○文政十年(紀元二四八七年)○丙戌、三正綜覽。屋鋪續崖地ノ預替有リ。外ニ是月○文政十年(紀元二四八七年)三月。屋鋪若干ヲ受授ス。○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。相對替御書附書拔。

屋鋪受授事蹟

屋鋪受授　屋鋪受授ノ文政十年三月ニ爲サレタル者、左ノ如シ。

島十郎右

圖○略

本鄕御弓町　尾張中將殿附島十郎右衞門御預地坪數三拾八坪。崖ナダレ。

東南　道。大御番酒井飛驒守組根津熊之助。　西北　御徒目付石川三太夫。尾張中將殿附島十郎右衞門。

東南　七尺。貳十六間四尺。　西北　貳間四尺。貳十七間。

本鄕御弓町山中熊五郎殿屋鋪島十郎右衞門屋敷相對替、當二月○文政十年。被仰付ハヽ付、屋鋪續崖なゞを御預地三拾八坪、十郎右衞門に被成御預替之、四方間數、御繪圖之面、相違無御座奉預ハ。尤御預地內家作等一切仕間敷旨被仰渡奉畏ハ。爲後日仍如件。

文政十亥年三月十一日

尾張中將殿附島十郎右衞門內
中井儀左衞門印

御普請方下奉行　菅沼給左衞門殿
同　改役　森川八兵衞殿
殷昌期

御普請方
近藤　鎌　吉殿

出役、御普請方同心肝煎役兼子又三郎、同同心鈴木治兵衛、地割棟梁河合正助。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合い處、御改之通、相違無御座い。爲後日仍如件。

御徒目付
石川　三　太　夫印
大御番酒井飛驒守組根津熊之助内
篠崎　蔀印
尾張中將殿附島十郎右衛門内
中井　儀左衛門印

圖○略。

虎之御門内　花園拜借地坪數四百貳坪。

東　松平大膳大夫。　西　道。
南　道。　北　道。
東西　十六間四尺。
南北　貳十四間餘。

櫻田御用屋鋪之内花園只今迄之拜借地面、御用ニ付虎之門内松平大膳大夫殿上ヶ地之内ニ引移拜借被仰付い二付、右拜借地四百貳坪、被成御渡之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取い。爲後日仍如件。

文政十亥三月廿五日

御普請方下奉行
増田　源　三　郎殿

花園内
伊藤　七　藏印

同　改役勤方
中島　八　郎殿

御普請方
近藤　鎌　吉殿

御普請奉行初鹿野河内守（○信政）渡レ之。外御用ニ付出席無レ之。

出役、御普請方同心肝煎役兼子又三郎、同同心加納泰藏、鈴木治兵衛、荒川金藏、上野仁三郎、森鈴太、同地割棟梁中村三左衛門、河合正助、上野彌藏、服部任藏、飯塚彦太郎。

圖○略。

虎之門内　萬里小路拜借地坪數五百八拾六坪餘。

東　龜岡拜借地。　西　道。
南　道。　北　三浦備後守。
東　十九間貳尺。　西　貳十間四尺。
南　貳十八間三尺。　北　貳十九間壹尺。

櫻田御用屋鋪之内萬里小路只今迄之拜借地面、御用ニ付、虎之門内松平大膳大夫殿上ヶ地之内ニ引移、拜借被仰付い二付、右拜借地五百八拾六坪餘被成御渡之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取い。爲後日仍如件。

文政十亥年三月廿五日

御普請方下奉行
増田　源　三　郎殿
同　改役勤方
中島　八　郎殿

万里小路内
松本　儀　太　夫印

股　昌　期

御普請方
近藤　鎌　吉殿

御普請奉行初鹿野河内守（○信政）渡レ之。外御用ニ付出席無レ之。

出役、御普請方同心肝煎役兼子又三郎、同同心加納泰藏、鈴木治兵衛、荒川金藏、上野仁三郎、森鎗太、同地割棟梁中村三左衛門、河合正助、上野彌藏、服部任藏、飯塚彦太郎。

圖○略。

虎之門内　花町拜借地坪數貳百六拾八坪。

東　松平大膳大夫。　西　龜岡拜借地。
南　道。　北　青山大膳亮。

東　十七間五尺。
南　北　十五間餘。

櫻田御用屋鋪之内花町只今迄之拜借地面、御用ニ付、虎之門内松平大膳大夫殿上ケ地之内ニ引移、拜借被仰付ニ付ニ付、拜借地貳百六拾八坪被成御渡之四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取ニ付。爲後日仍如件。

文政十亥年三月廿五日

花町内
高野　平　藏印

御普請方下奉行
增田　源　三　郎殿
同　改役勤方
中島　八　郎殿
御普請方
近藤　鎌　吉殿

御普請奉行初鹿野河内守（○信政）渡レ之。外御用ニ付出席無レ之。

御普請方肝煎役兼子又三郎、同同心加納泰藏、鈴木治兵衛、荒川金藏、上野仁三郎、森鎗太、同地割棟梁中村三左衛門、河合正助、上野彌藏、服部任藏、飯塚彦太郎。

圖○略。

虎之御門内　龜岡拜借地坪數貳百六拾八坪。

東　花町拜借地。　西　万里小路拜借地。
南　道。　北　三浦肥後守。

東　十七間五尺。
南　北　十五間餘。

櫻田御用屋鋪之内龜岡只今迄之拜借地面、御用ニ付、虎之門内松平大膳大夫殿上ケ地之内ニ引移、拜借被仰付ニ付ニ付、右拜借地貳百六拾八坪、被成御渡之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取ニ付。爲後日仍如件。

文政十亥年三月廿五日

龜岡内
村田　市右衛門印

御普請方下奉行
增田　源　三　郎殿
同　改役勤方
中島　八　郎殿
御普請方
近藤　鎌　吉殿

御普請奉行初鹿野河内守（○信政）渡レ之。外御用ニ付出席無レ之。

出役、御普請方同心肝煎役兼子又三郎、同同心加納泰藏、鈴木治兵衛、荒川金藏、上野仁三郎、森鎗太、同地割棟梁中村三左衛門、河合庄助、上野彌藏、服部任藏、飯塚彦太郎。

伊賀者三人

圖○略。

虎之門内　伊賀者三人拜借御長屋地所坪數百拾四坪餘。

東西　七間一尺。
南北　十六間。

東　道。　西　道。
南　道。　北　道。

櫻田御用屋鋪之内、拙者共只今迄之拜借御長屋地所、御用ニ付虎之門内松平大膳大夫上ケ地之内ニ引移相成ハニ付、三人分百拾四坪餘、貳人分七拾五坪、都合五人分御長屋地所貳ケ所合百八拾九坪餘、被成ハ御渡之ハ、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座ニ請取申ハ。爲後日仍如件。

明屋敷番伊賀者
北川彦太郎印
齋藤十左衛門印
深澤大助印
横井定次郎印
鈴木喜三二印

文政十西年三月廿五日

御普請方下奉行
増田源三郎殿
同　改役勤方
中島八郎殿
御普請方
近藤鎌吉殿

出役、御普請方同心肝煎役兼子又三郎、同同心加納泰藏、鈴木治兵衛、荒川金藏、上野仁三郎、

門番人一人

圖○略。

虎之門内　櫻田御用屋鋪御門番人壹人拜借御長屋地所坪數三拾坪。

東　道。　西　伊賀者拜借御長屋地所。
南　道。　北

東西　七間三尺。
南北　四間。

櫻田御用屋鋪之内、只今迄之拜借御長屋地所、御用ニ付、虎之門内松平大膳大夫上ケ地之内ニ引移相成ハニ付、壹人分拜借御長屋地所三拾坪被成ハ御渡之ハ、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座ニ請取申ハ。爲後日仍如件。

櫻田御用屋敷御門番人
市瀨萬右衛門印
同　御門番人組頭
増田忠左衛門印

文政十亥年三月廿五日

御普請方下奉行
増田源三郎殿
同　改役勤方
中島八郎殿
御普請方
近藤鎌吉殿

出役、御普請方同心肝煎役兼子又三郎、同同心鈴木治兵衛、加納泰藏、荒川金藏、上野仁三郎、森鎗太、地割棟梁中村三左衛門、河合正助、上野彌藏、服部任藏、飯塚彦太郎。

圖○略。

殿昌期

虎之門内　御用屋鋪坪數貳千六拾七坪餘。

東　松平大膳大夫。　西　道。
南　道。　北　三浦備後守。

東　三十七間三尺。　西　四十間四尺餘。
南　四十三間四尺、十三間五尺。　北　六十間。

虎之門内松平大膳大夫殿上地、今度御用屋鋪ニ相成、今日御改御座いニ付、屋敷境目立合い處、御繪圖面、朱引之通、相違無御座いゟ。爲後日仍如件。

文政十亥年三月廿五日

三浦備後守内　神原　三　作　印
青山大膳亮内　野村　治　郎　助　印

御普請方下奉行　増田　源　三　郎殿
同　改役勤方　中島　八　郎殿
御普請方近　藤　鎌　吉殿

出役、御普請方同心肝煎役兼子又三郎、同同心加納泰藏、鈴木治兵衛、荒川金藏、上野仁三郎、森鎗太、同地割棟梁中村三左衛門、河合庄助、上野彌藏、服部任藏、飯塚彦太郎。

——屋鋪渡預繪圖證文

文政十亥年

三月十一日、山中熊五郎相對替崖なゝれ御預地
一、本郷御弓町三拾八坪
（朱）嘉永四亥年五月廿三日山本九左衛門ゟ預替。

尾張中將殿附
嶋　十郎右衛門
御預地。

三月廿五日、松平大膳大夫上ヶ地之内
一、同所四百貳坪
但、只今迄之拜借地御用ニ付。

同日、右同斷之内
一、同所五百八拾六坪餘
但、右同斷。

同日、右同斷之内
一、同所貳百六拾八坪
但、櫻田御用屋敷之内差上。

同日、右同斷之内
一、同所貳百六拾八坪
但、櫻田御用屋敷之内拜借地差上。

同日、右同斷之内
一、同所百八拾九坪餘
但シ、右同斷。

三月廿五日、松平大膳大夫上地之内
一、虎之門内三拾坪
但、櫻田御用屋敷之内上地差上。

文政十亥年三月廿八日

出羽守殿（水野忠成）丹阿彌ヲ以御渡、河内守（初鹿野信政）。請取。

殷　昌　期

花園　拜借地。
萬里小路　拜借地。
花町　拜借地。
龜岡　拜借地。

明屋敷番伊賀者
北川彦太郎
齋藤十左衛門
深澤大助
横井定次郎
鈴木喜三二
拜借地。

櫻田御用屋敷御門番人
市瀨萬右衛門
同　御門番人組頭
増田惣左衛門
拜借地。

——屋敷書拔

御普請奉行に。

六郷立佐拜領屋敷
下谷貳丁町貳百八拾貳坪
中山大吉拜領屋敷
四谷千駄ケ谷千坪之内貳百坪
同所之内［　　］坪
勝桓兵衛拜領屋敷
下谷和泉橋通五百七拾五坪之内五拾坪
窪嶋鍋吉拜領屋敷
小石川築地五百坪之内貳百三拾坪
中根七郎左衛門拜領屋敷
駒込千駄木貳百四拾九坪餘
中川勘左衛門拜領屋敷
新道壹番町貳百五拾坪餘之内五拾坪
遠山鐵十郎拜領屋敷
同所百五拾坪
井出權之助拜領屋敷
四谷内藤宿貳百貳拾坪
丸毛善之助拜領屋敷
四谷南寺町三百貳拾坪

右願之通、屋敷相對替被仰付ゐ間、得其意、例之通可被致ゐ。

佐渡奉行
勝　桓　兵　衛に

大御番八木丹波守組
六　郷　立　佐に
小普請組長井五右衛門支配
中　山　大　吉に
新御番藤堂主馬組
中　根　七郎左衛門に
小普請組長井五右衛門支配
窪　嶋　鍋　吉に
新御番岡田勝五郎組
遠　山　鐵　十　郎に
兵部卿殿物頭助
中　川　勘　左　衛　門に
小普請組神尾豐後守支配
丸　毛　善　之　助に
石川民部支配
井　出　權　之　助に

——相對替御書附書拔

十八日癸巳（文政十年（紀元二四八七年）三月○癸巳、三正綜覽。）**將軍家齊**（○德川。）**太政大臣ニ任ジ、世子家慶**（○德川。）**從一位ニ敍ス。**（○柳營日次記。文恭院殿御實紀。）

將軍太政大臣昇任事蹟

將軍太政大臣昇任　相傳フ、

十日（○文政十年二月○中略。）

御目付觸

御昇進御位階之節、下乘より内供廻り召連ゐ覺

一、万石以下下乘ゟ内、供壹人、草履取壹人、雨天之節手傘爲持可申事。

但、供廻り登城ゐ迄、銅御門外に拂置、万石以上退散ゐ迄見計、繰入申ゐ間、銅御門出入之障に不相成樣、片寄罷在、作法宜敷樣、御申聞可被成ゐ。尤御先手ゟ幕張いたし、與力同心附置、御徒目付御小人目付致差引ゐ事。

一、万石以下挾箱、下乘腰掛前ニ殘置、内に一切入間敷ゐ事。

但、中之口部屋有之面々も、挾箱内に入ゐ事。

一、大手御疊小屋前ゟ大手迄御堀端通り、公家衆登城道ニゐ間、供廻り等差置不申ゐ事。

右之趣伺相濟申ゐ。依之御達申ゐ。以上。

二月十日（○文政十年。）

大草主膳（○高好。）
羽太左京（○正榮。）

十三日（○文政十年二月○中略。）

御目付觸

御昇進御位牌相濟ゐ爲御祝儀御本丸西丸に惣出仕、夫より御老中方若狹守殿（○酒井忠進。）駿河守殿（○植村家長。）玄蕃頭殿

○田沼意正。御本丸西丸若年寄衆に相廻り節、外櫻田御門馬場先御門和田倉御門右三ヶ所御門外、下馬所に相成申り。其外諸事前之三ヶ所下馬所に相成り節之通、御心得可被成り。依之御達申り。以上。

大草主膳
羽太左京

二月十三日○文政十年。

六日○文政十年三月○中略。

御昇進之節
御裾之役。

大久保加賀守○忠眞。

右於御前被仰付之。

御昇進之節
覽箱之役。

寺社奉行
太田攝津守○資始。
代リ
松平伊豆守○信順。

右被仰付旨、於芙蓉間、老中列座、出羽守○水野忠成。申渡之。

御昇進之節
宣旨請取り役。

高家
戸田備後守○氏倚。

御位階之節
御位記受取り役。

同
宮原彈正大弼○義周。

右被仰付旨、於羽目間、老中若狹守○酒井忠進。列座、下野守○青山忠裕。申渡之。

御昇進之節
宣旨相納り役。

堀田攝津守○正敦。

御位階之節
御位記相納り役。

森川內膳正○俊知。

右於奥被仰付之。

九日○文政十年三月○中略。

增山河內守殿○正壽。御渡御書付

此度御昇進御位階相濟り以後、御禮被爲請り間、万石以上之面々も、父子共無官にても年始登城之分、幷三千石以上之面々、

公方樣○德川家齊。に、

御昇進に付御太刀馬代。

御位階に付同斷。

內府樣○德川家慶。に、

御位階に付御太刀馬代。

御昇進に付同斷。

右之通獻上、御禮可被申上り。此外年始八朔御禮出仕之分、可罷出り。尤長袴可爲着用り。

但、諸御番方ハ、一組より一兩人づゝ可罷出り。

一、御昇進に付、獻上之以御太刀目錄御禮被申上、其外御位階に付ても之御太刀も、御本丸西丸御納戸に可被相納り。

一、病氣幼少且隱居之面々も、以使者御太刀目錄可有獻上り。

一、在國在所之面々ハ、追々以使者御太刀目錄可差上り。

内府様に献上之御太刀目錄も、西丸に可相納い。尤使者壹人にゐ可勤い。

一、右之節登城之面々、御禮過、御昇進御位階相濟い爲御祝儀、西丸に出仕、夫より老中若狹守○酒井忠進。駿河守○槇村家長。田沼玄蕃頭○意正。御本丸西丸若年寄中に、可被相廻い。且病氣幼少隱居之面々も、御本丸西丸月番之老中に、使者可被差越い事。

一、在國在所之面々、老中若狹守駿河守に飛札、田沼玄蕃頭にハ格狀、可差越い。

一、在國在所之隱居部屋住之面々も、可爲同前い事。

但、御番方ハ頭取宅に、可相越い。

右之通可被相觸い。日限之儀ハ、追ゐ可相達い間、去ル午年之趣、可被心得い。

三月○文政十年。

十二日○文政三年三月○中略。

増山河内守殿○正寧。御渡御書付

來ル十八日○文政十年三月。十公方様御昇進、内府様御位階御規式有之いニ付、万石以上之面々父子共、并諸番頭諸物頭諸役人寄合も布衣以上法印法眼之醫師等、可有登城い。

但、万石以上之内無官之面々ハ、不及登城い。

一、諸大夫以上も束帶、其外布衣素袍、法印法眼も其裝束着用之事。

一、五半時揃ニい事。

右之通可被相觸い。右爲御祝儀、何もに被相廻い儀、當日ハ可爲無用い。日限も追ゐ可相達い。

三月○文政十年。

御目付觸貳通

御昇進御位階御當日、堀中務少輔大廣間二之間迄、詔書持出い節、著座之面々、不敬之儀無之様、御心得可被成い。依之御達申い。以上。

三月十二日○文政十年。

大草主膳
羽太左京

御昇進御位階之節、入御相濟い共、公家衆御三家方退散相濟い迄も、行儀致着座可龍在旨、申達い様、下野守殿○青山忠裕。被仰渡い。尤退散之儀も、拙者共可及差引い。此段御達申い。以上。

三月十二日○文政十年。

大草主膳
羽太左京

十三日○文政十年三月○中略。

御目付觸

此度御祝儀。初度並貳度目御能之節共、御玄關より登城之万石以上以下之供廻りも、登城い迄、中御門外寺澤御門邊ハ、拂置、四品以上之衆退散い迄見計、御玄關前に繰入申い。尤御徒目付御小人目付致差引い事。

一、中之口ゟ登城之分も、供廻り平生之通被致、御玄關御登城之面々退散相濟、中之口ゟ繰出申い。尤御徒目付御小人目付致差引い事。

一、初度御能之節、大手御疊小屋前ゟ大手迄御堀端通り、公家衆登城道こい間、供廻り差置可申い事。
右之通伺相濟申い。依之御達申い。以上。
三月十三日○文政十年。　大草主膳　羽太左京

十四日○文政十年三月○中略。
御目付觸
明十五日○文政十年三月。公家衆御對顏ニ付、表向五半時揃こい。
十五日○文政十年三月○中略。
一、今巳上刻、御白書院ニ公方樣內府樣出御。
勅使　年頭之御祝儀　廣橋一位　甘露寺一位
院使　冷泉前大納言
右出席御對顏。
年頭之御祝儀
公方樣內府樣ニ
禁裡ゟ　御太刀目錄　黃金三枚　ッ、。
仙洞ゟ　同斷　同貳枚　ッ、。
大宮ゟ　黃金壹枚　ッ、。
女御ゟ　同斷　ッ、。
若君樣ニ
禁裡ゟ　御太刀目錄。　黃金貳枚。
仙洞ゟ　同斷。　同壹枚。
右順々御頂戴之。
但、若君樣ニ之被進物も、內府樣御頂戴之。
御太刀目錄ッ、。

御太刀目錄二種。
御太刀目錄。
同斷。二種。
御太刀目錄。
右御目見、高家披露之。
殷昌期

年頭之御祝儀
鷹司關白殿使者　牧治部權少輔。
二條左大臣殿使者　隱岐播磨守。
九條右大臣殿使者　芝越中守。
一條前關白殿使者　難波伊豫守。
近衛內大臣使者　齋藤宮內少輔。
聖護院御門跡使者　雜務法眼。
知恩院御門跡使者　武田宮內卿。
青蓮院御門跡使者　進藤刑部卿。

十帖一卷。

右披露同前。

御太刀目錄ッヽ。
紗綾五卷
同。
同三卷。

右御目見、披露同前。

御白書院御向板緣
御鷹之緣三懸ッヽ。

同ッヽ。
扇子。
同ッヽ。

右御目見、御奏者番披露之。

帝鑑間御疊緣
御鷹之緣二懸。
御秡。

右御目見、披露同前。此節御譜代大名其外共並居御目見、畢て入御。○中略。

御使大澤民部大輔
勅使

吉田侍從三位使者
院使

自分之御禮
廣橋一位
勾當內侍
甘露寺一位
冷泉前大納言

廣橋一位家老
濱路阿波
甘露寺一位家老
坂上左門

攝家方門跡方使者
平野外記
藤木玄蕃
樂人惣代
奥丹波

御冠師
木村出雲
御末廣師
岡村越後

御烏帽子師
杉本長門

右御對顏相濟ゆゑ付、御樽肴被進之。

十七日○文政十年三月○中略。

一、明十八日○文政十年三月。御昇進御位階ニ付、表向五半時揃之旨、被仰出之。

十八日快晴。○文政十年三月。

一、御昇進御位階ニ付、殿中五位以上束帶。

一、今巳上刻御白書院ニ公方樣內府樣出御。

右出座御目見。公方樣御裝束御衣紋之役、內府樣御衣紋規式勤之。

右出座御目見。公方樣內府樣御身固勤之。

紀伊中納言殿○德川齊順。水戶中納言殿○德川齊脩。燈。尾張中將殿○德川齊朝。

右順々被出席、今日之御祝儀可申上之。

溜詰　燈。松平越前守○治好。

松平三河守○德川齊良。燈。松平豐後守○島津齊興。松平伯耆守○本庄宗發。

右御目見、同斷御祝儀申上之。相濟、大廣間ニ渡御。

一、紀伊殿、水戶殿、燈。尾張中將殿、國持大名、四位以上溜詰、御譜代之四品、高家、雁之間詰、御奏者番、其外諸大夫、並布衣以上之面々、法印法眼之醫師等、大廣間ニ相詰ル。

高倉大夫
土御門陰陽頭

勅使　廣橋一位　甘露寺一位
院使　冷泉前大納言殿　大宮使　高倉中納言
女院使　藤谷右兵衛督

右出席着座。

一、告使栗津因幡守於庭上、御昇進を二聲呼之。

一、詔書覽箱ニ入、堤中務少輔持出、時ニ出羽守○水野忠成。請取之、備御前。御拜覽相濟ゐ、御納戸構ニ納之。過ゐ於御下段、堤ニ時服被下之。

一、副使青木内藏少允宣旨ヲ覽箱ニ入持出、押小路大外記ニ渡之。大外記ゟ高家戸田備後守ニ相渡之、備後守備御前。上覽相濟ゐ、御納戸構ニ堀田攝津守○正敬。納之。

一、從一位之御位記、高家宮原彈正大弼持出、内府様上覽相濟ゐ、御納戸構ニ、森川内膳正○俊知。納之。

御昇進ニ付、

公方様ニ。
禁裡ゟ　御太刀目錄。黃金三枚。綿百把。
仙洞ゟ　同斷。同武枚。同五十把。
大宮ゟ　黃金壹枚。紗綾十卷。
女御ゟ　同斷。

内府様ニ。
禁裡ゟ　御太刀目錄。黃金貳枚。
仙洞ゟ　同斷。同壹枚。
大宮ゟ　黃金壹枚。
女御ゟ　同斷。

若君様ニ。
禁裡ゟ　御太刀目錄。黃金貳枚。
仙洞ゟ　同斷。同壹枚。
大宮ゟ　黃金壹枚。
女御ゟ　同斷。

御位階ニ付、

公方様ニ。
禁裡ゟ　御太刀目錄。黃金貳枚。
仙洞ゟ　同斷。同壹枚。
大宮ゟ　一種一荷。
女御ゟ　同斷。

内府様に。

禁裡ゟ　御太刀目錄。黄金三枚。

仙洞ゟ　同斷。同壹枚。

大宮ゟ　二種一荷。

女御ゟ　同斷。

若君様に。

禁裡ゟ　二種一荷。

仙洞ゟ　一種一荷。

大宮ゟ　同斷。

女御ゟ　同斷。

右順々御頂二戴之一。

但、若君様に之被レ進物も、内府様御頂二戴之一。

御昇進御位階ニ付、

御太刀目錄。

同。

同。

鷹司關白殿使者　牧　治部權少輔

二條左大臣殿使者　隱　岐　播　磨　守

九條右大臣殿使者　芝　越　中　守

同。

同。

同。

同。

同。

同。

同。

同。

同、

同。

同。

同。

同。

同。

同。

伏見宮使者　後　藤　主　殿　少　允

有栖川宮使者　藤　木　近　江　守

一條前關白殿使者　難　波　伊　豫　守

近衞内大臣殿使者　齋　藤　宮　内　少　輔

聖護院御門跡使者　雜　務　法　眼

梶井宮使者　山　本　大　藏　卿

知恩院宮使者　武　田　宮　内　卿

青蓮院宮使者　進　藤　刑　部　卿

勸修寺宮使者　山　口　近　江　守

三寶院門跡使者　北　村　長　門　守

蓮華光院門跡使者　矢　島　石　見　守

實相院門跡使者　藏　井　坊　法　眼

大乘院門跡使者　本　間　民　部　卿

仁和寺宮使者　矢　守　備　後　守

大覺寺門跡使者　井　關　大　藏　卿

右御目見、高家披露之。

紗綾五卷。

右高家披露之。

御太刀目錄ツヽ。

同斷
紗綾三卷ツヽ。

同ツヽ。

御太刀目錄。

右壹人ツヽ、出席御禮、高家披露之。

同斷。

右於板緣御禮、御奏者番披露之。

御太刀目錄。
卷物二十。

右御對顏、高家披露之。

右過る御下殿迄公方樣內府樣立御、御次伺公之面々一同御目見。

右於板緣御目見、御奏者番披露之。

扇子ツヽ。

自分之御禮
廣橋　一位　勾當內侍

冷泉前大納言　甘露寺一位

高倉中納宮　藤谷右兵衞督

土御門陰陽頭　堤中務少輔

高倉大夫　押小路大外記

鷹司右大將殿

吉田侍從三位使者
鈴鹿河內守

攝家親王門跡方使者

御太刀目錄。

扇子ツヽ。

同。

右板緣ニ並居、一同平伏、御奏者番披露之。畢る入御。

一、重る御白書院ニ公方樣內府樣出御、紀伊殿水戶殿煩尾張中將殿御對顏、溜詰松平越前守松平三河守松平豐後守松平伯耆守御目見、何為今日之御祝儀申上之。畢る御三卿方德川右衞門督殿同斷御祝儀申上之。入御。

一、公方樣內府樣御位階御昇進ニ付、御太刀目錄攝家親王門跡方ゟ、以使者被差上之。於柳之間、謁老中若狹守。

一、禁裡仙洞大宮女御ゟ御臺樣ニ御昇進御位階之御祝儀被進物目錄、於殿上間ニ、出羽守（水野忠成）請取之。

一、御簾中樣ニ之被進物目錄も、若狹守（酒井忠進）請取之。

鷹司殿家司
種田信濃守　牧治部權少輔

高橋大隅守　鈴木右馬允

同醫師
神原治部少丞　兼田伊織

廊生法眼道濟　平田中務少丞

廣橋一位家老
粟津因幡守　青木內藏少允

濱路阿波　平野外記

甘露寺一位家老
坂上左內　藤木玄蕃

御使橫瀨美濃守
鷹司右大將殿

同　大澤修理大夫　勅使
同　大宮使　院使
同　戸田土佐守　高倉大夫　女御使

右御規式相濟ゐ之付、御樽肴被遣之。○中略。

一、明十九日○文政十年三月。公家衆御返答之付、表向五半時揃之旨、被仰出之。

十九日○文政十年三月。

一、勅使院使大宮使女御使御返答之付、溜詰松平伯耆守御譜代大名同嫡子高家詰衆御奏者番登城。

一、今巳上刻、御白書院に公方様内府様出御。

勅使　廣橋一位　甘露寺一位
院使　冷泉前大納言　大宮使　高倉中納言
女院使　藤谷右兵衛督

右御前に被爲召之。禁裡仙洞大宮女御方年頭之御祝儀被進、且御昇進御位階之御禮、右之付被進物、并若君様に右御祝儀被進、御返答被仰含之。

御太刀目錄。

閑院宮使者　木村主計頭　妙法院宮使者　松井民部卿
一乘院宮使者　前田長門守

右御昇進之付被差上之、高家披露之。

銀貳百枚、綿百把。
内府様方銀百枚。
若君様方同五十枚。
御昇進之付、銀五百枚、時服三十。
御位階之付内府様方銀三百枚、綿貳百把。

右同斷。

銀百枚、綿百把。
内府様方銀百枚。
若君様方同三十枚。
御昇進之付銀三百枚、時服二十。
御位階之付内府様方銀貳百枚、綿百把。

御昇進之付公方様方銀貳百枚、時服十。
御位階之付内府様方銀百枚、綿百把。
若君様方銀三十枚。

右同斷。

御昇進之付公方様方銀百枚、時服十。
御位階之付内府様方銀百枚、時服六。

御昇進之付公方様方銀百枚、時服十。

御昇進之付公方様方銀貳百枚、時服十。
内府様方同百枚、綿百把。

右歸洛之御暇被下、拜領物被仰付ゐ、於御次之間、老中若狹守○酒井忠進。駿河守○植村家長。列座、出羽守○水野忠成。演達之。過而一同出座、御禮申上之、相濟而、

御白書院御向板緣

廣橋一位
甘露寺一位
冷泉前大納言
高倉中納言
藤谷右兵衛督
土御門陰陽頭
堤中務少輔
高倉大夫

閑院宮。妙法院宮。一乘院宮使者

扇子。　高倉大夫家老　粟津左衛門
同。　西地主水

右御目見、畢而御襖開之、御敷居際立御、御次伺公之面々一同御目見、畢而入御。

一、公方様内府様御位階御昇進ニ付、御太刀目錄閑院宮妙法院宮一乘院宮ゟ以使者被差上之、於柳之間謁出羽守駿河守。

御昇進ニ付、銀三十枚。時服三。　押小路大外記
同斷ニ付、銀二十枚。時服二。　平田中務少丞
同斷ニ付、同。　粟津因幡守
同斷ニ付、同斷ニ付、銀十枚。時服二。　青木内藏允
同。　鷹司關白殿使者　牧治部權少輔
銀十枚。時服二。　二條左大臣殿使者　隱岐播磨守
同。　伏見宮使者　後藤主馬少允
同ッヽ。　一條前關白殿使者　難波伊豫守
聖護院宮使者　雜務法眼
梶井宮使者　山本大藏卿
青蓮院宮使者　進藤刑部卿
九條右大臣殿使者　芝越中守
有栖川宮使者　藤木近江守
近衛内大臣殿使者　齋藤宮内少輔
仁和寺宮使者　矢守備後守
知恩院宮使者　進藤宮内卿

同ッヽ。　勸修寺宮使者　山口近江守
妙法院宮使者　松井民部卿
三寶院宮使者　北村長門守
大覺寺門跡使者　井關大藏卿
大乘院門跡使者　井上少將
廣橋一位家老　濱松阿波
甘露寺一位家老　坂上左内
高倉大夫家老　粟津左衛門
閑院宮使者　木村主計頭
一乘院宮使者　前田長門守
蓮華光院門跡使者　矢島石見守
實相院門跡使者　藏井坊法眼
隨心院門跡使者　本間民部卿
平野外記
藤木玄蕃
西地主水

時服二。　吉田侍從三位使者　鈴鹿河内守
銀拾枚。　樂人惣代　奥丹波守
同廿枚。　御冠師　木村出雲
同。　御烏帽子師　松木長門
同。　御末廣師　岡村越後

右御暇ニ付被下旨、於柳之間、出羽守申渡之。

一、御表ニ出御ニ付、爲伺御機嫌、御三家方尾張中將殿ゟ使者被差出之、於躑躅間、謁同人。
銀五百枚。　御使青山下野守
綿五百把。　鷹司右大將殿

殷昌期

右鷹洛之御暇被仰出ゐに付被遣之。

御生花一對。
鹽鴨一箱。

右御逗留中に付被遣之。

廿日○文政十年三月○中略。

御昇進に付、
日光御靈屋御名代。
四月廿日御名代発。

御位階に付、
日光御靈屋御名代。

右被仰付旨、於芙蓉間、老中列座、出羽守○水野忠成。申渡之。

但、日光御宮御名代酒井雅樂頭松平下總守之處、御服中に付、御免之旨、御靈屋御名代計。

廿一日○文政十年三月。

御使前田出雲守　勅使　院使
大宮使　女御使
同畠中務大輔　鷹司右大將殿
同今川刑部大輔　鷹司右大將殿
堀田相模守○正篤。名代柳澤治部少輔。
稲垣對馬守○長剛。
稲葉丹後守○正守。代リ

右明廿二日○文政十年三月。御馳走御能被仰付ゐ間、登城見物被在之ゐ樣、被仰遣之。

御使米津内藏頭　同溝口備後守
紀伊中納言殿○德川齊順。　水戸中納言殿○德川齊脩。

右明廿二日○文政十年三月。公家衆御馳走御能被仰付ゐ間、御登城御見物被在之ゐ樣、被仰遣之。○中略。

御目付觸

明廿二日○文政十年三月。公家衆御馳走御能有之、表向五時揃こゐ。

三月廿一日○文政十年。

追啓。明廿二日○文政十年三月。六半時御登城有之ゐ間、其以前に相揃ゐ樣御達可被申旨、下野守殿○青山忠裕。被仰渡ゐ。

廿二日○文政十年三月。

一、勅使院使大宮使女御使鷹司右大將殿御馳走御能被仰付ゐに付登城、殿上人、且紀伊殿水戸殿始溜詰、煩松平伯耆守、御譜代大名、高家諸衆、御奏者番、菊之間縁頰詰、右嫡子共、法印法眼之醫師登城、見物被仰付之。

一、今辰上刻、大廣間に公方樣内府樣出御、紀伊殿水戸殿御對顏、畢る御間之御襖開之、御次之間鷹司右大將殿勅使院使大宮使女御使殿上人御對顏、其外御次伺公之面々、一同御目見。畢る御能初ル。

御能初　增山河内守○正勤。之。

御能組

翁三番叟　彌太郎。

鶴亀風流　八右衞門。

開口　進藤榮太郎。

殷昌期

夫いや高きくらい山、みねさしのゝる朝日のけ、八島のゝのの國までも、あまねくてらす御代かれも、めでたのりゝる時とのや。

弓八幡開口　觀世太夫　權右衛門。　三太郎。　惣次郎。　長右衛門。　長藏。

間　脇　軫次郎。

末廣のり　仁左衛門。

田村　六平太。　孫七郎。　彦太郎。　甚太郎。　茂七郎。

間　日吉長六。

清水　雄吉。

羽衣　金春太夫。　源七郎。　清五郎。　助五郎。　市右衛門。　左吉。

石橋　寶生太夫。　万作。　清次郎。　九郎兵衛。　利右衛門。　惣右衛門。　兵助。　又六郎。　甚三郎。　勘兵衛。

祝言　勝藏。　茂十郎。

呉服。

一、御能三番過ぬ、要脚廣蓋有之。御中入、於二席々一御饗應、并御料理被下。

御白書院御上段　鷹司右大將殿。

同御下段　勅使。院使。大宮使。女御使。

紅葉之間　土御門陰陽頭。堤中務少輔。法印法眼之醫師。

檜之間　地下。攝家御門跡方使者。

蘇鐵之間　惣御振舞。

一、芝居之町人に折櫃御酒被下之。

一、御能相濟ぬ、如二今朝一、紀伊殿水戸殿御對顏。過ぬ御間之襖開之、御次之間鷹司殿勅使院使大宮使女御使殿上人御對顏。其外伺ひ之面々一同御目見。畢ぬ入御。

一、今日御能ニ付、御三家方〻御折一合ツヽ、紀伊大納言殿德川太眞殿尾張中將殿〻御檜重一組ツヽ、以二使者一被差二上之一、於二御能者一被差二上之一、於二躑躅間一、謁二出羽守一。○水野忠成。

一、右同斷ニ付、在府貳拾万石以上〻御折一合ツヽ、拾万石以上〻御檜重一組ツヽ、以二使者一差二上之一、於檜之間一、謁二間部下總守一。

廿五日○文政十年三月。

溝口伯耆守○直諒。　秋月筑前守○種任。

森佐渡守○長國。　松平長門守○池田定保。

——柳營日次記

右之今朝勅使院使大宮使女御使發駕ニ付、爲二御附一登城、於二帝鑑間一謁二老中一。

十八日○文政十年三月。御昇進大政大臣に任じたまひ、內府御位階從一位に叙したまふにより、五位以上のともがら束帶を着す。かくて白木書院へ兩御所出たまひ、高倉大夫出座して見えたてまつり、御所御裝束御衣紋、內府御衣紋の御式あり。次に土御門陰陽頭出座して見えたてまつり、兩御所御身固の事あり。次に三家のかたゞくはじめ、溜詰等見えたてまつり、大廣間へ出たまひ、勅使廣橋一位甘露寺一位、院使冷泉前大納

言、大宮使高倉中納言、女御使藤谷右兵衛督出席著座す。告使粟津因幡守庭上にあり、御昇進と呼ぶ事二。次に詔書覽箱に入れ、堤中務少輔持出て、水野出羽守請取て、御前に備ふ。御拜覽濟ませられて、御納戸構へ納められ、はて丶下段にして堤少納言に時服をたまふ。次に青木内藏少允宣旨覽箱に入持出て、押小路大外記に渡す。大外記より戸田備後守に渡す。備後守御前に備ふ。上覽濟ませられて、御納戸構へ堀田攝津守これを納め、從一位の御位記宮原彈正大弼持出で、内府上覽濟ませられて、御納戸構へ森川内膳正これを納む。御昇進により、御所へ禁裏より御太刀目錄黄金三枚綿百把、仙洞より御太刀目錄黄金二枚綿五十把、大宮より黄金一枚紗綾十卷、女御よりおなじく、内府へ禁裡より御太刀目錄黄金二枚、仙洞御太刀目錄黄金一枚、大宮より黄金一枚、女御よりおなじく、若君へ禁裏より御太刀目錄黄金黄金一枚、仙洞よりおなじく、大宮より黄金一枚、女御よりおなじく、御位階により、御所へ禁裏より御太刀目錄黄金二枚、仙洞より御太刀目錄黄金一枚、大宮より一種一荷、女御よりおなじく、内府へ禁裏より御太刀目錄黄金二枚、仙洞より御太刀目錄黄金一枚、大宮より二種一荷、女御よりおなじく、若君へ禁裏より二種一荷、仙洞より一種一荷、大宮女御よりおなじくまいらせらる。さて御昇進御位階により、攝家宮門跡勾當内侍の使、公卿、その家司らにいたりて見えたてまつり。ふたゝび白木書院に出たまひ、三家のかたがた御對面あり。溜詰、松平越前守松平三河守、松平豐後守、松平伯耆守見えたてまつり、黑木書院に三卿がた、紀伊太眞重倫卿、いづれも今日の御祝を申上らる。同じ御祝により攝家親王門跡使して、太刀目錄を進らせられ、宿老酒井若狹守植村駿河守これに謁す。また御臺所御簾中へ、おなじく御祝として、禁裏仙洞大宮女御より進らせものは、水野出羽守酒井若狹守請取りぬ。かくて公卿の旅館へ高家大澤修理大夫戸田土佐守横瀨駿河守御使して樽肴をおくらせらる。

十九日○文政十一年三月。京への御返詞仰せ進らせられ、公卿歸洛の暇賜はり、廣橋一位甘露寺一位冷泉前大納言は、兩御所より例の賜物ありて、別に御昇進御位階により、兩御前より物たまふ。その他公卿賜物また差あり。應司右大將の旅館へ御使して逗留をたづねられ、花生(はなお)鹽鯛をおくらせられ、又御使して歸洛のいとまあり、白銀綿をおくらせらる。御昇進御位階により、閑院宮妙法院宮一乘院宮使して、太刀目錄をまいらす。

二十二日○文政十一年三月。公卿饗應の猿樂あり。樂は、要脚廣蓋例の如し。席々にして料理を賜ふ。

——文恭院殿御實紀

廿五日○文政十一年三月。今朝參向の公卿發送あり。

公方樣御昇進内府樣御位階ニ付、町中家持も不及申、借屋店借裏々迄、火之用心之儀、取分ケ入念可申付ハゝ。尤表之間數ニ應し、手桶ニ水を入出し置、喧嘩口論堅不仕、万事相慎可申、此旨町中早々可相觸ハゝ。

三月十六日○文政十一年。

右之通、町中不殘可相觸ハゝ。

三月十六日○文政十一年。

十月十五日○文政九年。公方樣來春○文政十一年。相國御昇進、内府樣從一位御叙位御内意之旨被仰出。將軍家御在職四十年ニ被及、御功勞莫大ニ依て、相國御昇任、内府公從一位ハ可被綸旨、京都より被仰進、といへ共、相國も御重職近代御例も無之、殊ニ御辭任無御問ニ依て、御辭退被仰出之處、再應御懇切之叡慮默止難、被成御領肇の旨、京都ゟ被仰上ハ、右之趣刻德諸士ゟ於席々ニ達せらる。

三月三日○文政十一年。從京都格別の叡慮を以被仰進、依て將軍家御忌被爲解、土御門家御對顏。同○文政十一年三月。十八日公方樣被爲任太政大臣、内府樣被爲叙從一位。此日兩上樣御白書院ゟ出御、鷹司殿及勅使院使天宮使女御使御著座、御三家方始刻侯有、同(○文政十一年三月)廿二日、四月十五日十八日廿一日廿二日(○文政十一年)御祝儀御詰有之。

——泰平年表

金銀貨改鑄行賞

廿五日庚子（○文政十年（紀元二四八七年）三月○庚子、三正綜覽。）幕府老中沼津（○駿河國）城主水野忠成（○出羽守）等力、金銀貨改鑄ノ勞ヲ賞ス。（○柳營日次記。文恭院殿御實紀。）

金銀貨改鑄行賞事蹟

金銀貨改鑄行賞　左ノ如シ。

廿五日（○文政十年三月○中略。）

御座間、

時服十。

右金銀吹直し御用取扱いニ付、於御前拜領之。

廿六日（○文政十年三月○中略。）

時服三。

同二。

金銀吹直御用取扱いニ付被下之。

金三枚　時服三ツヽ。　御勘定奉行　村垣淡路守（○定行。）

同二枚　時服二ツヽ。　御勘定吟味役　館野忠四郎（○勝詮。）

同斷御用相勤いニ付被下之。

左於芙蓉間、老中列座出羽守（○水野忠成。）申渡之。（○中略。）

水野出羽守（○忠成。）

町奉行　榊原主計頭（○忠之。）　筒井伊賀守（○政憲。）

遠山左衛門尉（○景晋。）

明樂八郎右衛門（○茂材。）

金貳枚。

巻物五。

銀十枚。

金銀吹直御用相勤いニ付被下之。

右於奥相濟。

廿五日（○文政十年三月○中略。）水野出羽守金銀改鑄の事奉はりしにより時服を賜ふ。

廿七日（○文政十年三月。）金銀改鑄の事奉はりし町奉行榊原主計頭筒井伊賀守は時服、勘定奉行村垣淡路守遠山左衛門尉は黄金添て、その他同じ。吟味役右筆にいたりて、賜物差あり。　——文恭院殿御實紀

水野出羽守殿金銀吹替御用相勤いニ付、被蒙上意、拜領物之吹聽、尤歎斷之旨、大目付村上大和守申聞い事。　——鸞留

奥御右筆組頭　青木忠左衛門
同　格　大澤彌三郎
奥御右筆　田中龍之助

——柳營日次記

増上寺靈屋修理

廿六日辛丑（○文政十年（紀元二四八七年）三月○辛丑、三正綜覽。）幕府増上寺文昭院靈屋（○市内芝區。）其他ヲ修理シテ成リ、是日（○文政十年（紀元二四八七年）三月廿六日。）行賞ス。（○柳營日次記。文恭院殿御實紀。）

増上寺靈屋修理事蹟

増上寺靈屋修理　左ノ如シ。

廿六日（○文政十年三月○中略。）

時服三。

増上寺文昭院様御靈屋御構向瓦塀清揚院様御靈屋物御門其外御修復御用見廻り相勤いニ付被下之。

御作事奉行　佐野肥後守（○庸貞。）

殿昌期

右於同席、○英一幕間。列座同前、○光中列座。同人○水野忠成。申渡之。

銀十五枚。

同斷御用相勤ゆゑ付被下之。

同十枚。

同斷見廻り相勤ゆゑ付被下之。

右於御右筆部屋縁頰、同人申渡之。若年寄中侍座。

同十五枚。

同斷御用相勤ゆゑ付被下之。

右於鄭躅間、若年寄中出座、堀田攝津守○正敦。申渡之。

銀拾枚ツ、。

同五枚ツ、。

同三枚。

同五枚。

同二枚。

同斷ニ付被下之。

右於燒火間、林肥後守○忠英。申渡之。

御勘定　矢島大之進

御大工頭　金田藤七郎

御作事下奉行　江連小市右衛門

御被官　山田茂助

御徒目付　茂呂八左衛門

假役　平岡文次郎

假役　高木與一郎

勘定役　松田彌太郎

大棟梁　加藤郡兵衛

大棟梁見習　甲良吉太郎

大鋸　佐野豐次郎

——柳營日次記

三十間堀浚渫河岸築立

三十間堀浚渫河岸築立事蹟

廿七日○文政十年三月○中略。増上寺文昭院殿靈廟清揚院殿靈牌所修復の事奉はりし作事奉行佐野肥後守時服を賜ひ、所屬のともから賜物差あり。

——文恭院殿御實紀

廿七日癸酉○文政十年(紀元二四八七年)三月○癸酉、三正綜覽。是頃三十間堀○市内京橋區。ヲ浚渫シ、河岸築立ヲ爲ス。○撰要永久錄。

三十間堀浚渫河岸築立　撰要永久錄其他ニ據ル。

三拾間堀横川共浚幷兩岸通り築立石垣入用共、所に不響樣、浚方入用石垣入用共内ゝ見積書取調差出ゆ樣、文政八酉年七月ゟ樽吉五郎殿ニゟ、此方幷池谷權兵衛に内談ニ付、取調差出ゆ處、追ゝ川幅間數等相替り、同○文政。九戌年十二月十五日喜多村殿樽殿奈良屋殿立合ニゟ御談ニ付、同○文政九年十二月。十七日左之通見積書差出ス。酉年(○文政八年)以來差出ゆ見積書其外書留別冊ニ有レ之。

三拾間堀通川浚入用見積書

三拾間堀通り松村町ゟ木挽町七丁目迄

川中惣間數凡五百拾七間。

一、惣躰之川幅平均貳十三間ト積り、内左右貳間通埋坪ニ致、此分四間引、通船川幅拾九間。

一、浚方澪通り川幅拾間、深六尺。

一、同兩岸幅四間半宛。深三尺。

右澪通幅拾間長五百拾七間。

此坪數五千百七十坪。

浚方立坪壹坪ニ付銀貳十五匁。

但、〆切諸式其外足場等入用積り込。

浚銀高百貳十九貫貳百五拾匁。

兩岸四間半宛ニ付九間、長五百十七間。

此坪數四千六百五十三坪。

但、深サ三尺ニ付間、坪數半減。

貳千三百貳十六坪五合。

浚銀高五十八貫百六十貳匁五分。

貳口、

〆銀百八十七貫四百十貳匁五分。

此金三千百貳十三兩貳分、銀貳匁五分　下ケ札

小間九百七十間ニ割、
一小間金三兩銀十三匁貳分二厘。

一、石垣仕様、根切致、杭木松丸太貳間末口四寸、三ツ切ニ〆、六尺間ニ貳本宛打込、捨土臺松貳間尺角貳枚割石垣青間地石玄能合セニ仕、割栗石入、有來石半分用ゆ積ニ付、石工材木地形共一式高サ六尺。

壹間ニ付代銀百五十匁。

兩岸ニ付千三拾四間分、

此銀高百五十五貫百目。

此金貳千五百八十五兩。

右浚入用石垣入用共、

合金五千七百八兩貳分銀貳匁五分。

幅貳間通り埋坪地代積り

一、西之方三拾間堀壹町目ゟ八町目芝口金六町迄、

小間凡四百八拾五間、幅貳間通り。

此坪九百七十坪。

貸付地代壹ヶ月壹坪五分。

銀高四百八十五匁。

○壹ヶ年　銀五貫八百貳十匁。

一、東之方松村町ゟ木挽町七丁目迄右同斷、

貸付地代壹ヶ月壹坪五分。

銀高四百八十五匁。

○壹ヶ年　銀五貫八百貳十匁。

○印　二口合銀拾壹貫六百四拾匁。

此金百九十四匁。

下ケ札

小間九百七十間ニ割、
一小間百五十九匁八分九厘。

下ケ札

小間九百七十間ニ割、
一小間金五兩三分銀八匁壹分〇六毛。

○印　五ヶ年分　金九百七十兩。

右ゟ川幅十九間ニ致、兩岸貳間宛埋坪ニ致い凡積取調申上い。以上。

戊○文政九年。十二月　　南傳馬町新　右衛門　　銀座町權　兵衛

三拾間堀通續

水谷町ゟ白魚屋敷迄川浚入用見積書

水谷町ゟ白魚屋鋪眞福寺橋迄、

川中惣間數凡百六拾五間程。

一、惣躰之川幅凡平均貳十間と積、水谷町白魚屋敷地先貳間通埋坪ニ致、通船川幅十八間。

一、浚方澪通川幅十間、深サ六尺。

一、同兩岸幅四間宛、深三尺。

右澪通り幅十間長百六十五間。

此坪千六百五十坪。

浚賃立坪壹坪ニ付銀貳十五匁。

但、メ切諸式其外足場等入用積込。

浚銀高四十壹貫貳百五十匁。

兩岸四間宛ニゟ幅八間、長百六十五間。

此坪數千三百貳十坪。

但、深サ三尺ニ付坪數半減、六百六拾坪。

浚銀高拾六貫五百目。

貳口メ銀五十七貫七百五十匁。

此金九百六十貳兩貳分。

一、石垣仕樣、根切致、杭木松丸太貳間末口四寸三ツ切ニメ六尺間ニ貳本打込、捨土臺松貳間尺角貳枚割石垣壽間地石玄能合セニ仕、割栗石入有來石半分用い積ニゟ、石工材木地形共一式。

高サ六尺壹間ニ付代銀百五十匁。

長延百五十四間。

此銀高貳十三貫百目。

此金三百八十五兩。

此川筋之儀、折廻しニ相成いニ付、澪通ニゟハ凡百六十五間程ニ有レ之い得共、岸通埋立地可ニ相成一分ゑ間數相詰り書面之通御座い。

右之外向側松村町之分ゑ埋立無之、有來岸通迄浚方仕いニ付、新規石垣入用相掛不レ申い得共、物揚場又ゑなゑれ地ニ相成い場所凡貳十五間程相見に、此分土留柵仕い見積高、

金拾八兩三分。

但、小間壹間ニ付銀四十五匁宛。

右浚入用石垣入用幷柵共、

合金千三百四拾六兩壹分。

一、水谷町白魚屋鋪地先幅貳間通長凡百五十間埋立之内會所地之分十貳間引ゑ之、殘ゟ、

長凡百三十八間、幅貳間。

此坪貳百七十七坪。

有來河岸並之姿ニ付、土藏物置計御免、冥加金壹坪ニ付銀五分宛上納之積。

壹ケ月金貳兩壹分銀三匁五分。

金貳十七兩貳分銀十貳匁。

右之三拾間堀續水谷町白魚屋敷眞福寺橋迄川浚幷埋立地上納高見積、前書之通御座い。以上。

戌（〇文政十年）十二月　　權兵衛　新右衛門

其後度々尋有之、調濟之上、御奉行樣ゟ申上ニ相成、御下知濟ニ付、文政十亥年三月廿七日南御番所ニ

鈴木町名主源　新兩替町同權兵衛　南傳馬町同新右衛門　七　北紺屋町同安右衛門　佐兵衛　五郎兵衛町同五郎兵衛

被召出、左之通被仰渡い。

此度三十間堀通横川共浚幷河岸築立被仰付い、右御普請中、御勘定方立合附切相勤い樣、上役下役幷町年寄一同ニ被仰渡い。依之爲御用弁、其方共日々場所ニ相詰、掛り之その差圖を請、入念相勤可申い。若雨天等ニ付御普請休日之節、且平常共申合、夜中も無油斷場所見廻り、不取締之儀無之樣可心付い。

右之趣御奉行ニ相伺い上、申渡ス。

亥（〇文政十年）三月廿七日於當番所中村八郎左衛門生田祐九郎向方秋山幸八立合申渡ス。

御普請御掛り名前左之通、

南上役中村八郎左衛門殿。生田祐九郎殿。下役平野勝五郎殿。中田平左衛門殿。小川吉太夫殿。人見脩助殿。小倉朝五郎殿。

北上役嶋喜太郎殿。秋山幸八殿。下役山田三助殿。塚本助太夫殿。大芦五郎右衛門殿。吉野勝十郎殿。早川李之助殿。喜多村彦右衛門殿。奈良屋市右衛門殿。樽吉五郎殿。

御勘定平林太郎右衛門殿。御普請役上川傳之進殿。同見習吉川斧三郎殿。大木猪平太殿。

一、亥（〇文政十年）三月廿八日三拾間堀通横川共御見分有之、兩岸間數幷川幅御改有之、右扣別ニ有之、御掛り一同御出役、掛り同役も一同出役、其節川浚仕樣書幷兩河岸繪圖惣間數共取調差出い樣、樽吉五郎殿新右衛門權兵衛ニ御談ニ付、仕樣帳繪圖面仕立、四月八日（〇文政十年）差出ス。

朱書　亥（〇文政十年）四月十八日喜太夫を以上ル。

三拾間堀浚幷河岸築立御用中出役仕い名主共野羽織着用之儀申上い書付

書面伺之通承置可レ申旨被二仰渡一、奉二承知一ニ付

亥（〇文政十年）四月十九日

因幡町名主源　新兩替町同權　佐兵衛　南傳馬町同新右衛門　七　新兩替町同權兵衛　北紺屋町同安右衛門　五郎兵衛町同五郎兵衛

川浚掛出役

右も三十間堀通浚幷河岸築立御用中出役爲仕ゐ儀、先達る伺之上申渡ゐ。然ル處前ニ川浚橋御普請等之節出役名主共野羽織着用仕ゐニ付、此度も右之もの共野羽織着用仕度旨申出ゐ例も御座ゐ間、承置可ㇾ申哉。此段奉伺ゐ。以上。

文化五辰年二月日本橋通其外川浚之節出役仕ゐ名主共、野羽織着用仕、同年○文化五年。六月永代橋新大橋御普請之節、右橋懸り幷出役名主共、野羽織着用仕ゐ。

中村八郎左衛門　生田祐九郎
島喜太郎　秋山幸八
喜多村彦右衛門　奈良屋市右衛門
樽藤五郎

亥（○文政十年）四月

一、亥○文政十年。四月十八日夕七ツ時樽吉五郎殿ニ申合、兩三人可ㇾ出旨ニ付、新右衛門權兵衛佐兵衛罷出ゐ得ㇾ、先達る申立ゐ川浚御普請中、野羽織着用之儀申上ゐ處、御伺濟ニ相成ゐ間、着用可ㇾ致旨被ㇾ申渡ゐニ付、翌十九日上役下役御掛りニ手札持參、一同罷越ゐ。且十八日川添町々名主善右衛門清左衛門七左衛門五郎左衛門儀、川浚御用中萬端心付ゐ樣、同所ニ る被ㇾ申渡ゐ。

一、同五月二日南御番所ニて入札開キ、御掛り一同御出勤ニ付、安右衛門權兵衛新右衛門佐兵衛出勤、五番札迄左之通。○仕樣帳繪圖面捻別ニ有。

壹番札
一、金四千八百三拾八兩　　淺草北馬道町治兵衛店　忠七

貳番札
一、金五千壹兩　　船松町壹丁目家主　新兵衛

三番札
一、金五千三百八兩貳分　　駒込淺嘉町久兵衛店　半次郎

四番札
一、金五千三百八拾九兩貳分　　本八丁堀三丁目甚兵衛店　新助

五番札
一、金五千六百四十九兩貳分　　船松町壹丁目喜兵衛店　政右衛門

一右入札人身元御糺有ゐ之ゐ處、四番札迄不相當ニ付、五番札政右衛門ニ御普請請負被ㇾ仰付ゐ。

一、六月十八日○文政十年。夕同廿一日迄川中澪通兩岸共見盤杭出來。

一、六月廿日○文政十年。迄ニ御小屋場出來ニ付、同廿一日御掛り方惣出大メ切取掛ゐ旨、請負人申立ル。

一、三拾間堀壹丁目河岸沿地之場所三百五十九間餘有ゐ之、臨時增御入用相願ゐニ付、願之通金七百貳兩永百文七分被ㇾ下置ゐ旨、亥○文政十年。十一月十二日被ㇾ仰渡ゐ。

一、文政十一子年三月十七日伊賀守樣○筒井政憲。御見分之節、川内御見廻り前於御小屋場ニ、左之通御口演被ㇾ仰渡ゐ。

其方共儀、三十間堀通川浚皆出來之處、兩側法通り不ㇾ宜場所有ゐ之ニ付、爲ㇾ相直ゐ砌、一昨十五日○文政十一年三月、人足不足ニ る差掛り人足共呼上ケ之儀、頭取共ニ爲ㇾ申付ゐ處、時刻を不ㇾ移、多分之人足差出、其上ろ組人足頭取太郎兵衛新太郎源四郎、せ組同斷三右衛門万吉、も組同斷市右衛門太郎吉万五郎、め組同斷大次郎力藏平兵衛、す組世話人長兵衛半次郎儀、及深更ゐ迄附添、格別骨折、其方共も同樣差配致ゐ段、右

場所も存込ゟも早ク出來致い段、畢竟平日其方共と頭取共に、頭取共も下方人足共に申付方行屆い故之儀ゟ一段之事ニい。依ゟ之譽置。

但、頭取共にも、其方共ゟ可申聞。

右之通被仰渡いニ付、御掛り方に御禮申、翌十八日○文政十一年三月。銀座貳丁目藤岡ゟ申水茶屋に人足頭取共呼寄、池谷富澤坂部村田此方立合申渡い。

一、子○文政十一年。三月十九日御奉行様其外御役人方、朝五ツ時御小屋場に御揃ニ成、五半時頃出來形御見分相濟い。

町御奉行筒井伊賀守様。○政憲。御勘定御奉行村垣淡路守様。○定行。御勘定組頭竹内平之丞様。御勘定太田彦助。支配勘定出役卯木武十郎。御普請役河嶋小七郎。同見習内藤卯七郎。御目付會根内匠様。○次孝。御徒目付小田又七郎。加藤鎌藏、御小人目付齋藤榮助。木村龜五郎。永田忠左衛門。御使平馬嘉七。馬橋助衛門。

一、御見分相濟い段、御奉行様ゟ出羽守様○水野忠成。に被仰上ニ相成い旨、翌廿日○文政十一年三月。請負人に被仰渡い。

一、子○文政十一年。五月十五日麻上下着用、伊賀守様○筒井政憲。に可罷出旨掛り御役人方被仰聞いニ付、罷出い得ゝ、左之通被仰渡、御手當被下置い。

因幡町名主	源七	北紺屋町同	安右衛門
新兩替町同	權兵衛	五郎兵衛町同	佐兵衛
南傳馬町同	新右衛門	五郎	兵衛
木挽町同	七左衛門	出雲町同	五郎左衛門
白魚屋敷同	善右衛門	水谷町同	清左衛門

其方共儀、三拾間堀通川筋横川共浚、并河岸築立御用ニ付、源七外五人出役申渡置い處、右川筋之内ニも沼地有之、日々早朝ゟ罷出、及深更い迄附添居、一同出精致し相勤いニ付、爲手當壹人に金三兩宛、權兵衛新右衛門儀も、出役不申渡いゝ以前ゟ御用向取扱骨折い間、別段金五百疋宛、源七外三人儀も、是又骨折相勤いニ付別段金三百疋宛、七左衛門外三人儀も銘々、支配場も有之、御普請中諸事心付い樣申渡置い處、出役名主同樣相勤骨折いニ付、七左衛門外兩人にも金五百疋宛、五郎左衛門儀ハ同三百疋差遣ス。

右之通御手當被下いニ付、兩御廣間并掛リ役人方町年寄に御禮罷出い。

右御普請中、日記繪圖面其外書留。別帳ニ委細有之。

三拾間堀通り横川共兩岸築立川浚御普請中出役并御褒美

鈴木町名主	源七	北紺屋町同	安右衛門
新兩替町同	權兵衛	五郎兵衛町同	佐兵衛
南傳馬町同	新右衛門	五郎	兵衛

此度三拾間堀通横川共浚并河岸築立被仰付いニ付、右御普請中御勘定方立合附切相勤い樣、上役下役并町年寄一同に被仰渡い。依ゟ之爲御用弁、其方共日々場所に相詰、掛り之者差圖を請、入念相勤可申い。若雨天等ニ而、御普請休日之節、且平常共申合、夜中も無油斷場所見廻り、不取締之儀無之樣可心付い。

右之趣御奉行に相伺ひ上申渡ス。

右之通文政十亥年三月廿七日筒井伊賀守様○政寛。於御番所ニ、中村八郎左衛門殿生田祐九郎殿兆秋山幸八殿立合ニ而被申渡ヒ。

但、去々酉年○文政八年。以來、河岸築立間數、川浚仕様凡入用見積共、町年寄掛りニ而、此方○高野新右衛門。池谷兩人に内調有ヒ之、度々書上扣、御普請中御用日記繪圖面共、別帳ニ有之。

一、同○文政十年。四月十八日掛り同役之内、新右衛門・權兵衛・佐兵衛・樽吉五郎殿に被呼、先達而申出ひ川浚御用中、野羽織相用ひ分、御伺濟之段被申渡ひニ付、相掛りに申通ひ。

朱書 亥（○文政十年）四月十八日喜太夫を以上ル。

三十間堀浚并河岸築立御用中出役仕ひ名主共野羽織着用之儀申上ひ書付

書面伺之通承置可申旨被仰渡、奉承知ひ。

亥（○文政十年）四月十九日

川浚掛出役

因幡町名主
源七外五人名前。

右ハ三拾間堀通浚并河岸築立御用中出役爲仕ひ義、先達而伺之上申渡ひ。然ル處前々川浚橋御普請等之節、出役名主共野羽織着用仕ひニ付、此度も右之もの共野羽織着用仕度旨申出ひ例も御座ひ間、承置可申哉、此段奉伺ひ。以上。

文化五辰年二月日本橋通其外川浚之節出役仕ひ名主共、野羽織着用仕、同年○文化五年。六月永代橋新大橋御普請之節、右橋懸り并出役名主共、野羽織着用仕ひ。

亥○文政十年。四月

中村八郎左衛門　生田祐九郎
嶋喜太郎　秋山幸八
喜多村彦右衛門　奈良屋市右衛門
樽吉五郎

文政十一子年三月十七日筒井伊賀守様川内御見分之節、於御小屋場、左之通被仰渡ひ。

掛り名主　川添名主

其方共儀、三十間堀通川浚皆出來之處、兩側法通り不宜場所有ヒ之ニ付、爲相直ひ砌、一昨十五日○文政十年三月。人足不足ニ而差掛り人足共呼上之儀、頭取共に爲申付ひ處、時刻を不移、多分之人足差出、其上ろ組人足頭取太郎兵衛新太郎源四郎、せ組同斷三右衛門方吉、も組同斷市右衛門太郎吉方五郎、め組同斷大次郎力藏平兵衛、す組世話人半次郎長兵衛儀、及深更ひ迄附添、格別骨折、其方共も同様差配致ひ段、右場所も存込ゟも早く出來致ひ段、畢竟平日其方共む、頭取共に、頭取共む下方人足共に、申附方行屆ひ故之儀ヒ、一段之事にひ。依之譽置。

但、頭取共にハ、其方共ゟ可申聞。

右之通被仰渡ひニ付、御掛り方に御禮申、翌十八日○文政十年三月。新兩替町富士岡ヒ申茶屋に人足頭取呼寄、右被仰渡之趣申渡ひ。

一、三月十九日○文政十一年。出來形御見分相濟ひ。

殷昌期

一、同○文政十一年。五月十五日筒井伊賀守様○政憲。に被召出、左之通被仰渡、御手當被下ゆ。

因幡町名主源七　北紺屋町名主安右衛門
新兩替町同權兵衛　同佐兵衛
南傳馬町同新右衛門　五郎兵衛町同五郎兵衛
木挽町同七左衛門　出雲町同五郎左衛門
白魚屋鋪同善右衛門　水谷町同清左衛門

其方共儀、三十間堀通川筋横川共浚并河岸築立御用ニ付、源七外五人出役申渡置ゆ處、右川筋之内ニも沼地有之、日々早朝ゟ罷出、及深更ゆ迄附添居、一同出情致相勤ゆニ付、爲手當、壹人に金三兩宛、權兵衛新右衛門義も、出役不申渡以前ゟ御用向取扱骨折ゆ間、別段金五百疋宛、源七外三人義も是又骨折相勤ゆニ付、別段金三百疋宛、七左衛門外三人義も、銘々支配場も有之御普請中諸事心付ゆ様申渡置ゆ處、出役名主同様相勤骨折ゆニ付、七左衛門外兩人にも金五百疋宛、五郎左衛門儀も同三百疋差遣ス。

右被仰渡相濟、兩御廣間に御禮申上、夫ゟ御掛り方に廻勤。

三日○文政十一年五月。

時服三。

——撰要永久錄

三拾間堀横川共浚、并河岸築足(ママ)御普請中見廻相勤ゆニ付被下之。

町奉行筒井伊賀守○政憲。

右於芙蓉間、老中列座、下野守○青山忠裕。申渡之。

屋鋪受授

屋鋪受授事蹟

前田齊泰

銀拾枚。

同斷御用相勤ゆニ付被下之。

右於躑躅間、出羽守○水野忠成。申渡之、林肥後守○忠英。侍座。

——柳營日次記

三日○文政十一年五月○中略。町奉行筒井伊賀守三十間堀の横川浚利檢視の事奉はり、○中略。時服を賜ひ、○下略。

——文恭院殿御實紀

四月十一日丙辰○文政十年(紀元二四八七年)○丙辰、三正綜覽。屋鋪地ヲ受授ス。外ニ是月○文政十年(紀元二四八七年)四月。若干屋鋪ヲ受授ス。○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。相對替御書附書拔。

屋鋪受授　文政十年四月左ノ屋鋪ヲ受授ス。

圖○略。

本郷六丁目　松平加賀守圍込拜借地道式共坪數四百九坪餘。

〃　松平加賀守持火除明地坪數六百六拾三坪餘。

溶姫君樣御住居出來ニ付、本郷五町目六町目町屋取拂之段相伺置ゆ場所之内、此節町屋取拂跡并道式共千七拾貳坪餘之内ニ而、御土藏建所之分四百九坪餘、圍込拜借地ニ被成御渡、殘六百六拾三坪餘も加賀守○前田齊泰。持火除明地ニ被成御渡之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取ゆ。爲後日仍如件。

文政十亥年四月十一日

松平加賀守内　長瀨善左衛門印

支配勘定　平林太郎右衛門

御普請方下奉行
菅沼給左衛門殿
同改役勤方
中島八郎殿
御普請方
近藤謙吉殿

御普請奉行初鹿野河内守（〇信政）渡レ之。

出役、御普請方同心肝煎役川村吉藏、同同心青木作次郎、綱代五助、鈴木次兵衛、星野岩太郎、同假役上野仁三郎、同地割棟梁中村三左衛門、上野彌太夫、河合正助、平野定次郎、同屋棟梁飯塚孫兵衛。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立會い處、御改之通相違無御座ニい。爲後日仍如件。

松平加賀守内
長瀨善左衛門印

圖〇略。

本郷　坪數八百七拾七坪壹合七勺。

南東　道、松平加賀守屋鋪。　西北　道、本郷五丁目六丁目。御住居御門道。

南東　京間四十四間四尺九寸。同貳十間四尺。　西北　京間四十間三尺四寸。同貳十間壹尺。

溶姫君樣御住居御土藏建所本郷五丁目六町目八百七拾七坪餘、此度町屋取拂之分、御普請奉行方ニ御渡被成、右繪圖面、朱引之通、四方間數、相違無御座請取申い。爲後日仍如件。

文政十亥年四月十一日

村井專右衛門殿
米倉作次郎殿

御普請方
近藤鎌吉
同改役勤方
中島八郎
同下奉行
菅沼給左衛門

圖〇略。

小石川堀留　御小性土方大内記屋鋪坪數四百坪。

南東　交代寄合溝口修理。御作事奉行佐野肥後守。　西北　道。道。

南東　十九間壹尺。貳拾壹間。　西北　十九間貳尺。貳十間貳尺餘。

小石川堀留平岡越中守上地四百坪、今度願之通大内記屋鋪引替拜領仕、被成御渡之、四方間數、御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座奉請取い。爲後日仍如件。

文政十亥年四月廿四日

御普請方下奉行
増田源三郎殿
同改役勤方
中島八郎殿
御普請方
近藤鎌吉殿

御小性土方大内記内
金子半左衛門印

御普請奉行初鹿野河内守（○信政）渡レ之。外御用ニ付出席無レ之。

出役、御普請方同心肝煎役川村吉藏、同同心鈴木治兵衛、同地割棟梁中村三左衛門、平野定次郎。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合い處、御改之通相違無御座い。爲後日仍如件。

交代寄合溝口修理内
太田長左衛門印
御作事奉行佐野肥後守内
敷山儀助印

圖○略。文政十亥年十月三日森泰次郎中村金右衛門ヒ渡。

本所石原　甲府勝手小普請一柳近江守支配荻原作之助上地坪數百九拾三坪餘。

東南道。　東西十四間三尺。
南北道。　北西十三間貳尺。

小普請組神尾豐後守支配佐久間庄太郎。
小普請組長井五右衛門組池原五郎吉、道。

本所石原元御藏屋敷跡甲府勝手小普請荻原作之助殿上地百九拾三坪餘、佐久間庄太郎ニ被成御預之、四方間數、御繪圖之通、相違無御座奉預い。尤御預地内家作等一切仕間敷旨被仰渡、奉畏い。爲後日仍如件。

文政十亥年四月十四日

御普請方下奉行
菅沼給左衛門殿
同改役
森川八兵衛殿

小普請組神尾豐後守組佐久間庄太郎内
城儀兵衛印

佐久間庄太郎

御普請方
吉際源藏殿

出役、御普請方同心肝煎役川村吉藏、同同心青木作次郎、同地割棟梁河合正助。

前書御繪圖之通、屋鋪境目立合い處、御改之通、相違無御座い。爲後日仍如件。

小普請組長井五右衛門組
池原五郎吉印
同神尾豐後守支配佐久間庄太郎内
城儀兵衛印

圖○略。

大久保谷町通　甲府勝手小普請板倉筑後守支配渡邊長三郎上地坪數百五拾八坪。

東南道、式部卿殿用人小笠原主水。　西北御膳奉行夏目勇次郎、小普請組太田内藏頭組吉田長次郎。
東北道。　西南御目見持格表火之番依田鐐次郎。

東南貳間三尺。　西北十六間壹尺餘。
東北十九間三尺。　西南十七間。

大久保谷町通甲府勝手小普請渡邊長三郎殿上地百五拾八坪餘、夏目勇次郎ニ被成御預之、四方間數、御繪圖之通、相違無御座奉預い。尤御預地内家作等一切仕間敷旨被仰渡、奉畏い。爲後日仍如件。

文政十亥年四月十六日

御普請方下奉行
菅沼給左衛門殿
同改役
森川八兵衛殿
御普請方
吉際源藏殿

御膳奉行夏目勇次郎内
木村覺藏印

夏目勇三郎